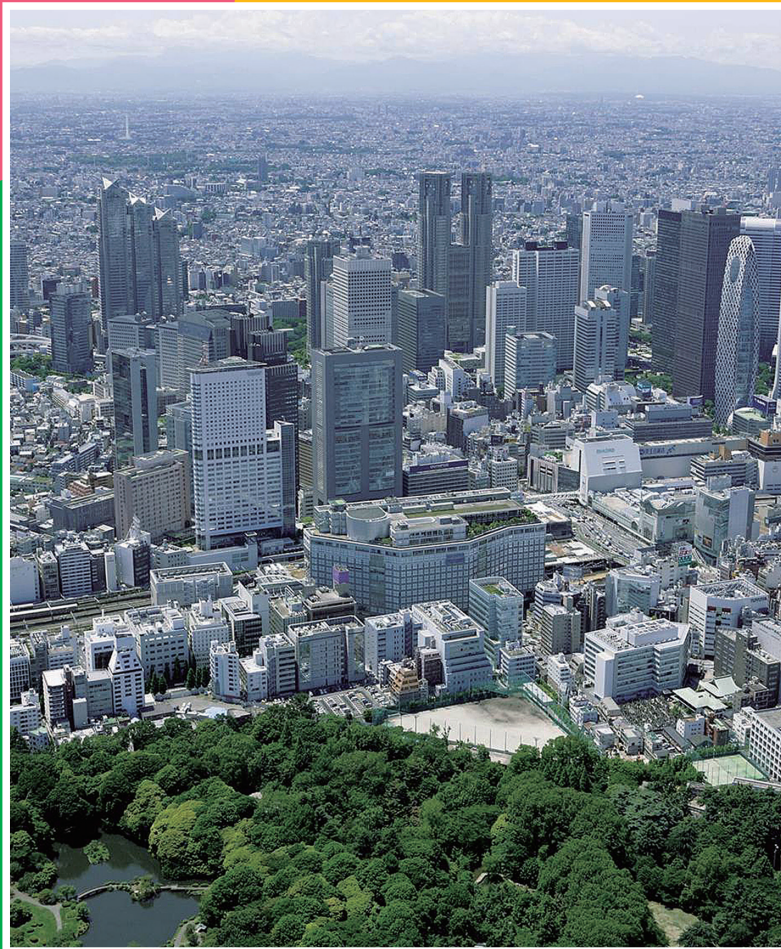




朝陽

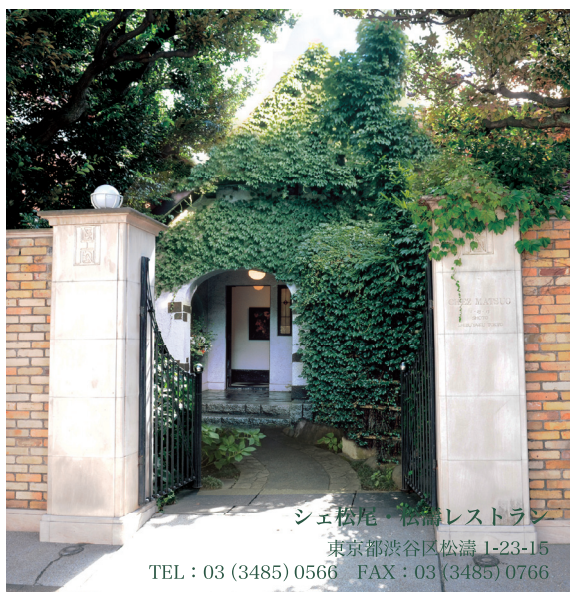


No.65
2016 May

東京都立新宿高等学校(旧府立第六中学校)朝陽同窓会

CHEZ MATSUO

シェ松尾のお食事・ご宴会・ご婚礼



シェ松尾・松尾レストラン

東京都渋谷区松濤 1-23-15

TEL : 03 (3485) 0566 FAX : 03 (3485) 0766



シェ松尾・青山サロン

東京都渋谷区渋谷 1-2-5 アライブ美竹 B1F

TEL : 03 (3407) 1230 FAX : 03 (3407) 1080



シェ松尾・天王洲倶楽部

東京都品川区東品川 2-2-8 スフィアタワー天王洲 27F

TEL : 03 (5783) 2411 FAX : 03 (5783) 2412



グランファミーユ・シェ松尾

東京都世田谷区成城 6-5-34 成城コルティ 4F

TEL : 03 (5429) 1131 FAX : 03 (5429) 1132

お問い合わせ

株式会社 ボンサンテ

TEL : 03 (6868) 6759 FAX : 03 (6868) 6021

E-MAIL : umezawa@bonnesante.co.jp

代表取締役 梅澤 博 (23 回卒)

会長挨拶

異業種集団のさらなる連携強化

― 多士済々の朝陽同窓会を
活用しよう ―

朝陽同窓会会長 垂水 尚志(15回)



任期満了により五
月の総会をもって会
長を退任いたします。
これまでの皆様のご
協力に対し心より感
謝いたします。

標題は二年間の会長活動から得た結論で
あり、青柳前会長が提唱された「朝陽同窓
会に新たな文化の息吹を」を受け、これを
推進するための方策の一つとして強調して
きました。

母校の創立百周年は連携強化の好機です。
昨年春、創立百周年記念事業の募金活動を
開始し、昨年末には事業の成功を願ひ決起
集会を開催しました。幅広い会員の参加を
得ることができ事業の成功を確信しました。
現在、約九百名の会員からご寄付をいただ
いております。目標の額にはほど遠い状況
であり皆様の引き続きのご支援を期待して
おります。

さて、同窓会の活性化には若い会員の増

加が必要であり同窓会への入会を働きかけ
てきました。学校側のご努力もあり、昨年
の新生から同窓会入会金を三年分割で前
払いしていただく制度ができ、新規会員が
増加する可能性ができました。

一方、多士済々の集団としては、母校の
応援や会員間の親睦を深めることに加えて、
異業種集団としての特徴を活かした活動を
推進すべきであると思います。同窓会を活
用するという視点も重要です。同窓会活動
がビジネスにつながるものがあっても良い
でしょう。特に若い会員にはこうした考え
を持ち、同窓会により活発な運営を心掛け
ていただきたいと思います。知恵を出せば
面白い活動ができます。例えば、キャリア
ガイダンス、講演会、シンポジウム等で、
理系・文系、指導者の条件、日本の将来、
スマート国家、技術立国、農業再生、健康
寿命百歳の条件等のテーマをとりあげ、聴
衆として在校生、保護者、同窓会員とその
家族に範囲を広げ、さらに公開にするなど
の工夫をすれば同窓会活動がより有意義で
魅力あるものになります。種々の分野のコ
ンサルタントを結成するのも面白いと思い
ます。

新たな体制のもとで朝陽同窓会が発展す
ることをお祈りします。

平成 28 年度総会議事＜役員改選＞

新任・退任

会 長 新任 田中 俊郎 (17 回) 退任 垂水 尚志 (15 回)
副 会 長 新任 小野 瑞城 (34 回)

再 任

副 会 長 菊池 光興 (14 回)、橋本 健一 (19 回)、宮崎 直道 (24 回)
龍岡 友子 (24 回)、濱名 正二 (24 回)、宮坂 雅子 (27 回)
幹 事 長 吉村 悟 (7 回)、
監 事 山本 展也 (27 回)、島崎 主税 (28 回)

名誉会長 村上 光一 (10 回)
顧 問 橋本 恵堅 (9 回)、垂水 尚志 (15 回 新任)

卒業二十周年…… 私たちの経過した高校時代

四八回生同窓会より

48回

平成二十七年九月十二日、卒業二十周年を前に同窓会を開催しました。四九名の個性豊かな同級生、二名の先生方が集まり、旧交を温めることができました。

卒業後交流があったA組橋本祐造さん、G組宮腰聖子さんとその年の正月から準備を進めてきました。「同窓会をやってみたい」お二人に話すと、アイディアを一緒に考えてくれました。公私忙しくともトラブル起きようと、作業を買って出たり前向きに考えいろいろ教えてくれたりしたお二人の姿に、心から見習いたいと思いました。本当にいい友達です。

今回本文で寄稿の皆様も、同窓会場で突然お願いしたものでした。ここに掲載した集合写真を撮影した直後にその場で私からご指名致しました。今回の同窓会の感想と高校時代の思い出をテーマと致しました。皆様大層驚かれましたが、快く引き受けて下さり、年始に原稿をお寄せ頂きました。本当にいい同級生です。

思えば、原稿をお願いすることも二十年

ぶりとなります。

生徒会誌「轍」三九号の編集長をして以来です。図書委員会では「図書ニュース」、戸山戦の時は臨時新聞記者をしました。主な編集作業場所は、その形状から「金魚鉢」といわれた図書司書室でした。ガラス張りの部屋で金魚のように動き回り、ついたあだ名が「図書室の女将」友達・先輩とのおやつ、勉強も司書室の机でした。本当にいい思い出です。

ところで去年、私はキャリアガイダンスにて母校で講演いたしました。六九回生・七十回生の皆様と、在学中・社会人生活で学んだことをシェアする機会を頂きました。二十年前の私と同様縄跳びや雨の中の水泳授業を受け、疲れを隠せないのに真直ぐな眼差しを向ける在校生。その姿にいつでも振り子のように楽しかった学生生活に戻る様な気がしました。

去年たぐさんの母校の方と出合い・再会致しました。前向きで柔らかな知性を兼ね備えた魅力的な方ばかりでした。



同窓会幹事のお二人、寄稿の皆様、在校生で去年出会った方、そしてお世話になっ

ている朝陽会の皆様、教職員の皆様、ありがとうございました。皆様と私を結び付けた母校は、誇りです。新たに認識した一年でした。

また、素敵な年月が積み重なりますように。

(代表幹事 B組 近藤 由香里)



笠原先生

A組 須田 健太郎

ある日、父が顔面蒼白で帰宅した。深刻な表情で母と長い話をする――

「共同経営者が、会社の資金と共に姿をくらました」

一九九三年、バブル崩壊。日本経済は音を立てて崩れ落ちた。

私の高校生活はそんななか始まり、入学後しばらくして冒頭の事件が始まる。こうして我が家も、あっけなくその崩壊の余波に飲み込まれていった。学生の二人の息子と幼児の末っ子を抱えた一家の大黒柱が職を失ったのだ。

やむを得ず私は母と離別した実父の家に

転がり込んだり、兄と同居したりと慌ただしい三年間を過ごした。当時流行っていた「同情するなら金をくれ!」というセリフも、思春期のささくれ立った胸にいちいち引かなかった。

現在、私は広告代理店でAD(アート・ディレクター)をしている。得意な絵が活かせる職として、博報堂のADだった同級生の父親の仕事に興味を持ったのが切っ掛けだった。

だから卒業後はADへの第一歩として美術大学を志望し、高三になって準備を始めた。そこで、「美術系予備校」の存在を知る。美術大学の受験生のほぼ全員が通うと言っても過言ではないとのことだった。

しかし授業料が高く、我が家ではとても通わせてもらえなかった。

小さい頃から絵が好きで、小中学生の頃絵画教室にも通っていたので画力に自信はあったが、受験を前に不安は募っていた。

ある放課後、ひよんなことから美術の笠原先生と進路の話になった。美術大学に行きたいと言うと、予備校には通っているのかと聞かれた。通っていないとぶつきらばうに返事をする私の目を覗き込むように、「そしたら、明日から毎日、放課後ここ(美術室)へ来て絵を描きなさい」と、決心したような口調で言ってくれた。

春、第一志望の美術大学に合格することができたのは、まぎれもなく笠原先生のご指導のおかげだ。この場を借りて、改めて心よりお礼をしたい。

先生、本当にありがとうございました！合格の報告に行った際、抱きついて喜んでくれる先生が、親戚のおばさんのように思えて微笑ましかったのを、今でも昨日のことのように覚えている。



同窓会を通じて痛感したこと

C組 諸橋 護易

平成二七年九月。私が新宿高校を卒業して以来、初めての同窓会が行われた。ひよつとしたら、それ以前にも行われていたのかもしれないが、少なくとも私に連絡が来たのは、これが最初。卒業から約二十年経つてのことだ。

早々に『出席』で返信し、当日は期待九割に不安一割の心境で会場へ向かった。期待が大きかった理由は単純で、高校時代こそが人生で最も楽しかった時期だったからだ。特に最後の二年間は大笑袋でなく輝い

ていたと思う。臭い言い方をすれば、決して忘れられない寶石箱みたいな時間だ。優等生でも、真面目でも、部活命でも、不良でもなかった私は、似たような友達と毎日遊んでばかりいた。それは今から思えば本当に下らない遊びばかりで、とても文字に起こすことは出来ない。だが、違法でも異性絡みでもなく、非常に健全な高校生だったと思う。よく「思い出は美化される」と言うが、私は当時から、この時間が永遠に続けばいいのにと願っていた。そのためか、卒業する日は本当に辛く、式の記憶は驚くほど残っていない。

同窓会は、あの頃の楽しかった時間の針を再び動かすことになるだろう。そんな気持ちだが、私の頭の九割を占めていた期待だった。もちろん、見た目は変わっているはず。男も女も平等に老けているに違いない。だが、それでもひとたび言葉を交わせば、新宿高校なのに住所は渋谷区だったあの時代へタイムスリップして、腹の底から笑えるに違いない。そんな風に思っていた。しかし、実際にはそうはならなかった。二十年という時間は、皆の外見だけでなく、内面までも変えていたのだ。酒を酌み交わしながら、話題は仕事のこと、家庭のこと、子供の学校のこと。深さや濃さの違いはあれど、皆が当たり前に大人になっていた。

それは「懐かしいな」という言葉を繰り返す私自身も同じだった。

家への帰り道。私は今更ながら〈あの時間〉が終わっていたことを悟った。これからは思い出は思い出として大切にし、年相応に、現在進行形の友情を旧友たちと深めていこうと思う。みんな、これからもよろしく。そして幹事を務めてくれた御三方、本当にありがとう。



高校生活の思い出

D組 清家(平山) 左知子

高校を卒業し、早二十年が過ぎようとしている。年齢を重ねる度に、一年間がすぎる速さに驚きを隠せないが、高校卒業という自身の節目から数えた際、半生以上の月日が過ぎていくという事実には驚愕する。

月日が過ぎた現段階で、一度新宿高校生活を送り思い返して見る機会を頂いた。高校同窓会の際にこの貴重な機会を頂いたのだが、なかなかの難題だ。僭越ではあるが、振り返ってみたい。

私の高校生活は、バドミントン一色だった。

た。自由な校風の中、周囲は制服や私服、思い思いの格好で生活を送っていた。自身を思い出すと、朝練もあった事もあり、終始ジャージで過ごしていたと思う。二時限目、三時限目の間に早弁をし、昼休みには購買部で昼食を追加購入していたこと、放課後はほぼ毎日と言って良い頻度でバドミントンに打ち込んでいたことを思い出す。

私事ではあるが、バドミントンは中学から大学まで続け、現段階においても機会があれば参加するスポーツとなった。高校卒業後は、新宿高校時代の恩師、戸塚先生が設立した「戸塚バドミントンクラブ(TBC)」に所属し、バドミントンを続けることが出来た。結婚し、出産を経験した今でも、TBCに参加させてもらっている。

TBCは夏に合宿を行う。一泊二日ではあるが、バドミントんに集中した楽しい合宿だ。昨年は子供も連れて参加させてもらい、良い思い出になった。

高校時代のバドミントン部メンバーは、一生付き合える友人となれた。高校卒業後、皆様々な道を選んでいる。教職員の道を選んだもの、海外で頑張る道を選んだもの。

私の代では、メーリングリストを活用し、連絡手段を確立した。海外にて国際結婚をした友人とも容易に連絡が取れ、すごい時代に生まれたのだと感じている。蛇足では

あるが、インターネット電話を用い、簡単に通話も楽しむことができている。

貴重な高校生活の中、一生付き合える友人や主人と出会え、また今でも楽しめるスポーツ、恩師と出会えたことは私の大事な宝物である。今後も新宿高校生、全員に素敵な、大切な経験・思い出を過ごして欲しいと思う。



二十年前のあの時：

E組 岩井 謙太

卒業二十周年記念記事を依頼されたのは、昨年九月の同窓会でした。会の最中に思い出話をしたお礼にと、「六中健児のタオル」を貰い気分は上々でした。ただそのタオルが同窓会誌への寄稿依頼切符だったなんて…。幹事（近藤さん）の無茶振りに驚きは隠せませんでした（涙）。とは言え、この機会に高校時代を振り返り、感謝の気持ちを伝えられればと思います。色々ありましたが、水泳部で頑張ったことを書くこうと思います。

私は、インターハイ（以下、IH）出場の目標を諦められず、受験勉強が始まる二年の二月から塾ではなくスイミングに通い始めました。諦められなかった理由は、一年で浅沼・佐藤先輩（46回）、檜原先輩（47回）と出場した初めての都高校のリレーで標準記録突破に0.7秒と最大のチャンスを見逃したこと、二年では「先輩達は卒業するがIH出場を途切れさせたくない」という想いがあったからです。二年の自分は未熟で、鉄本監督（44回）に相談せず、一方的に決めた自分がいました。卒業して何年も経った頃、監督から「俺の練習は物足りなかったか？」と聞かれ、何故監督に相談せず決めたのか、申し訳ない気持ちで一杯になりました。でも許してください。四カ月で目標達成には、練習量を増やす「スイミングで練習するしかない」と、本気で思っていました…。

三年の都高校では50m自由形に出場。予選では死ぬ気で泳いで全体の七位。決勝の直前に戸田先生から、「謙太、七位は予定通り温存だな？ 決勝は六位迄に入り今年も俺を関東に連れて行けよ」と、かなりの重圧をかけられたのを今でも覚えています。決勝では、ギリギリ六位に食い込み、関東大会の出場権を得ることが出来たのは、戸田先生の発破、鉄本先輩の電光掲示板横か

らの激励やチームの応援が後押しのお蔭で感謝しています。関東大会では、スタートで気負い過ぎてフライング。（苦笑）残念ながら、IHに出場出来ませんでした。自分の事の様に喜んでくれた先輩やチームの姿は今でも覚えています。卒業して二十年。あの時の自分、出会った先輩や仲間達は大変な財産です。自分勝手な私ですが、三十年・四十年と末永く付き合いたいと思います。



卒業後二十年

E組 立川（安達）芽衣子

夏ごろ急に届いた同窓会を知らせるハガキ。気が付けば、卒業してから二十年も経っていました。

ふと、同窓会に出席してみたら、高校生活で何度となく歌っていた六中健児の歌詞の書かれた手拭いを頂きました。校歌よりもなじみがあるなと懐かしさに浸っていたのもつかの間、それには、とんでもないオマケが付いていて、国語の苦手な私に「同窓会誌 朝陽に寄稿してください」とのこと。さあ、大変、一大事です。

そんなわけで、今、こうして原稿を書いているわけです。

私の新宿高校への志望動機は、至って単純。「乗り換えがなく、電車一本で通学できて、なによりも近い!」ということでした。入学後は、校風の自主自律の精神にどっぷりと浸りました。水泳部に入部し、十七人の素敵な同期、良い先輩と後輩に恵まれ、充実した楽しい高校生活を送りました。

卒業後は、水泳部のOGとして現役の臨海教室のお手伝いに行き、お世話になった体育担当の先生方と館山寮で過ごすのも、ひとつの楽しみでした。残念なことに、青春時代を共に過ごし、一緒に笑い、泣いた同期二人は、黄水の国へと旅立ってしまい、とても早い別れとなりました。

大学は、理系の学部へ進学。四年間、みっちり実験に明け暮れ、勉学に励む日々が続きました。しかし、就職氷河期真っ只中の年、思うような就職先にはなかなか巡りあえず、学んだことは全く関係のない職種につき、そこで、様々な人々と出会い、接し、理系の仕事に就いていたら経験できなかったであろう沢山の経験を、少しは大人としての財産が得られたのではないかなと思っています。

縁があつて、結婚し、現在は六歳になる男子の母を努めています。その息子、いつ

の頃から水泳が大好き。先日、水泳部の現役OB対抗戦に連れて行つたところ、水泳部の皆様におだてられ、その気になって「新宿高校に入り、水泳部に入部する」という志をたてました。本当に、実現するのでしょうか。もし、そうなれば、六中健児と一緒に歌えるのではと心ひそかに思う今日この頃です。



「二十年後の居場所」

G組 桑原 恵里

新宿高校に入った理由は簡単だ。入れそうな公立校で一番自由そうだったから。さらには「新宿」という誰もがわかる名前が決め手になった。偉大な先輩方には申し訳ないことだが、入学前からおぼろげに大学には進まず早く働きたいと思っていた私にはその輝かしい歴史と「自主・自律の精神」はとても都合のよいものだったのだ。

たしかに学校生活は自由だった。生徒も教師もだ。自分の教室がありチャイムも鳴る。ただ自分の成績についてや行事のことなどに教師が干渉した記憶はない。部活の

交渉や書類の依頼などで先生の居場所を探しまわったりしたほどだから、進路指導を求める人はそれぞれの教師の〈溜まり場〉を把握することから始めたのではないだろうか。

生徒同士といえは学校のそのせつかくの大人扱いをただの放任と履き違えて、少し無駄遣いしているような幼さがあるな、と実は傍観していた。地元に大勢の友達が付くこともあり、他の同期生たちより希薄な付き合いしかしていなかったと思う。その分周りに流されることなく三年間、自分の将来をじっくり考えることができた。

むしろ〈今〉の方が同窓生と濃密な関係を築けている。卒業後すぐ剣道部の稽古に積極的に参加するようになった。在校中、体育学科か?と他校に勘違いされるほどの運動系イベントのおかげで体力がつき、ようやく楽しみを見出せたところでの引退だったので、迎えてくれた先輩OBや当時の現役の方々には今でもありがたい思いでいっぱいだ。その後、同期のチームメイトとも剣道を楽しめるようになった。特に先輩方にとっては大そう生意気な後輩であったことと思うが、今でもことあるごとに集まりお酒を酌み交わす面々は、なかなか経歴もユニークで自分の進んでいる道も間違っていないのかな、と人生の先輩とし

でも私を力強く支えてくれている。

卒業からまもなく二十年とのことで秋口、同窓会に行ってみた。意外にも驚くほどそこは異空間ではなく自分にも居場所があった。専門学校の途中で仕事を不得、ひと足早く大人になったつもりでいたのも今は昔ときを経て、あたたかく声を掛けてくれる旧友たちがそこにいた。



卒業二十周年同期会報告

平成二七年九月十二日、卒業二十周年を目前に、四九名の新四八回生が、新宿に集結！（会場・クルーズクルーズ新宿）

野村英昭先生（D組）、柳澤二夫先生（B組）を囲んで、同窓生とゆつくりとそしてかけがえのない時間を過ごすことができました。

今回、代表幹事の近藤由香里さん、幹事の橋本祐造くんとともに、幹事をやらせて頂きました。新宿高校体操、新宿高校クイズ、六中健児の歌と、幹事自らが楽しんでできました。参加者の皆さん、楽しんでい

ただけましたでしょうか？

（G組 宮腰 聖子）



事務局から同期会早期結成支援金のご案内

朝陽同窓会の各卒業期の同期会早期結成支援のため、同期会開催経費の一部を同窓会から支給することとしました。

補助金の対象は、通信費、打ち合わせ会合費、同期会当日の会場代・食事代など同期会開催に関連したものなら費目は問いません。用途を示す領収書も不要です。

- ・補助金交付の対象は、卒業後20年までの期とし、その初回同期会とします。
- ・補助金の交付額は同期会会合当日の参加者一人当たり1,000円とし、50,000円を限度とします。

詳しくは朝陽同窓会ホームページをご覧ください。同期会結成補助金交付申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてください。

なお、この制度を利用して同期会を行った場合、同期会開催の記事を同窓会ホームページに速報、次年度5月の会報「朝陽」に掲載いたしますので、幹事は、予め記事原稿及び記念撮影（なるべく参加者全員が写っているもの）等の準備をしておいてください。

（朝陽同窓会事務局長 西出紀久(15)）

卒業三十周年……三十周年同期会に集まれ！、四二八名の大家族

38回

先日、今年5/21(土)に開催する卒業30周年同期会に向けた準備幹事会を行きつけの呑み矢さんでやった。幹事の一人Y岸君が、まだ酔っぱらっていないはずだが、「去年の同期会はさ、」と五年前の同期会のことを話し始め、誰もが「？」と顔を見合わせたが、「そんな気もする」くらい身近な間柄になったのか、はたまた、「初老のはじまりか」と思えた一幕だった。笑えた。思えば、五年前、現役時代に殆んど話したことが無いものどうしが集まり幹事会を立ち上げ、25周年同期会が開催でき、以降38回ゴルフ大会、マラソン大会、館山BBQ、忘年会など何かにつけて皆で集まり、傾酒していればあつという間なのかもしれない。

33年前の春、自由な校風と私服に憧れ、学力的に背伸びした受験だったが身長152cmの私は入学した。最初の学力テストは確か学年順位二桁の真ん中辺りだったと記憶している。一年生は部活必須だったのでF組の級友二人と水泳部に入部。小柄でやせっぽちだった私は37回生Sイラ先輩から、「お前はアニメの登場人物に似ているからニルスだ」と命名され、今でも同期・先輩・後輩そして臨海教室でお世話になっている。



卒業25周年記念同期会での全体集合写真 (2011年6月4日実施)

母校の現役の先生方からもそう呼ばれている(先生方は本名だと思っているらしい、笑)。その三年間は水泳部に通っていると親が言うほど部活に没頭していた。キャプテンだったことに託けてクラス活動や学校行事の係は同じ部のGん君や野球部のT行に押し付け(二人に感謝)、「家」と「プール(学校)」と「ちゃんや」のルーティンワークをしていた。お蔭で記録も身長もどんどん伸びたが反作用? で学力は低下、最終学年時に身長176cm、学力順位四〇〇番台になっていた。授業や学校行事の思い出が水に流れてしまっているのは何とも情けなく申し訳ない気持ちだが、唯一自慢できるクラス貢献は三年間優勝し続けた水泳大会かもしれない(1F↓2F↓3I)。

新宿高校水泳部を卒業したと思うくらい部に愛着が出来、卒業後地方大学に行きながら、社会人になってからも臨海教室の指導員補助や水泳部の懇親会などで館山に帰っていったので、母校や先輩・後輩との接点が途切れることがなかった。そのご縁から約七年前、我々の担任だった恩師、数学科秋山先生(15回生)と偶然再会し、秋山先生の勧めでしばらく空白だった38回の代表幹事の席につくことになった。それを機に、代表幹事会で多くの先輩・後輩との新たな出会いも出来、年齢を越えたお付

き合いをさせて頂いることは、正に一九二二年創立以来の教育理念「大家族主義」であり、我ら38回も四二八名の大家族といつも思っている。

先日、部活の現役三年生を送る会に先輩面して出席してきた。なんと、30コ下の68回生。もちろん上履きは黄色だが（笑）、白地に黄色のラインが入っているスタイル。全体真っ黄色だった我々とは違う……更なる違いはなんと全員現役合格。どこかの誰かが言っていたが、末尾8の数字の代は他の代とどこか違うらしい（8回↓18回↓28回↓38回……）。『プレミアム〇8回』というそうだ。そして、新一年生は71回生で上履きはもちろん黄色。そろそろ『大家族プレミアム38回』の子供達が後輩になるかも。そしたら38回からPTAを出して母校で楽しめそうだ。私は館山の臨海教室でそんな子供達の指導ができるかも。

代表幹事 3I 鈴木仁志（ニルス）



いつも心に新宿高校

A組 荒木 哲也

流行っていたYMOが大好きで、坂本龍一大先輩に憧れ、それだけで新宿高校行きたいと思った中学生時代。合格できるのかと親には心配されたが見事に合格。当時の競争率は確か二倍くらいだった。従姉がOGであった縁もあり、学力に合わせた志望校選比とは少し違う入学だったことは幸せなことかもしれない。

新宿の街ものんびりしていた。今も当時も大繁華街ではあるが、ある種のほのしとところもあった。通学路、新宿駅南口を出ると、当時はまだ新宿操車場（貨物駅）の跡地があり代々木方向の視界は開けていた。ビクトリアの建物がぼつんと立っていて、「お客さん、来るのかなー」と思ったものだ。道すがらの桂屋旅館の若旦那がアメリカ横断ウルトラクイズで優勝したのも在学中の出来事だったな。そうそう、新聞配達の子がマスクも健在である。もちろん今の新校舎ではなく、グラウンド側が正門であった。明治通りから曲がる角にはカナダドライの倉庫があつて、入っていくと確か60円でジュースが買えた。10円、20円の差でも高校生にはありがたかった。かわい

いものだ。

運動部の所属であり、街で遊ぶ時間はなかったが、東口に「こまどり（茶屋?）」という定食屋があつて、土曜日の昼、午後からの練習に備えて昼ごはんを食べているとなりのテーブルで体教の先生方が同じように食べているということもあった。チキンライス定食が旨かった。先生と生徒の距離が良い意味で近く、高校生ではありながら、大人の入り口として人格を認めていただいていたような気がする（思い込みかもしれないが）。新宿高校らしい光景である。そしていつしか、操車場跡地には高島屋ができ、カナダドライの角はビルになった。今日の景観はさすがに三十年の月日を感じさせる。

さて、校内に目を向けてみよう、正門を入ると左手には同窓会の朝陽会館が建っていた。水泳部の夏の強化練習期間、2階の和室で昼食をとり、30分の午睡をとった懐かしの建物だが、今はもうない。スロープを下るとピロティがあつて、ブリックバックの自販機が並んでいた。箱型の牛乳パックで、折り目をほぐすときれいに1枚に畳める。一年生の夏の一大行事である館山での臨海教室で畳み方を習う。一般生徒でも実践している人は結構いた。今でも仕事先、旅先どこでもついこの畳み方をして



事をしている。通勤の行き帰り、今は紳士服店になっている「カトレア」を横目に見つつ、あの頃とあの頃の自分を思い出しながら……。

最高の高校

C組 山崎（山藤）美樹子

新宿高校第38回生の皆様、卒業30周年おめでとうございます。38回生の山藤です。

私が中学時代に新宿高校を目指した理由は、自由な校風に憧れたためです。中学一、二年の時は親や先生に反発して全く勉強しませんでした。どうしても新宿高校に入りたい。たかのため、中三の夏休みから塾に通い、半年間四時間睡眠で勉強して合格しました。自由闊達な校風と素晴らしい仲間恵まれ、新宿高校で過ごした三年間は生涯の宝物です。

朝陽会報に寄せて、新宿高校の思い出のうち、授業、部活、行事の三つについて書かせていただきます。

一番好きだった授業は、豊澤先生の地学でした。仙人のような風貌、アカデミック

しまい一人苦笑いをしてしまうのは私だけではないはずだ。もちろん我が家族も同様だ。自販機の奥に下駄箱があった。我々は九クラス。黄色い上履きの学年であった。ちなみに一度も持ち帰って洗ったことはない。卒業直前に底が抜け、うまい具合に履きつぶして卒業式のあと捨ててしまった。ピロティを抜けると通称「校庭」。右へ行くと体育館、左へ行くと部室棟から細道を抜けてプール、そしてグラウンドへと至る。水泳部所属の我々は冬でも昼休みをプールサイドで過ごす。旧校舎の木製の椅子の残骸があつて、たき火をしたりした。ある時顧問の戸田先生に「浮浪者でも入ったのか？」と心配していただき、申し訳ない思いをしたのを覚えている。年に二回のプール掃除の際、最後は水の掛け合いになるのだが、不幸にも流れ弾（水）をかぶってしまった方々にはこの場でお詫びを申し上げたい。すみませんでした。

散文になってしまったが、新宿高校生荒木君の目に映った街の様子、学校の様子、思い出を振り返ってみた。「あーっ！」と懐かしく思ってくださいの方がいらしたら光栄である。あれから三十年、現在の私と云えば、まさに奇縁、所属していた水泳部のみんなと大会の後のミーティングをした喫茶店「カトレア」が入っていたビルの中で仕

な授業、授業終了時に手をパンパンと払い、チョークの粉が数秒間宙を舞う様子が今でも目に浮かびます。

ジェントルマンな数学の秋山先生、「昔は日比谷と新宿から東大へ毎年百名以上入学していた」が口癖の物理の有賀先生、若くて生徒に一番近い存在だった国語の玉上先生、生活指導に厳しかった世界史の水村先生、図書館司書の大先（偉大な先生の略）さんと佐元先生。当時の新宿高校には他にも名物先生がたくさんいらして、さながらハリポッターのホグワーツ魔法魔術学校のようにでした。

部活は、美術部と生物部に所属していました。美術部は、現在カンボジアで子供達のための美術学校を設立されている笠原先生のご指導の下、個性豊かな部員が集まり、好きなことを好きだけしていました。私は、校内の雑木林の絵を描くのが好きで、心地良い風や木漏れ日の中、運動部の声を聞きながら、よくスケッチをしていました。

生物部では、ピラニアやアフリカツメガエル、ハムスターなどを飼育する他、年一回館山で合宿を行い、ウニや魚貝類を観察しました。合宿では天文部と一緒にたため、一度天体観測に参加したことがあります。館山の合宿所の周りには人工的な灯りがなく、砂浜に皆で雑魚寝して空を見上げ

ると、何千何万という星が肉眼で容易に見られ、自分はなんてちっぽけな存在なんだろうと考えさせられました。

朝陽祭で世田谷文化会館の総監督として、高校生ながら世田谷区の職員の方や様々な学年の担当者で調整しながら一つの事をまとめ上げたことは、将来仕事をする上でとても良い経験となりました。先生方があまり口を出さず、生徒の自主性に任せる姿勢は、人材育成に非常に役立っていると考えます。

ナンバースクールの伝統を受け継ぐ戸山戦、豪華絢爛なチアリーディングをはじめとする運動会、切れの良いブレイクダンスの発表会。インドア派だった私は応援専門でしたが、運動やダンスが得意な生徒達は男女を問わずキラキラ輝いていてまぶしい存在でした。もう一生やることはないであろう大遠泳も忘れられません。打上げでよく歌った「六中健児の歌」は、当時も今も私達を卒業生という絆で結びつけてくれます。

いろいろありましたが、新宿高校に行っていなければ、今の私は存在しません。素晴らしい仲間と先生方に恵まれた最高の高校生活でした。大変ありがとうございました。また、これからもどうぞよろしくお願いたします。

そしてまた前に進む。

D組 鈴木（田中） 雅子

「今さら高校時代の友達と会って何が楽しいの？ そんなに過去を振り返りたいわけ？」と、厳しい言葉を言われたことがある。この六、七年間、活発化している同期会に、同期Y君を誘ってみた時のことだ。

確かに私たちが集まると、話題の多くは高校時代の思い出話だ。最近、盛り上がったネタは、運動部がトレーニングで御苑を走る時、校門を出て左回りだったか右回りだったか、であった。私たちバスケット部は左回りだったのだが、逆向きに回っていた部もあったという事実を今頃知って衝撃だった。しかも左回りが少数派だとの意見も！先輩・同期・後輩の証言を集めて検証したいところである。

遠足問題というのもある。二年生の終わりに修学旅行に行ったが、その前にグループ行動の練習として遠足にも行ったそうだが、私は全く覚えていなくて、一体いつのことだったのか？ さらに場所が鎌倉だったと聞いても、さっぱり何も浮かばない。今度私と同じグループだった方、ぜひ教えてください。

それでいったら、館山の臨海学校も、一

年生の夏という、まだ緊張感もある時期で強い印象も残りそうなものだが、遠泳以外のことはほとんど覚えていないのだ。泳ぎ終わった塩辛い口で氷砂糖を食べた時の美味しさは忘れられない。しかし、寮の建物とか、練習した海岸とかの記憶が全くなくて、五年前に約三十年ぶりに足を踏み入れた時も「こんな所だったのかあ」と、まるで初めて見た場所だった。

それから現代社会の授業のグループワーク、運動会や球技大会などを年間制覇するともらえたバッジの存在、マラソン大会では多摩川沿いのどこを走っていたのか、私たちの黄色の上履きが一番変な色使いだっただ話から、放課後たむろしたウエンディーズでサラダバーをどれだけたくさんトレイに積み上げたかまで。毎回、皆が競うように記憶を積み上げてきりがない。

そんな思い出話を楽しみつつ、同期飲み会では仕事や家族の話から時事ネタまで、ありとあらゆる話題が飛び交う。そこには肩書も上下関係も何一つない。高校時代は話したこともなく、四八歳になって初めて会う同期も含め、皆が素の自分たちをさらけ出している。おかげで帰宅時には、楽しい気分で、しかもどこか満ち足りた気持ちになっている。少しへこんでいる時には元気づけられたりもしている。もしかしたら、

同期と笑い合う時間の中で、私たちは自由だった高校生の心に戻り、今の自分をリセットできているのかもしれない。

Y君。同期に会うことは、一見過去を振り返っている行為に見えるかもしれないけれど、どうやらそれだけじゃないみたいだよ。みんな、想い出話を楽しんだ翌朝にはちゃんと自分の世界に戻って、また一歩前に足を踏み出している。もしもY君が「たまにはあいつらに会ってみようか」という気持ちになったらいつでも連絡してね。私たちはずっと待っているから。



卒業三十周年を迎えて

E組 工藤 文孝

高校を卒業し三十年が過ぎた。卒後はあまり同窓生との繋がりはなく過ごしてきたが、最近はいろいろな会に参加させて頂き、その関係なのか今回のお話を頂いた。良い機会なので高校時代を思い出してみる。

新宿に絶対行きたい、いうわけではなかったようだ、高校は自分の学力で合格で

きそうな所を選んでいたような気がする。今思うとかなり雑だった。私立受験が終わり、滑り止めしか合格せず、都立には理科、社会がありほぼ勉強していなかったの、これは正直焦った。私立終了後、学校に行かず朝から夜中まで猛勉強したのを覚えている。尻に火がつくと何でもできるというが、何とかなってしまいうもので、新宿に入学させて頂いた。これが良かったのか悪かったのか、その後の私の行動の基礎となってしまった。

入学してみると夢のような楽しい毎日が待っていた。学校に行くことがとにかく楽しかった。登校し中休みに弁当を食べ、午後放課後は新宿、渋谷の繁華街へ、春の御苑、代々木公園、夏の歌舞伎町繁華街のクーラーの臭い、秋の神宮の銀杏並木、高層ビルから見ると冬の夕焼け、どれもとても素晴らしい思い出だ。定期試験は追い込まれてからの一夜漬け、勉強している暇は全く社会勉強の毎日だった。妻との出会いもこの時期だ。三年間で最も驚いたことは卒業式に担任のA先生から皆勤賞を頂いたことだ。発表後にクラス中からブーイングが起きたことを覚えている。先生も「書類上はそうなのではないか」と不思議そうだった。その時に頂いた湯川秀樹氏の本は今も大事に持っている。楽しかった高校生活も

あつという間に終了し浪人生活へ突入する。私は何の根拠もなく浪人すれば大学に受かると思っていた。自分の可能性は無限大だと真剣に考えていた。親が聞いたらひっくり返ってしまうだろう。結局大学受験も冬になり尻に火がついてからだった。

新宿はとにかく自由だった、多くのことは学生の自主性に任ざれていた(そう思っていた)。時々度が過ぎると先生に怒られ、大人は良く見ているなと感服した。当時の我々は無敵で、何でもできると思っていた。浅い知識と経験でいろいろ馬鹿なことをしていたように思う。しかし自由というのは恐ろしい、すべて自分の責任だ。大人になって初めて理解できた。

社会人になって新宿の出身ですと自己紹介すると素晴らしい学校の出身ですとと言われることが多くとても嬉しい。これは先輩、頑張った友人、後輩、現役の学生さんや先生方の御努力によるもので、大変感謝している。

現在私は有難いことに夜昼なく忙しく仕事ができている。辛いことも多いが高校時代の社会勉強? が役に立ち、支えてくれている。時々呼んで頂く飲み会もとても励みになる。みんな変わらないなと思うと元氣が出る。こちらも感謝している。

卒業三十年、我々は思っているほど若く

はない、健康に気をつけて頑張って行こう。追い込まれないと物事に真剣に取り組まない性格は変わっていない、最近の短期集中で効率が良いと考えている。もちろんこの原稿も締め切りの朝に書いている。



三十年目の奇跡(?)

I組 岩崎 洋平

今年、娘が新宿高校に入学することになった。卒業三十年という節目の年にこうなるとは、なんの因果か偶然か。学区制が廃止され、いまや都立高校は好きなどころをどこでも受験できる環境になっている。さらには私立を含めると数えきれない程の学校がある。そのなかで結果的に自分と同じ学校に入学することが決まった時は、単に高校受験がうまくいったということのほかに、やはりうれしく思う気持ちがあった。みなさまから娘の進学が決まった際に「おめでとう」「よくやった」「よく頑張った」「すごいじゃないか」といった言葉をかけてもらった。もともと「自分は新

宿高校出身です」と、色々な意味で胸を張って言える、自慢できる学校だと思っていたが、あらためて誇らしげに思った。名門新宿高校死せず、いや復活、だろうか。仕事柄地方に行くことが多く、社内外を問わず会食をする機会がある。その際に出身校を聞かれたり、子供がどの高校に行くことになったのかを聞かれることもある。「新宿高校です」と答えると、全国どこにいても「すごいですね」というリアクションをいただく。その意味は、「都会人ですね!」、「名門ですね!」、「そんな名前の高校あるんですね!」など色々あると思うが、兎にも角にも「新宿高校」という名前はどこにでも通用する凄い学校名であることを今更ながらに実感する。

五年前、学年全体での卒業二五周年大同期会が開催された。卒業後、部活関係や一部の人間とは会っていた。しかし、学年全体の同期会ともなれば、そもそも高校時代にまったく付き合っていない人間が大半のはず。近況のわかっていない親しい友人はごく一部であり、それほど親しくなかった者や二五年ぶりに会うこととなる者、そしてまったく知らない人々を前にして、はたして誰だかわかるのか? 話題はあうのか? 居場所はあるのだろうか? などと会場につく直前まで心配していた。だが、それは

杞憂だった。高校時代の戸山戦、館山臨海学校、体育祭、などなど話題は尽きず、あの頃とまったく同じ感じ・感覚で大いに盛り上がった。

大学の同期になると職業のジャンルに偏りがでるが、高校の同期は理系・文系バラエティに富む。当たり前の話ではあるが、同期会をするまで意識していなかった。まったく異なる業種、業界の人間との会話は新鮮で刺激を受ける。フリーランスの人間も多く、興味は尽きない。生後半世紀を迎えようとしているが、その中でたった三年間であるはずの高校時代、自分の人生に与える影響は非常に大きく、また交友関係を通して未だに影響を受け続けている。娘にも、二十年三十年続くこの様な体験をしてもらいたい。まあ、新宿高校の伝統・校風はまだまだ健在と聞いている。何年後の卒業生でもきっと同じであろう。



卒業四十周年…… 母校の思い出

28回

平成二十三年九月四日に開催された卒業三
五周年同期会集合写真です。(撮影・プロ
カメラマン 28 G 伊藤真君)

この会は3・11東日本大震災で被災され
た同期生への義捐を目的に急遽開催され
たものです。準備期間わずか二か月でしたが
一二三名の同期生が集まってくれました。
卒業何年たっても自分の周りには新宿高校
同期生が居てくれて、困った時には相談に
乗ってくれて、嬉しい時には一緒に喜んで
くれる。この素晴らしい同期生達とこれか
ら年輪を刻んでいけることを誇りに思
います。

(代表幹事 内藤 淳)

編集部注 写真は朝陽の紙面サイズに合
わせて編集トリミングしています。



二十余年毎年クラス会

A組 平岡 啓

A組は二十余年、毎年十一月のクラス会
を欠かしたことがない。一九九二年にクラ
スメートの水野浩久が新宿・抜弁天に洋食
屋「キッチン水野」を開店、以後すっかり
地元根付いたこのお店で担任の北地先生
を囲むクラス会が続いている。小さなしゃ
れた店で酔っ払って大騒ぎする同輩を宥め
シエフ水野とともにいつも面倒をみてくれ
る年下の文子夫人はいまや四十六人目のク
ラスメートである。

海外赴任者や地方組も多いので最近の出
席者は平均すると二十人ぐらい。毎年少し
ずつメンバーが入れ替わるので転勤等で
時々しか顔を出せない私でも卒業以来一度
も会ってない、という仲間は数えるほどだ。
参加できなかったメンバーからも毎年メッ
セージが届く。四年ほど前からは小島滋が
音頭をとって、先生の名前を冠したゴルフ
コンペ「北地杯」を年に数回開いている。

在学中は時にとげとげしい雰囲気を感じ
出すこともあるクラスだった。無理して背
伸びしたい年頃、人の迷惑も考えずルール
を破り意気がるような輩も少なからずいて
私もそんな生徒の一人だった。四十年たっ
たとはいえ思い出すと気恥ずかしい。



三年生になると落ち着きのないクラスの雰囲気勉強ができない、と職員室に直訴してクラス替えを迫った女子もいたという。往時茫々と書けばあまりに身勝手と叱られるか。先生方はそんな私たちを大人として扱い、北地先生は諄々と自主性と継続の大切さを説き、私たちを大事にしてくれた。悲しいかな私はそれに応えられるほど大人でもなく、賢くもなかった。

その後も、あれをやっておけばよかった、これを学んでおけばよかった、とボヤキながら、馬齢を重ね仕事もゴールが間近になりつつある。高校の三年間は大切な時間だったと、時を経てますます思いを深くする。仲間とは悩み深き進学、就職、結婚、子育て、介護を語り合い、嘆き合い、今では厳しい老後をやり過ごす貴重な相棒である。高校時代にページを繰った本は捨て難く、初めて楯円のボールに触れ夢中になったラグビーは生涯の宝物となった。

北地先生はいつも、やあつと手を挙げさつそうとキッチン水野に現れる。量は少し減ったものの我々と杯を重ね、談笑する姿は昔と変わらない。お元気な姿は皆の大きな励みだ。五十九歳の平均余命は男性で二十三年弱、女性で二十八年強ぐらい。先は未だ少し長そうだ。間もなく米寿を迎えられる先生の背中を見ながら、十一月のキッチン水野でのクラス会がますますにぎやかに、そして平均余命ぐらい続くことを祈っている。



街のうつろい

C組 堀田 一朗

シャン、ガシヤガシャン……授業中の校舎まで響いてきた新宿貨物駅の連結音……当時の南口は、一杯飲み屋、連れ込み旅館が居並び、耳に赤鉛筆のおじさんたちが行き交う戦後感が漂うレトロな街並みだった。そんな街に少しでも同化しようと無理に背伸びして街を闊歩していたかもしれない。ただ、校内に一步でも入るとハンカチ落としに興じる子供っぱさを持つ生徒に戻っていた。

しらせ世代といわれていた私達だが、学園祭、体育祭、合唱コンクール、修学旅行等、学校行事にはみんな本心に熱心に取り組んだ。田地先生も学業そっちのけの姿にあきれ顔気味だが、常に黒縁メガネの奥から優しい目で見守りやさしい言葉をかけてくれた。

二年C組の文化祭の出し物は確か、「新宿高校周辺のお店マップ」、「ぴあ」等のタウン誌はまだメジャーではない中、今から思えば先駆的な企画だった。放課後、みんなで分担してお店を一軒一軒訪問して情報を収集し、学校に戻って夜遅くまで模造紙に仕上げていった。取材の際、親切に対応してくれる店もあれば門前払いもあり……

…大人を相手にする難しさを知ると共に
ディープな街を知るきっかけともなった。

そして打ち上げはいつも決まってマンモス
喫茶カトレア、二次会は歌舞伎町、そのあ
とは新宿中央公園で車座になって、クラス
の女の子の話から始まり、ベトナム戦争ま
で…最後はみんなで高層ビルに向かって、
ただただ大声で叫んでいたような気がする。
その後、私は渋谷にある放送局に就職し、
三十年余り代々木公園越しにそんな新宿の
発展と変貌を見ることになった。華やかな
高層ビルの夜景は、当時の記憶と共に一昨
年に退職するまでずっと疲れた私を励まし
続けてくれた。そして、当時から続してい
た南口周辺の再開発工事も今年に一段落し
たと聞いている。ここ十数年、毎年クラス
会を開いているが、節目を迎えた世代同志
「お店マップ」の街にタイムスリップして、
これから何を叫んでいこうか。



新宿高校とE組

E組 宮田（吉田）尚子

移転後の新宿高校に行っていないのです
が、新校舎を目にしてどのように思つか
楽しみです。

高校時代、新宿駅到着まで待たずに、
代々木で降り、御苑の塀を右手に見て走っ
ていた気がします。

入学した時の印象は、緊張もかなりあり
ましたが、先ず男子が女子の二倍いて圧倒
されました。その分もあつて女子同士固
まっていた感じでした。

親しい仲間もたくさん出来たところで二
年のクラス替え、同じ組から女子は二人き
り「どうしよう」と思いました。

その心配をよそに、E組でも受け入れて
くれる友達が出来て有り難かったです。

担任は坂本先生、クラスのイメージはと
言うと、特に男子は大人っぽい雰囲気の人
が何人かいました。

服装は中学校時代と違った「標準服」と
言う新しいスタイルに出会い、行事などの
時には私服を、それ以外は制服を三年間テ
カテカになるまで着ていました。

部活動の他に、遠足・修学旅行（班行動
の日があり中学に比べ大人だなと感じまし
た）、学園祭・球技大会・体育祭、合唱コ

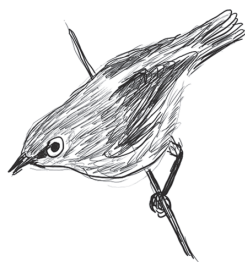
ンそれから戸山戦と言う新宿高校ならではの
行事など良き思い出となっています。

卒業アルバムでE組を見ると他のクラス
と少し違う感じに見えるかも知れませんが、
それはそれで、いろいろなメンバーが揃っ
たE組らしさも出ている気が致します。

高校時代は何と言っても三年間に会った
友達、今に続く良き友に出会えた事に尽
きると思っています。

E組の中ではいたって凡庸な人間が、周
りの級友に感心し学び、助けられて、卒業
後も行き詰まると思い出し振り返る原点、
正に友と過ごした青春時代を送ることが出
来ました。

卒業後四十周年、身近な友の中で先に天
国へ旅立っていった二人の事も心のどこか
にいつも在りつつ、感慨もひとしおです。



仰げば尊し…

F組 萩原 久代

学区制のあった時代、私は新宿高校に「越境入学」した。そこは、誰も中学時代の私のことを知る人のいない、新しい世界だった。

今となつては記憶の彼方だが、振り返れば、友人らと新宿御苑に忍び込んだり、男の子達にギターを習ったり、高校生活を楽しんでいたと思う。体育祭では「燃えよ、ドラゴン」の振付で応援参加したことや学園祭の舞台劇の端役など、懐かしい思い出は尽きない。

さらに、私にとって貴重な思い出は先生方の個性だ。国語のS先生は静かな賢人だった。私は大学進学に興味があるのかを悩んでいた。ある時、S先生は「来週の私の授業時間をあなたにあげましょう。クラスで話し合ったらいい。」と提案され、私は普段聞けない級友らの意見を知った。そして、S先生は、ご自分の学生時代の友人の多くが十代で特攻隊に志願して命を落とすし、「生き残った僕達の人生は、『おまけ』ですよ。」と遠くを見つめてぼそつと語り、その「授業」を締め括った。数日後、私は大学を目指す決心を固めた。

また、化学のF先生は寛容だった。期末

試験のヤマがはずれて問題に解答できず、私は仕方なく答案用紙に自分が勉強しておいたハロゲン元素それぞれの説明を書いた。職員室でお叱りを受けると覚悟したが、F先生は答案用紙に点数までつけてくれた。諦めずにやってみるものだ。

「メソポタエーミア」、世界史のT先生は、独自の年表作りで、文明や世界がつながっていることを教えてくれた。「戦争には必ず経済的な背景がある。」というお話もナルホド！今の時代にもあてはまる。あの年表は今も大切にしている。

そして、F組担任、英語のT先生からは、英語が生きた言葉であることを学んだ。当たり前のことだが、受験英語の頭には衝撃だった。T先生はご自分がニューヨーク旅行した時の英語の地図やパンフレットを教材に、生きた英語を教室に持ち込んだ。英文暗唱ができず発音も最悪の私は、職員室に呼び出される問題児のひとり、放課後に先生の特訓を受けた。熱血T先生から教えるを受けなかったら、私は全く違った人生を歩んでいたことだろう。

先生方は、当時四十〜五十代。今の私たちよりずつとお若かった。今思えば、どの先生の教えにも個性が輝き、先進的な面があった。十六歳の少女の新しい世界であった新宿高校は、その先の未知の世界に踏み

だすための勇氣と希望と知恵を授けてくれたのだ。あらためて、恩師らへの感謝の気持ちを込めて合掌する。(米国在住)



されど我ら、G組46名の日々

G組 清水 朗寛

私は現在、サイアム高島屋二〇一七年オープンに向け、タイに単身赴任し、日本とタイを行ったりきたりの生活です。氣候の変化も激しくこの歳には結構身体に堪える日々を過ごしています。

私と新宿高校の係わりですが、一九七二年の二年生の春に杜の都・仙台から転校してきたときに始まりました。

まず感じたのは、新宿高は旧制の六中、伝統校で先生の個性が凄い。前中さん、竹中さん、有賀さん、豊沢さん…、皆さんひとかどの人物で、生徒はその薫陶を受けながら、のびのびと勉強や運動を楽しんでいる。「うーん、このような世界もあったのか」という印象でした。G組のクラスメイトを見ると、皆さん優秀？で、もちろん勉強はする？けど、それぞれ学内外で趣

味も持つて、そちらもナカナカの活躍でした。

私は、勉強が苦手だったので、授業にはあまり良い思い出はありませんが、個性溢れる先生方の様子はよく覚えています。眉毛がりっぱな福井さんの「青木秋元伊藤上柳大島小野神桑原」と一気に読み上げる迫力ある出席の取り方、小宮さんの授業の初めの「運動会も終わり、いよいよ諸君が勉学に励む季節が、ひゃっひゃっ」のような時候の挨拶。吉江さんの「お前ら、何している、早く外へ行って絵を描いて来い。次の授業は竹中の英語だから、帰ってこなくていいぞ」というワイルドな指導。何やらブツブツ「〜ですから、〜ですから」と言いながら、2時間ぶつ通しで、機関車のように黒板に物理の計算式を書きまくる有賀さん。「お前ら、人生というものはなあ」人生の悲しさ・儂さを教えていた前中さん、「ぎんざNow!」に出ていてチャラチャラしているわりに、授業はスパルタだった島田さん。

次は、二年と三年次の担任だった有元さん末吉さんと福島さんの思い出です。有元さんは、早稲田の教育学部を卒業して数年しか経っていない若い先生で、兄貴分のような親しみやすい存在でした。正義感が強く、また熱心で、クラスの男子生徒が「かつ

たるい」とか言ってダラダラしたり怠けたりすると、すぐコーフンして「お前らは甘いんだよ」とよく説教をしていました。末吉さんは、有元さんが体調を崩した時に、ピンチヒッターで三学期に家庭科室から来た先生です。あっけらかんとした不思議な魅力があり、何かヤバいことがあっても「あらそう、やーねー」で済ましてしまい、でも結構人気が有りました。

三年次担任の福島さんは、東工大出身で、頭が良すぎて、面倒くさがりの煙草の香りのする先生だった印象があります。化学用語の「アボガドロ」と言う時の独特なイントネーションが特徴的でした。地味な先生でしたが、理系志望の生徒には、相当尊敬されていた。G組に理系の秀才が多かったのは、福島さんの影響かも知れません。

今あらためて振り返ると、皆さん魅力的な先生方だったように思います。私達は知らず知らずのうちに、先生方から新宿高のDNAを受け継いでいるような気がしています。

さて最後に、DNAを受け継いで今も元気で活躍しているG組クラスメイト達を紹介しましょう。

シャープな目線でクールな青木君。サウスポーの芸術家の秋元君。カメラを持つて

いる水泳部の伊藤君。学祭映画で名解説、アナウンサーの卵、上柳君。愛称サンペー、バレー部の大島君。映画同好会の小野君と高田君の仲良しコンビ。心優しい青年、神君。東山中出身の秀才桑原君。歴史の鬼、落合二中出身の斎藤君。巨人の新外人ジョンソンそっくりさん佐藤君。優しく話す長身の紳士、鳴原君。合唱コンクールの名指揮者嶋田君。陸上部の清水。ギターとテニスが上手な瀬尾君。バトミントン部の二人、染谷君と竹内君。釣りキチ三平こと高須君。既に先生っぽかった高橋君。いつも家が遠いと言っていた町田越境組の戸塚君、長原君コンビ。柔道一直線・背負い投げの長谷川君。通称イチロ、学ラン着ていた軟式テニスの林君。バレーと陸上両方できる緑川君。目黒区中央在住のサッカーマン山口君。学者っぽかった山路君。心優しいツッパリ横山君。大人の風格吉田君。名ゴールキーパーの渡辺君。プロレスファンの吉村君。おっと一人忘れていました、大阪の高津高校に転校した、祖師谷大蔵の秀才杉本君。

次に、女性陣。大人の演劇少女、秋山さん。硬式テニスの華、阿部さん鹿野さんコンビ。笹塚のバトミントン娘、甘利さん。バスケットコンビの金元さん、中村さん。モノに動じないしっかり者、近藤さん。明るいキャラの水泳部、鈴木さん。陸上部で雨

の中でも走っていたナイチャンこと内藤さん。代々木出身の個性派、中平さん。ご存知ゲンコ、原嶋さん。力強いクロールの水泳部、増永さん。ほんとに静かな三上さん。ショートカットの才女、山田さん。理科女の山本さん。

少し、思いだしていただけましたでしょうか。みんな本当に仲が良かったです。それでは皆さん、タイまで爆買いにいらして下さい。同窓会をやりましょう。



不達の人生の肯定はいかに

G組 内藤 和美

新宿高校を巣立って四十年、私を含め、勤め人となった同期生は職業生活の仕上げの時期あるいは節目を迎えている。みんな積み重ねた四十年をどんな気持ちで振り返っていますか？

私の場合―自らの四十年、その真ん中にあった職業人生に全く納得がいかない、ほとんど受け入れ難い。熟慮があったわけではないが、それしかない流れで研究職を志向し、大学院生以上就職未満七年を経てようやく大学に職を得た。以来、研究／教育

に投じてきたはずが、真に社会と学問に貢献できる一流水準の研究者にはなれなかった。

五五歳で地獄の就活をし、研究／教育ではなく大学改革プロジェクト担当の教員として現勤務校に奉職したが、パフォーマンスの水準は胸を張れるものではない。

生きるの一回だけ、一流・本物になりたかった／なれなかった、可能性も資源も機会も十分あったはず、それらを悉く活かして損ねた無念と後悔が胸を去ることがない―家族があり、勤務先・使命・日々の仕事があり、「私はまだ終わっていない。前を向け!」と思ってみるもの、である。

六十年近く生きて来れば、健康、家族やプライベート、職業、暮らし、災害・戦禍・事件・事故等さまざまな面で受け入れ難い苦痛な経験・挫折を抱える人は少なくないだろう。成熟の還暦世代は、受け入れ難い現実を多々含む人生を、それでも放棄せず、諦めず、妥協ではなく折り合いをつけ、どう納得していきけるのだろうか？それができずにいる私は、百戦錬磨に違いないみんなに、ぜひ聞いてみたい。どうしたら、めざしたようにならなかった人生を肯定できますか？

南欧料理、パリの居酒屋風レストラン

ぐる シャトー

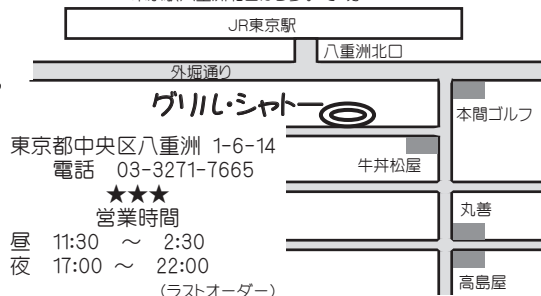
“新宿高校”と言えば特別サービス

アド街ック天国、日曜ビッグバラエティ等の他テレビで何度もオンエア

東京駅八重洲北口から歩いて2分

日曜・祝日の貸切大歓迎。
(場所代無し)是非ご相談ください。
土曜日も昼夜とも通常通り営業
しております。

15回生の池上がやっています。



創業54年と
なりました。

そうか、あれからもう 50年という月日が流れたのか

18回

卒業五十年、

東京卒業、里山入学

A組 金子 晴彦

第十八回卒の私たちは、平成二八年の今年、卒業五十周年を迎える。人それぞれ時間の受け止め方に差はあるとしても、高校生だったあのころ、おしなべて緩やかに時は流れていたように感じられるのは年のせいか、それとも世情の変化のスピードの差によるものか。

私たちの時代は、ある意味シンブルだった。どこを指せばよいのかは、おぼろげに各人の頭の中にあつたし、伸びしろも見えていた。比べれば今の若い人たちは大変だ。変化の中での熾烈な競争、海外の不穏な情勢、少子化、そしてそろそろ我々がその核になろうとしている高齢化社会。私たちは間違いなく君らの世話になるのだ。申し訳ないが、頑張つてほしいと祈るしかない。

物故者もぼつぼつ出始めたわれら団塊の世代ではあるが、しかしまだまだ元気である。各クラスの壮健諸氏から、勇気溢れる小文が寄せられたのでご披露する。

リタイアの前、第二の人生をどこで、どう生きるか大分考えた。六十年以上住んだ東京での生活はもう卒業することにして、かつてさかんに往復した山の麓、各地のシニアタウンなどを見て回った。結果、女房の実家のある倉敷市の西北二十km、吉備高原南端の過疎の町・矢掛（やかげ・人口一・四五万人）に移住することにした。決め手は一带に山の気と歴史的記憶が横溢していることだった。古民家があるとは言え義母は施設に入り無人で、再生するには手がかり過ぎ、隣の畑に新居を建てた。そして、三年前の二月に引っ越した。たまたま本などは改めて整理することにしたので、断捨離はできなかった。段ボールの山に囲まれて目覚めた引越しの翌朝、窓の外では雪がちらつき、白いかっぱを着た中学生が自転車ですぐれた坂道を下って行った。

正に里山だった。会社員は一旦会社を出れば何の肩書きも無い。

初めての土地で、身一つで、新たな自分と言うものをどれだけ造れるものか？ まずは放置されていた畑を掘り返し、ジャガイモや大根を植えた。ごく小さな種が芽を出し、実が成るまで成長することに感動した。その内、世間付き合いがしなくなった。村の三人の長老の朝の寄り合いに顔を出し、「いきいきクラブ」の月例行事（麦刈り、うどん作り、そば作り、コンニャク作り等）に参加した。美術館にコネを作り、友人の画商の企画する海外作品の展示会をした。自転車であちこち走って写真を撮り、ブログで紹介した（千年画廊HP参照）。

二年目以降は矢掛町十年振興計画審議会等々の公的組織に参加し、町の理解を深めた。この間、任期三期目の町長は人口の自然減抑制策だけでは町はジリ貧と見て、交流人口の増加に力を入れ、宿（矢掛屋HP参照）など観光関連施設の整備を進めた。江戸、明治の歴史的家並の続く商店街全体の伝建地区化と「道の駅」化の構想もスタートした。よそ者はこれ幸いとその流れに乗り、撮りためた写真にわが勉強の解説をつけ、何と「矢掛町散策ガイド（40P）」二・五千部を発行、二〇一六年カレンダー「備中矢掛・四季彩々」二千部も作成した。



町内の主要観光ポイントをバスでめぐり日帰りツアー三ルートと、昼間の備中神楽十時間連続公演、山陽道をめぐるシンポジウムの開催と言ったイベントも開催した。

今年は矢掛を外部に知らせる「矢掛写真の日」を予定している。経費

は町や県の助成金で結構賄えることを知った。と言えば順調とも見えるが、古い、小さな町での活動はお題目はまとまり易いものの、その実現のための時間管理と行程管理はどうにも馴染めない。会社勤めで身に付けた手法をとりたとは思ってもそうはゆかない。当初は「何でだ！」といきりたつこともあったが、ここに住む限りは、我慢して共存しなければならぬことも学んだ。かくて三年。今は運動量を少し抑え、回りの反応を慎重にうかがいながら進んでいる。建築や遺構で膨大な歴史の記憶が残り、自然が豊かなこの町はほくにとつて一体どんな意味があり、それがどう活かせる

のか？身一つで入学した里山生活はスリルに富んでいる。



墨彩画に魅せられて

B組 井辺 洋一

六八歳にして絵にはまり込んでいる。墨彩画というマイナーな画壇で、ほとんど知られていない。友人を作品展に招待すると、会場に入るなり120号サイズの額が並ぶ光景に圧倒され、十人中九人が「凄いね、すごいね」を連発。そして「これは油絵？水彩画？それとも……」と質問を浴びせてくる。

伝統的な水墨画は、禅とのつながりで語られることが多いせいか、生真面目、根気静けさなどのキーワードを連想させる。これに対し墨が引き立つなら色絵の具も使い、楽しく描くことを求められる墨彩画は、まだ知名度がそれほど高くなく、一般の人に理解してもらうのにも時間がかかる。

そもそも水墨画自体が学校教育の中にまったく位置づけられてこなかったことも



あり、人々の日常から遠いものになっている。われわれ高齢者は学んだ文化を次世代に引き継ぐ責任があり、墨彩画を提唱する日本自由画壇も子供たちの出品料を無料にしているが、なかなか浸透していない。書初めの書のように、夏休みの宿題に水墨画を加えてほしいというのが切なる願いである。

NHK報道局社会部の事件記者だった私は、仕事一辺倒というのが嫌いだ。常

に視野を広げておきたいとゴルフやスキー、囲碁、昆虫採集から阪神タイガースの応援など、人並み以上に時間もお金も使ってた。

それが、五十代で指定難病を告知されたショックと「負けてたまるか」との思いから書道を経て、手本も、完成形もない墨彩画と出会い、生活も変わった。

夏場は遅くても午前五時には起床し、家族が起きるまで二時間は外でスケッチしたり、室内で制作に取り掛かる。

スケッチブックは365日、24時間必携。携帯電話や常備薬を忘れることはあっても、デッサンペンとボールペンは忘れない。

スケッチする対象は車窓から見える沿線の風景だったり、乗客だったり。無邪気な幼子の顔が見えれば、最優先でモデルになつてもらふ。乗り物を降りれば、道端の雑草も魅力的な素材になる。

仲間は約450人おり、多くの会員は伝統的な山水画のように静かな作品を出品するが、私はスケッチする間のないような一瞬の動きを再現、動物に託して人間へのメッセージを伝えたいと考えている。理事長の「独創的で、これからも作品展のアクセントになってほしい」という評価には複雑な思いもあるが、今では墨彩画が常にかつ頭の中を占拠している最高の趣味だ。

絵は元々好きだったが、新宿高校では一年のとき吉江先生の油絵指導を受けた際、夏休みの宿題の「自画像」で悪戦苦闘した記憶が残っていない。

当時の同級生で、裁判官を志し、福岡高裁長官まで勤めた大親友のI君は私よりはるかに上手だった。今は陶芸に凝っている彼は、私の作品をくまなく見て意見を聞かせてくれる貴重なアドバイザーだ。

倫理社会の授業中、退屈しのぎに教科書の余白に横顔を何度もスケッチしたM君を思い出した。居眠りしていても頭が下がらず、長時間同じ姿勢を維持できる特技が好都合だった友は、現在獣医師として活躍している。

日本自由画壇の作品展は、メインが六月に新国立美術館で、十一月には上野の東京都美術館で開かれるのが恒例となつていきます。興味のある方は一度会場に足を運んでみませんか。



地方人の特権

C組 山崎 一彦

一九六四年東京オリンピックの開閉会式のリハーサル。新宿高校の二年生だった私たちは、各国選手団の代わりに、新装なった国立競技場を入場行進し、そのまま観客席から誰よりも早くセレモニーの一部始終を目撃した。

オリンピックによつて日本は大きく変わったと言われるが、取り分け新宿のまち変貌ぶりは著しい。郊外線に沿つて住宅地が拡がり、新宿駅は日本最大のターミナル駅となった。駅舎はビルになり、地下歩道に沿つて次々とショッピングビルが建てられた。それでも、街中に闇市の匂いが残っていたし、都電もトロリーバスも現役だった。駅の西口は低層の飲食店等が立ち並び、その先の淀橋浄水場には、高層ビル群の片鱗すら伺えなかった。

ベビーブーム世代である私達は、様々な軋轢を生みながら



日本社会の間口を押し広げて来た。そんな中、東京で育った私達は、物心つく頃には戦後の混乱も收拾されていて、食糧難も集団就職も他所事であった。大学紛争の中を超売り手市場で就職し、ニクソンショック、石油危機、バブルの破綻と続く経済の大波小波を潜り抜け、多くがハッピーリタイアに辿り着いている。思えば、随分と幸運な集団だった。

そんな東京の恩恵を受けて社会人となった私は、勤務先の関係で東京と札幌の間で転勤を繰り返す生活になった。その間に札幌の生活環境が劇的に改善される一方、東京の混雑ぶりは増々酷くなり、結局、四半世紀前から札幌に居を定めている。

ところが、札幌のような比較的大きなマチでも、東京との間の教育・就職環境の格差が拡大している。その結果、全国から東京に若者が集まるが、江戸時代から東京の若者は子供を産まない。一方、地方にはすっかり子供を産む若者がいなくなってしまうから、日本の人口が減るのも道理なのだ。

それにしても、近年の東京の飛躍ぶりは眩いばかりだ。東京駅の改築、東京スカイツリーの建設、渋谷駅大改造、二〇二〇年東京オリンピック開催。東京一極集中の加速は腹立たしいが、東京が世界で最もダイ

ナミックな街という評価には首肯せざるを得ない。

その東京へ私は月に一回くらいのペースで出掛けている。地方都市で半隠居生活を送っている身でも、東京には何かと所用がある。そんな用事をまとめて東京行きを計画し、こまめに友人達にスケジュールを知らせる。「札幌から山崎が来る」という告知は、忽ち友人の間に駆け巡り、私の予定が優先される結果、効率良く数多くの友人・知人と会うことが出来る。東京に住んでいては手に出来ない地方人の特権だ。



私のテニス人生

D組 重信 淳一

卒業五十年目を迎えて、高校時代の思い出はフィルターにかかった純水のように透明になっている。三年間軟式テニス部に在籍したが、テニスコートが少ない上に、部員が無茶苦茶多く、ボールを満足に打った記憶がほとんどない。

ただ、これを契機に大学でも軟式テニス



同好会に所属していた。一度、やり始めるとやめられない性格で社会人になって十四年目から金沢八景のインドアースクールで硬式テニスに転じ、六八歳になった今も毎週日曜日にス

クールに通っていた。

仲間が高校生から社会人まで、巾広く、多くの人と知り合った。昨年十二月にビルの取り壊しで残念ながら八景インドアータennisは廃校になったが、仲間を募り、現在も杉田テニスでコートを借りて継続している。

もう一つ良かったのは妻もテニス好きで、同じスクールの仲間になり、同じ趣味を持ったことだ。テニスの後、近所のスーパーで食品の買いだしが定番になった。

テニス仲間とは、台北、伊豆高原、山湖、館山、箱根、三浦海岸の合宿に行った。仲間の会社の保有するテニスコートを転々とした記憶もある。台北のテニス場は市内の病院の付属コートで、ANAの支店長だった仲間が無理くり取ってくれたが、更衣室もなく、大通に面した空き地で着替え

た思い出がある。夜の部も行きつけの飲み屋に連れられて、姑娘と片言の中国語で大騒ぎしたのも苦笑いだ。

仲間には横浜市立大学病院の教授、ドイツ証券のトップだった人、近所の喫茶店の女性経営者、様々な経歴の方がいて、普段、話が出来ない人が多く、楽しい会話と為になる教養が身についた。特に、大学病院の教授先生はテレビによく出演される有名人だが、テニスラケットを持つと暴走族みたいなテニススタイルに変貌するので、大笑いだ。

人間、裸の付き合いをしないとわからない。テニスは人間の持つ本能と知略がそのまま出てくる最高の格闘技だと思う。テニスは怪我が付き物で、肉離れを一回経験したが、五十年でそれだけだ。その為、同時に辛気臭いジム通いを四十年やっている。こうなったら、テニスとジムを八十歳までやり抜こうと思う。早く、会社生活を終わりたいが、新国立競技場や首都圏の大規模再開発が待ち構えているので、引くに引けない。早くスムーズにリタイアしたい。



新宿御苑の野鳥

E組 塩田 重勝

昨年、朝陽同窓会のフェイスブックで石川太郎先生、横山玲歩先生が逝去されたことを知った。両先生ともに余談のほうが目白かったというのは、わが身の不徳ゆえだが、余談から教えられたことも多く、今でも両先生に対する尊敬の念は消えていない。

卒業後、校舎が二回も建替えられた上、明治通りバイパスの工事で、母校と新宿御苑が完全に遮断され、今は昔の母校の姿を偲ぶすきもなくなってしまった。あの第二グラウンドの万年堀の穴のことも、完全に過去の思い出になってしまったようだ。

その新宿御苑を、最近では四季折々に訪れるようになった。今どきの中高年のはやりで写真趣味に陥ったためだが、おかげで新宿高校時代には数回しか入ったことのなかった新宿御苑の四季それぞれの見どころ・花の見ごろに多少詳しくなった。

初めの内は花ばかりを撮りに行っていたのだが、次第に新宿御苑に集まる野鳥にも関心が向くようになり、名前も分からないままに写真に撮った鳥は、野鳥図鑑やネット検索で必ず調べている。こんな習慣も、昔の授業中の余談で聞いた「日本人は身の



久しぶりのクラス会、亡くなった入澤義時君を偲ぶ会

まわりの木や草の名前をろくに知らない。外国人に聞かれた時にこたえられないのは恥だ」という言葉が記憶に残ったせいでろう。新宿御苑に触れる機会を得たのだから、そこに集まる野鳥の種類ぐらいつつ紹介しておくと思う。

新宿御苑には大雑把に言って大小五つの池があり、そこに集まる水鳥が、マガモ、カルガモ、オナガガモ、オシドリ、キンクロハジロ、ホシハジロ、カワウ、カイツブリ、オオバン、バンといったところ。池では他にダイサギ、コサギ、ゴイサギ、カワセミも見かけることがある。

イギリス式庭園や大芝生ではムクドリや

ハクセキレイ、カラス、ヒヨドリ程度しか見ないが、新宿高校寄りの「母と子の森」などの樹林ではメジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、ジョウビタキ、ルリビタキなど愛嬌のある小鳥を見つけられるし、キツツキ類のアカゲラ、コゲラを見ることもある。樹木の下落ち葉が散り敷いた辺りではツグミ、シロハラが餌探しをしている。

近年の温暖化によるものか、野鳥の飛来数が減っているのが心配なのだが、生き物のお好きな方は、今のうちに新宿御苑の野鳥たちにも親しんでもらえたら、と思う。



太陽光発電システム

についての一考察

F組 小林 峯子

高校時代で頭に残っているのは、古文の先生が「日本語なのに何が分からないのか分からない。だから教えようがないのよね」と授業中につぶやき、私は「分からないのです。何が分からないのかもはっきりとは分からないのです」と黙って応えていたことだ。

古文と同様になんだかわからないことをそのままに、ややぼんやりとして過ごしてきた。そこに二〇一一年三月十一日東日本大震災と東電福島第一原発爆発である。目が覚めた。原発の重い課題（使用済核燃料、発電コスト、設定外力）を知らず、技術者としてかつて原発施設設計業務に従事していたのだ。

なんとか何かを取り戻したいと、原子力規制委員会・原子力委員会傍聴、再生可能エネルギー世界フェア、PV Res Q（太陽光発電（PV）関連業者合宿）に参加した。再生可能エネルギー推進で施設が拡散している。そのなか田畑や山に現れる黒く大きなPVパネルは好ましくないと感じ、放送大学の学生となり調べました。以下が概要です。

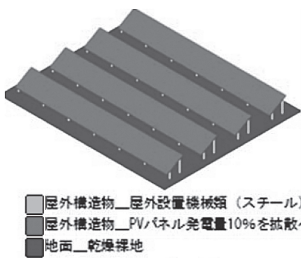
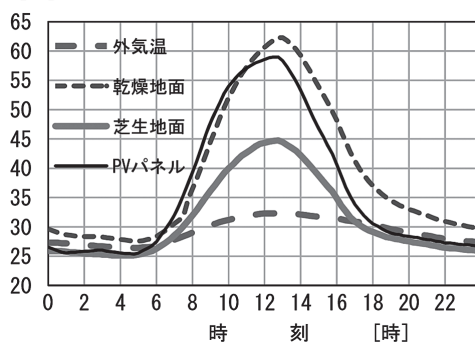


図1 モデル図

メガソーラのPVパネル設置前後をモデル化、3D-CAD対応熱環境シミュレータで太陽エネルギーに対する熱収支計算をし、PVパネル設置による熱影響を明らかにした。PVパネル設置後モデルを図1に示す。

図3 各部表面温度 東京8月1日



11・3℃、日平均で+3・1℃となり、地域はPVパネル設置前より加熱される。PVパネル設置によるH I P変化



図2 メガソーラ例

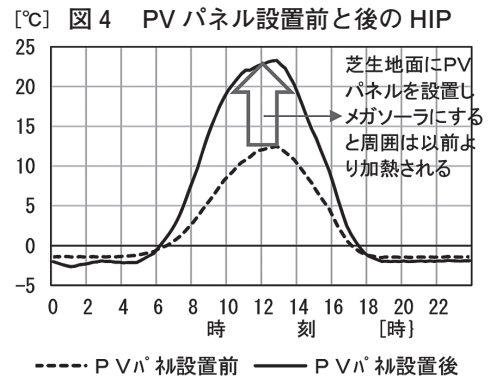
図3で東京八月一日の各部の表面温度と気温の時刻変化を示す。最高温度は外気32・3℃、

また、東京消防庁は、PVパネル設置の施設の火災・消防では感電や発火現象（夜間でも炎の光等により発電が継続）が発生しているのだが、対応は不十分で事例や情報が少なく今後の検討が必要とされている。

このように太陽光発電もまだ開発途上で、市民が育てていかなければなりません。

ところで、最近歌舞伎を見るようになったのですが、役者の様子から台詞がわかります。先生、古文が少し分かるようになりました。

域は以前より温暖化する。



量は設置場所
に依る。植
物の生育
する場所
では大き
く、乾燥
地面や建
物では小
さい。田
畑をメガ
ソーラに
すると地

昼陽会

G組 高市 好人

同期・同好の士による山の会だ。いや、だったと言った方が正確かもしれない。発足のきっかけは入学三十年記念の同期会。山好きの話が盛り上がりスタートしたという。命名はワングルのA組山本陽一君。緩い名前を付けた割に、ご本人はいまだにハードな山行を続けており、最近の緩い行事には参加してくれない。

私が参加したのは九三年秋の日光「鳴虫山」。当時、東武線沿線に住んでいたのでG組同級の中真知子、渡邊玲子両嬢に誘われた。標高一〇三mでさして高くはないのだが、登り二時間はかなり急斜面でキツかった。翌年の二月には雪の戦場ヶ原で私の提案によるXCスキーツーリング。宇都宮大学で教授をしていたE組水谷正一君も参加して盛会だったが、ほとんどが初心者で転ぶ転ぶ。雪中での昼食は楽しかったが、またやりましようの声はXC初体験組からは無かった。

十年ぐらい前から山と同時に街歩きのが増え始め、今ではこちらが中心になりつつある。昨年はどうとう一度も山には行かなかった。創設メンバー達は事情はそれ

ぞれのようだが、足が遠のいている。それに代えて新しい仲間はどうぞん増えている。上野から浅草・深川から蔵前などの東京下町散歩。皇居周辺（写真）、横浜山手、明治神宮、多摩川近くのお花見など各地を歩く会には毎回十人を超す参加者がいる。銚子は当時朝日新聞の支局長をしていたB組柴田真樹君の設定。香港は日航駐在だったA組金子晴彦君を訪ねてのもの。

忘れ難い思い出が多いが、中でも八年前の晩秋の筑波山が記憶に残る。中学以来の友人のE組入澤美時君が同山麓に持つ藁葺



の古民家を登山後訪れた。その日、同君の二冊目の対談集の出版記念会が開かれるのに合わせたものだ。E組の仲間も何人か来ていた。溪流釣り、焼き物、伝統建築などの雑誌編集・発行人として腕を振るっていた入澤君は、二冊の対談本で論客としても注目を集め始めていた。だがこの時すでに、がんに犯されており、翌春に逝ってしまった。その日の彼の笑顔が、中学時代ベビーフェイスともてはやされた笑顔と重なって、今でも時折蘇ってくる。

幽霊も含め現在名簿に載るのは三十六人。うち女性は十四人、比率は往時のクラスよりぐんと高い。会則は一つだけ。年会費千円を払う事。後は事務局長のC組山口啓一君が塩梅してくれる。同期の方で、参加を希望する方は、その旨を記載した葉書を山口啓一 宛（〒154-0002 世田谷区下馬4-27-13）にお送り下さい。

映画と先生の

モノマネが楽しくて

H組 奈良 昭

紙幅の都合で、いきなり本論（？）に入ります。入学最初の頃の石川先生の生物の時間、正確な言葉は記憶していませんが、

「君達覚えておいて。男女の間はネ、所詮肉体関係しか無いんだよ……」、世田谷の、呑気な中学から来た私には、耳を疑う言葉でした。予想した授業のレベルがまるで違う！ 身が引き締まる思いをしたものです。高校の三年間は本当に楽しかった。映画好きでしたから、あの辺の映画館には全て入りましたが、中でもシネマ新宿は忘れられません。伊勢丹前の古いビルの地下、入場料二百円、少ない座席の中央近くに太い柱があり、タバコの煙がいつも立ち昇っていた味のある映画館でした。「死刑台のエレベーター」や「恐怖の報酬」のような特に印象深い作品はここで観ました。

苦い経験もありました。武蔵野館のそばに国際名画座という例の扇情的な看板を出していた成人向け映画館があり、友達とどうしても入りたくて入場料を払おうとしたら、「あなた達あの新宿高校の生徒さんでしょ。こんな映画観ている時間があつたらもつと勉強しなさいネ」と諭され、赤恥をかいて出て来た事がありました。愚かにも学生服のままで入ろうとしたのです。

話題はガラリと変わりますが、先生方のモノマネの話をします。当時の授業の様子を少し思い出してみませんか？

まずは世界史の武井先生、いつも黒板を全部縦割りに使い「ここの所をご理解しな

いと、この問題はお出来にならねェんでありやす」みたいな、まあ率直に言つてメチャクチャな日本語でした（マネはし易かったのですが）。その他、生真面目な英文法津田先生、スタイリッシュな物理有賀先生等よくマネをして皆を笑わせ（化学志賀先生には叱られ）ていましたが、生物辻先生の高僧の法話のような端正な喋り方だけは、どうしても特徴を掴み切れず遂にマネすることが出来なかったのです。それにしても辻先生の植物の図は本当に上手でした。何本もの色チョークを使って丁寧に細胞の図を……。

ほら、皆さん思い出すでしょ。楽しかったあの頃を。出来るならもう一度あの頃に戻ってみたい。期末テストも終り、ミラノ座の噴水横でロードショーの開演を待つてワクワクしていたあの頃へ。新宿文化で観た「シベールの日曜日」のラストシーン、きつと忘れることはないと思っていたあの頃へ。クレージーキャッツの映画を観て笑い転げていたあの頃へ。あの頃、ホントに元気で愉快で、いつも一緒だった、かけがえのない級友達と共に……。



卒業六十周年…… 八回生（新八会）

卒業六十周年を振り返って…私達の高校時代とその後

一、私達の高校時代

私達（男子三〇〇名、女子一〇〇名）は昭和二八年「1953」四月に新宿高校へ入学した。高校生活は落合矯一校長先生との個人面談から始まった。

その後はAからHまでの8クラスに分けられ、勉学に勤しむと共に、それぞれクラブに入って活動した。

クラスとしてのイベントは毎年一〇月初旬に行われる学園祭で一年、二年、三年と三回経験した。その時の主な演劇の演目、出演者等は次のとおりだった。

1 A…構成詩「π」…高坂盛彦、高橋徹也、古屋孜、岩田隆、他

1 B…「蟻部隊」…阿部圭、関淳次、他

1 D…「邯鄲」…土屋襄、宮地清隆、他

1 F…「三年寝太郎」…星野忠夫、早房長治、那波雪子、荒井伸也、鈴木蓉子、他

1 H…「海に行く騎手」…小南吉彦、中島悟、他

2 C…「崑崙山の人々」…吉倉廣、高橋大、関淳次、山田徹、小林晃一、内田正子、星野忠夫、他

2 D…「修善寺物語」…関根巖、松本敏明、稲垣景雍、岩井桂子、細田桂子、小野哲、仲尾次邦夫、他

2 E…「天に啼く山羊」…岩田隆、岡田季信、荒井伸也、宮地清隆、他

2 G…「国境の夜」…花井保、斎藤信三、藤井逸子、岡田克子、藤沢貞夫、高橋哲夫、他

学園祭の準備は夜遅くまでやった。足りない備品や夜食の購入は女性の担当だった。また、学園祭の時はフォークダンスもやった。オクラホマミキサーの曲に乗って踊ったのも嬉しい思い出だ。

各クラブの催し物も、文化系、運動系ともに活動報告の場だった。特に二年のときは、各部の委員長を私達が努めた。

運動会は一〇月、マラソン大会は二月に行われた。マラソン大会は一年の時は井の頭公園で、二年の時は多摩川畔で、男子は一〇km、女子は五km。男子の大会優勝者は玉虫誠君だった。

修学旅行は二年生と三年生の間「昭和三〇年三月三〇日～四月四日」に行われた。旅行日程は次のとおりだった。修学旅行列

車で関西へ（車中泊）→伊勢神宮→奈良観光→奈良泊→平等院、万福寺→（東福寺泊）→京都観光→京都泊→延暦寺、石山寺→夜行列車で東京へ戻った。

薬師寺では若き日の高田好胤師（当時三一歳）の説明を聞いたのも懐かしい。

京都での一泊は東福寺だった。当時では珍しいお寺での宿泊だった。広い宿坊で馬跳びをして遊び住職に注意された。

また、京都での宿泊時にバスガイドのお姉さんたちと夜の京都を楽しんだという仲間や旅行のドサクサに紛れて美人投票をやった、先生から大目玉を食った仲間もいたらしい。

自治会でも頑張った。朝陽時報44号（29・4・27）によれば二年の時の自治会新役員は次のとおりだった。自治委員長…平井宜雄（2C）、副委員長…後藤泰弘（2B）、執行委員長…桂真雄（2D）、渉外委員長…鍋島武彦（2A）、厚生委員長…立壁正子（2B）、新聞委員長…神谷毅（2G）、議長…丸山茂樹（2E）、副議長…高坂盛彦（2B）。また各部の委員長が加わった拡大自治会も必要に応じ開催された。

映画鑑賞も、課外授業の一環として行われた。「山椒太夫」、「二十四の瞳」、「雨月物語」、「野菊の如き君なりき」、「月は上りぬ」等が記憶に残っている。

そして、私達は昭和三十一年「1956」三月に卒業した。編入生のため仲間は三人ほど増え、卒業時には四三〇人程になった。卒業式では高坂盛彦君が卒業生を代表してとても印象に残る挨拶をした。

二、私達の卒業後

卒業後は、進学を経て、社会人として各自色々な方面へ進み、再会したのは卒業二〇年後の同期会だった。これまでの歴史をまとめると次のとおりである。

- *七十六年七月 二〇年同期会 同窓会館
 - *七十九年七月 国鉄弥生会館
 - *八十二年七月 新宿プリンスホテル
 - *八八年七月 青山・ブラッスリー
 - *九一年七月 青山・バリバリ
 - *九四年七月 住友クラブ(六一名)
 - *九九年七月 厚生年金会館(七八名)
 - *〇二年五月 厚生年金会館(九八名)
 - *〇四年五月 厚生年金会館(一〇六名)
 - *〇六年六月 厚生年金会館(一〇七名)
 - *〇八年五月 中村屋(一二二名)
 - *〇九年一〇月 中村屋(九〇名)
 - *一一年四月 中村屋(七七名)
 - *一二年一〇月 C・クルーズ(七七名)
 - *一四年一〇月 京王プラザH(七〇名)
 - *一六年四月 原宿・ベニーレベニーレ
- 私達の同期会は最近では『新八会』と称

している。新宿高校八回卒業生の会という意味でもある。

当初は、今は亡き高松秀昭、荒井量夫、宮木宏明の三君と平島弘二君、高田憲彦君らが中心に名簿の作成などからやってくれ、同期会の基礎ができた。この頃はほぼ三年毎に開催された。その後は出席者を増やすためにも世話人は多い方が良く、という事で今では二五人程が世話人になっている。会を主宰する代表は世話人の中から「再任無し」を基本として選出して来た。開催の間隔も約一年半毎になった。そして、次期代表候補も無くなったので、これからは、代表幹事の滝沢孝之君と小林曉生が世話人代表を兼ねることになった。

世話人会は次の同期会の準備のために年に2回ほど集まっており、ミニ同期会のようになっている。

一方、新八会にはそれぞれ同好の士が出会うグループがいくつかできた。ゴルフ、小旅行、新宿御苑での集い、カラオケ会などを年に数回、楽しんでいる。

卒業五〇年の時には「朝陽」に掲載する記念記事の寄稿を依頼された。この面倒なとりまとめ役を引き受けてくれた小林晃一君が、上手く整えてくれ、良い読み物になった。(朝陽 No.55 (2006) p.2-12)

今年四月に、卒業六〇年ということで集

まったが、我々も七八歳になった。残念ながら、体調が思わしくない仲間や鬼籍に入った仲間も増えて来た。

新八会の現状は次のとおりである。卒業生四三二名中、消息が分かっている人二七八名、亡くなった人九六名、消息不明の人五八名。

次回は傘寿の祝いで、平成二九年(2017)一〇月頃に開催を予定している。それまで体調の管理を充分にして、できるだけ多くの仲間が出席してくれることを望んでいる。

(代表幹事 小林 曉生)



自然薯料理 山薬 清流庵

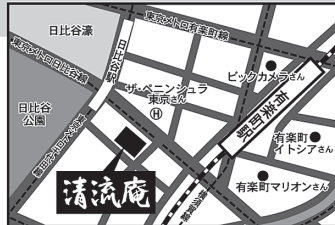
日比谷駅直結
有楽町駅2分

最大40名様のお座敷数炬燵個室あり

8~10名様お座敷個室、4名様BOX個室など多数ご用意いたしております。
東京都千代田区有楽町1-5-2 (東宝ツインタワービル9F) 03-5510-2666



山芋の中で唯一の日本原産種である希少な自然薯。滋養強壮・美肌効果などに役立つ「山の薬」と呼ばれる自然薯の専門店です。



新宿 丸港水産

北海道各地の新鮮魚貝
産地直送厳選素材を集めました

北海道直送の天然帆立の浜焼きや、根室産花咲ガニ・厚岸産の生牡蠣など厳選素材を、漁師街の海の家の様な活気あふれる店内で思う存分堪能下さい



東京都新宿区新宿3-12-12 吉田ビル1・2F
03-5367-2377

〈姉妹店〉 丸港水産 大和店 046-200-2730 神奈川県大和市大和南 1-2-8
丸港浜街道 行徳店 047-390-1105 千葉県市川市行徳駅前 1-17-7

鳥 からあげ とり多津

外はカリッと中身はジューシー。
秘伝だれに8時間以上漬けたんだ
専門店ならではの味わい

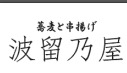
〈東京都〉 根津店 03-5832-7729
千駄木店 03-5832-9625
亀戸駅前店 03-5836-4129
平和島駅前店 03-6450-0281
八幡山店 03-5316-1729
方南町店 03-5305-4129
つつじヶ丘北口店 042-426-8125
三田駅前店 03-5765-2977
落合駅前店 03-5348-7029
東十条店 03-5902-5129
六本木店 03-6447-0032
本郷三丁目店 03-5805-5029

人形町店 03-5652-7329
錦糸町店 03-5819-4229
アトレ吉祥寺店 0422-22-1574
〈神奈川県〉 茅ヶ崎店 0467-81-3374
川崎駅前大通店 044-200-8908
関内馬車道店 045-633-3480
綱島店 045-533-4429
鹿島田店 044-533-4141
〈静岡県〉 磐田店 0538-33-3456
浜松葵東店 053-438-2883
〈宮城県〉 仙台木町通店 022-346-6801



金賞受賞

からあげグランプリ
東日本しょうゆだれ部門
平成24年~27年 四年連続



東京都大田区東蒲田2-30-17 (サンユー東蒲田ビル2階)
株式会社エフアンドビー・プロジェクト
代表取締役社長 織岡 陽一郎 (24回卒)

陸上部の思い出

四二回 堺谷 健治



私たちは新四二回生が我らの母校、都立新宿高校に入学したのは、今を去る二九年前、昭和六二年（一九八七年）四月のことでした。

中学校では野球部の万年補欠、初めての試合出場は卒業記念の紅白戦というほど球技のセンスがなかった私ですが、中三時に学校選抜で出場した世田谷区連合陸上大会走幅跳で入賞したことから、高校では陸上部に入り、中学では経験でできなかった公式戦出場、上位大会進出を果たそうと、入学後すぐに陸上部に入部することにしました。

東京都高体連主催競技会は住所ごとに六つの支部単位で開催され、入学当時の新宿高校の校舎は今と違い渋谷区だったため、現在属している第三支部ではなく、第一支部に属して競技会等に参加することになっていました。

られる東京高校があり、特に短距離・跳躍種目の上位は東京高校がほぼ独占していて、六メートルそこしか跳べない私は全く通用せず、厳しい現実を思い知らされることになりました。

しかし、ここで諦めては中学時代の繰り返し、目標達成のためには種目の変更が不可欠と考え、身長百八十センチと当時の高校陸上界では比較的背が高かった私には、背が高いほど有利な百十メートルハードルをメインとすることがベターだと判断し、一年の夏練習からハードルに取り組むことにしました。夏練習と言えば、陸上部では夏練習中や合宿で、四期上の先輩方が「担当代」として現役生の面倒をみるということが伝統となっており、多くの先輩方にご指導をいただきました。

しかし、当時の担当代の先輩方にはハードル専門の方はいらつしやらず、顧問の先生も陸上競技が専門ではなかったため、図書館などで読んだ陸上競技専門書から得た知識を頼りに、全体練習終了後、一人居残ってハードル練習をしたこともありました。

当時、百十メートルハードルは、支部予選等で基準タイムを突破すると都大会出場権が得

られることになっており、私にとって初めての公式戦、一年秋の新人戦支部予選で無事基準タイムを突破、都大会に出場すると、準決勝で敗退したものの、予選を通過できたことで手応えもつかむことができました。そこで、二年春の目標をインターハイ予選都大会決勝進出に設定し、冬季練習に取り組んでいたところ、支部予選直前の朝練習中に足首を亀裂骨折してしまい、二年春のシーズンを棒に振ることになってしまいました。

春の悔しさをバネに、二年時には、練習終了後、自宅近くの砧公園で基本運動や筋トレに取り組むなどした結果、秋の新人戦都大会では三位に入賞することができました。

しかし、高校陸上最大のイベントであるインターハイ予選には未だ出場できておらず、三年春の目標をインターハイ予選南関東大会進出に設定、冬季練習に臨もうとした矢先、今度はふくらはぎに肉離れを起こし、満足に走れない時期が一月ほど続きました。

体力強化の土台である冬季練習量が不足した状態でシーズンを迎え、練習不足からか春先の調子も不調であったため、このままでは都大会決勝進出も覚束ないと不安にかられました。

そこで、都大会の一月前と準備期間が短い中でしたが、スタート時の踏切足を逆にし、第一ハードルまでの歩数を九歩から八歩に減らすことにより、タイム短縮を目指そうと考えました。

大会直前の変更であったため、第一ハードルで足が合うか不安ではありましたが、これ以外の選択肢はないと信じ、都大会に臨むと、ライバルの不調もあり、二位に入賞、南関東大会の出場権を確保することができました。

続く南関東大会では、予選は突破したものの、準決勝で懸案の第一ハードルに足を引っかけ敗退、付け焼き刃は通用しないのだと思ひ知らされて現役を引退することになりました。

我々が引退した時の陸上部は、男子四名、女子四名の計八名と非常に少ない部員数でした。

これは、キャプテンであった私の幼稚な態度が原因で退部した同期生・後輩がいたことが一因であり、部内全体をまとめることができなかったことを省みれば忸怩たる思いがこみ上げ、反省点ばかりが思い浮かびます。

しかし、反省点ばかりではなく、感慨深い思い出もあり、中でも特に思い起こされるのは夏合宿のことです。

当時の夏合宿は新潟県越後湯沢において陸上部単独で行われており、ほとんど日陰のない山あいに四百メートルアンツーカー(土)の競技場があり、非常に暑く、また、突然の雷雨なども多かったと記憶しています。

新宿高校陸上部の夏合宿名物として、最終日前日の午後練習で合宿の総仕上げに、四百メートルレペティション(全力疾走)を十五本行うということが、当時、伝統とされておられ、体力に自信のなかった私は行きのバスの中で非常に憂鬱であったことを強く覚えています。

一年時の合宿は、男子全員が同室だったので、夜だけは盛り上がるのではないかと楽しみにしていましたが、あろうことか隣の部屋が担当代の諸先輩方の部屋であり、構造上襖一枚で隔てられているだけの針のムシロ状態。二年生の先輩が決めた部屋割を恨んだものです。

肝心の夏合宿ですが、多くの担当代の先輩がお見えになり、活気あふれる練習となりましたが、つまるところ監視の目が多いこととなり、一本々々の練習に手が抜けない状況で、練習効果は非常に高かった分、体力的に非常にきつく、練習量も早朝散歩に始まり、午前練習、午後練習、夕食後のミーティングと陸上漬けの毎日となりました。

一応持つて行った何冊かの教科書と夏の課題は一度も表紙を開くことがなく、休み明けに実施されるテスト結果が正確に予測できたものです。

さて、恐れていた四百メートル十五本ですが、連日の疲労で足の状態は最悪、私よりも担当代の先輩の方が元氣なくらいで、ひどいタイムでしか走れず、単に走っていただけという状況でした。

二年時には、昨年のリベンジと意気込んではみたものの、前日の跳躍練習の影響で、一年時よりも悪い状態、後半は一本おきにしかな参加できず、結局九本の実施にとどまり、悔しい思いのまま、最後の合宿は終わりました。

同期諸君の指令により、担当代になってから不足本数の「借金」を返済するため、現役生に交じって四百メートルを走ったことは、「今では」いい思い出ですが、引退後に走った四百メートルは、格別の味わいだったことは言うまでもありません。



原点としての「戸山戦」

二七回 永田 洋光



ラグビーという競技は不思議なスポーツだ。

新宿高校ラグビー部でしかプレー経験がない私が、日本を

代表するような選手たちや世界的に有名なコーチたちと、対等にラグビーの話ができる。彼らはみな、私が話すことにもきちんと耳を傾けてくれる。十五歳から十八歳までの間にラグビーに費やした時間には雲泥の差があり、経験した試合のレベルだって、隣町までと月までの距離ぐらいの隔たりがあるにもかかわらず、だ。

おそらく、ラグビーが成立した十九世紀後半のイングランドで「対戦相手をリストpektする」という文化が育まれて定着し、それが今も全世界的に受け継がれているからだろう。どんなに『へたれ』なラグビー経験であっても、それを持っているだけで、それなりのリストpektが得られるのだ。

リストpektのルーツは、「対抗戦」という試合形式が長く主流だったことにある。ラグビーはホーム&アウェーで相互に相手を訪問し、互いの努力の成果を披露する

ことが競技の目的とされ、世界一を決めるワールドカップも一九八七年まで開催されなかった(サッカーから遅れること五七年だ!)。まあ、今やトップレベルはワールドカップを頂点にしたむき出しのチャンピオンシップ体制のなかで、各チームが激しく勝敗に執着していて、かつてのような牧歌的な趣は失われつつあるが、それでもリストpektという概念はしっかりと生き残っている。

私がこの競技に惚れ込んで、それを追いかけて記事を書くような仕事を生業にしたのも、実はこの「対抗戦」が原体験としてあるからだ。

そう「戸山戦」である。

ことラグビー部に関して言えば、戸山高校の方が『先輩』で、同校ラグビー部出身のリンボウ先生こと林望さんが高校時代を振り返ったエッセイ『帰らぬ日遠い昔』には、引退試合となった『新宿戦』に快勝したエピソードが収録されている。ニュアンス的には『楽勝だった』に近い。それぐらい戸山高校は『格上』だった。

私が三年生だった昭和四九年の戸山戦まで、新宿高校は過去に一勝しただけでそれ以来九連敗だった。つまり、私たちの代が負ければ十連敗となるところだった。

当日の土曜日、戸山高校に向かう都営バ

スの後部座席で、私と隣り合って座っていたチームメイトは真顔で「今日勝ったら本当に泣いちゃうかもしれない」と言っていた。

たまたま両校の力関係が「今年は勝てるかもしれない……」というバランスだったのでそうなったわけだが、果たして私たちは勝った! 勝ってしまったのだ!

そのときの達成感と解放感は今でも克明に覚えている。

スポーツにおいて、目標として定めた試合に勝つことがどれほど素晴らしい体験かを、身をもって知ったのである。

それからもう一つ。

くだんのチームメイトは、と言えば、試合後に涙も見せずにガールフレンド(?)と歓談していたが、そんなことより、顧問の津田先生が満面に笑顔をたたえていた情景が忘れられない。

津田先生から試合後に褒められたのは、在学期間中に一度、前年に大敗した青山高校を相手に、練習試合で0対8と負けたあと「初めてキミたちのラグビーらしい試合を見せてもらった」と言われたことが一度あっただけだ(今、思うと先生独特の皮肉だったのかもしれない)。

だから、先生の晴れやかな笑顔が強く脳裏に刻まれたのだ。そのとき何を言われた



のかはすっかり忘れてしまったが。
新入部員だった一年生のときには、練習がある日は学校に行くのが苦痛だったことを思うと、自分がこういう経験をしたこと自体が、まさに信じられなかった。
今、仕事でエラそうに「勝つためにはハードワークを重ねるしかない」というようなことを書いているけれども、書いた本人は『ハードワーク』（つまり猛練習です

ね）が大嫌いで、本当に情けない『落ちこぼれ』部員であった。でも、情けないなりにラグビーを続けたおかげで、スポーツの醍醐味を少しだけ味わうことができた。また、レベルは違っても『壁にぶつかった』選手の気持ちも、ある程度は理解できるようになった。

二年二ヶ月程度の在籍期間だったけれども、それほどラグビー部の日々が今も強く自分のなかに残っているのだ。

ただし、その分ラグビー部のOB会は、ちよつと『苦痛』である。

何しろ、自分自身の記憶から消去したいような新入部員時代の情けなさを知っている先輩たちと同席しなければならぬのだ。その場で、「ふーん、今そういう記事を書いているんだ」と言われようものなら、背後に「あのオマエがねえー」というニュアンスを読み取って、とっさに穴を掘って消え去りたくなる。

これはきつと、何歳になってもぬぐい去れない『きまり悪さ』なのだろう。そして、今は、そういうみっともなさも含めて丸ごと自分を抱えて生きていくより他ないと思える程度には、年齢を重ねて面の皮が厚くなった。

だからこそ、思うのだ。
こういう経験を、未来を担う現役の高校

生たちに何とか味わわせてあげられないものか——と。

新宿高校ラグビー部が部員不足から廃部になったと聞いて何年も経つが、日本代表が大活躍した昨年のワールドカップ以来、二〇一九年に日本でこの大会を開催することもあって、今、ラグビーはあたかもバブルのような人気に沸き返っている。そんな折に、どなたかラグビー部復活に動きませんか？

「オレってこんなに情けない奴なんだ……」という痛切な挫折感。

「なんでこんな練習やらなきゃならないんだ！」という強烈な不条理感。

そして、その末に待つ「うおおおーっ！」と叫ぶ以外に言葉に表せない、勝利の達成感——どんなスポーツにもそういう要素はあるけれども、ラグビー部OBとしては、ぜひそうした『生きていく上で必要なエッセンス』を、この競技を通じて今の現役たちに経験してもらいたい。

痛いけど、楽しいですよ！

(スポーツライター)



音楽部

切れ切れの思い出

五回 高橋 春江



私は教育制度
の変わり目に当り
新制高校最初の一
年生として入学し
ました。

上級生は三年間後輩の入学なしで過した
後へ私達一年生四百人の内女子百人が
入って来たのですから興味津々、入学当初
休み時間には上級生の教室の窓々から一斉
に見られていて校庭を横切るのにはちよつ
と勇気が要るような感じがした時代でした。
入学したら部活は音楽部と庭球部と決めて
いましたので迷わず入部。部長は宮田豊
太郎先生、ご指導は村上澄子先生で練習は
校内唯一の階段教室の音楽室でした。

男子は先輩のコンクール優勝の実績が
あったので男声合唱に、女子は女声三部合
唱と言うことになり日々練習に励みました。
授業が休講で放課後まで時間があいた時
でも校外に外出、練習時間に戻ってきました。
守衛のおじさんに「三羽鳥が風を切っ
て帰って来た」と言われたりしました。
ピンク色の表紙の小さな本の女声合唱曲

集の短い曲から始めて大曲の「美しく青き
ドナウ」に取り組み三年間歌い込みました。
今でも「美しく青きドナウ」が聞こえてく
ると神経がピクッと反応し、やがて顔がほ
ころびます。

一年生の時音楽部で十国峠へ遠足に行き
ました。宮田先生、村上先生も一緒に一緒でし
た。頂上へあと一登りと言うところで大き
な岩に腰を下ろして休んだ時お二人はお子
様のこと等話されていて宮田先生のお嬢さ
んが健康優良児で横浜市から表彰されたこ
と等、側で聞いて居りました。

頂上で合唱かな?と思っていましたが定
かではありませんが他の登山者に気づかっ
て合唱はしなかったように思います。

音楽部では朝練をやった時期があったそ
うです。私は家が遠かったので参加しな
かったのでしょうか。吉野(土居)洋子さん
に伺ったところ、朝は声が出にくいと言わ
れていますが、朝練のあとはすっきりして
とても気持ち良かったそうです。今考え
ると貴重な体験をのがして残念な事をした
と思います。

混声合唱は三年になってからでしょうが。
「流浪の民」を仕上げた事を鈴木(三田)
陽子さんから伺って思い出しました。例の
小さい本の混声合唱曲集、黄色の表紙でし
た。

卒業された先輩方が六声会の練習に來ら
れた時や文化祭の時など男声合唱の素敵な
声、素晴らしいハーモニーを折に触れ聴け
た事はうれしく幸せなことでした。

今思えば素晴らしい仲間に出逢え、三年
間音楽部で良かったの一言につきます。



一年生入部の頃 音楽室にて
宮田先生(左端)、
村上先生(ピアノ)と

同窓会員 随筆 一般寄稿

百周年記念登山に向け 劔岳集中登山

二五回 渡辺 康隆



一・目的

新宿高校創立百周年を記念して、海外の高峰（例えばエベレスト、マッキンリー）への挑戦を計画中です。そのため、

朝陽山岳会（仮称）ではトレーニングを兼ねた山行を実施します。究極の登山対象が海外の高峰なので、一般的な登山より少々ハイグレードな山行となります。

二・集中登山とは

複数パーティーが、それぞれのルートを通して一つの山に登る方式で、山頂で全パーティーが集合する事が前提になります。山頂では参加者全員が喜びを共有します。

最もポピュラーな集中登山は槍ヶ岳で、東・西・北の鎌尾根と穂高からの縦走です。

三・劔集中登山での具体的ルート（案）

- ① 室堂から劔沢小屋経由別山尾根
- ② 馬場島から早月尾根
- ③ 樺平から池の平小屋経由北方稜線

④ 黒部ダムから真砂沢ロッジ経由長治郎雪溪

①から順に難ルート。他にも源治郎尾根とか八ッ峰とか岩登りコースがありますが、岩の精鋭が多く参加してくれたとき初めて実現出来るので、今回は見送ります。

ここで問題は、各隊がほぼ同時に登頂する（出来る）ことです。明らかに①②より③のほうが時間かかります。また④は雪溪の状態で時間がかかったり、場合によっては登頂断念もあり得ます。

なお山頂からの下りは別山尾根経由で劔沢→室堂とします。

四・時期

二〇二二年が百周年なので、その五年前九五周年の二〇一七年（来年）がひとつの区切り、第一候補になります。天候が一番安定する「梅雨明け十日」で七月末～八月初めが狙いです。

五・朝陽山岳会

「求む友」山岳会メンバーを募集中です。老若男女、劔登山の経験の有無等一切問いませんが、本気で登山に立ち向かう気持ち（精鋭）を求めます。また、「劔より槍が良いとか、穂高が良い、いや北岳」と言ったご意見もあるでしょう。25回渡辺康隆（PX115421@nifty.ne.jp）or 同窓会事務局に連絡下さい。



◆地質・地下水 ◆広域水収支 ◆土壌・地下水汚染 ◆計測のことは...

有限会社 アキテック
Aquitech Engineering Co., Ltd
代表取締役 芳野 裕(24回)

〒164-0003 東京都中野区東中野1-54-7 田嶋ビル301
TEL: 03-5330-9171 FAX: 03-5330-9172



同期会便り

三九回生プレプレ三十年の会

平成二十七年十一月二三日（日）伊勢丹向かいのクルーズ・クルーズ新宿店にて、「三九回生プレプレ三十年の会」が開催、本校の卒業生でもある英語科の西尾信子先生、そして体育科の船山恵子先生のご出席をいただき、のべ六十人が集結いたしました。

サブライズゲストとして登場した『ニセ』戸田先生（体育科）が黒シャツ・黒パンツ・黒塗り（？）で乱入。参加者全員に新宿高校体操を指導したところで会場がウォームアップ。

初めての参加者から「単身赴任でたまたま東京近辺に勤務して参加できた」「髪の毛の量が少なくなったので思い切って剃ってしまった」「高校当時の音楽活動を現在も続けています」など自己紹介があり、二八年の歳月を見事に体現した同級生、あるいは当時とまったく声変わりのしていない少年（？）に再会することとなりました。

子どもが大きくなって犬の散歩に安らぎを見出す人、ピアノやフィギュアスケートを習い始めた人、家業のお寺や幼稚園を継



つたな出合いの場になっております。（プレプレ）には「二年後の卒業三十年

いだ人、交通事故からなんとか復活した人、親の介護でヨレヨレの人、苗字が元に戻ってしまった人、それぞれの人間模様が交錯する中三年前の再会をきっかけに偏差値も社会的地位も容姿も性別も何もかもフラットな関係で再会を喜び合える、あるいは、新しいは、新

にはまた会おう！」の意味を込めました。次回も多くの同級生といい顔で会えることを願っております。

（39回世話人・吉田 元）

卒業四十周年同期会（二七回生）

二〇一五年一月七日、私たち新二七回生は卒業四〇周年の同期会を開催しました。同期全員に呼びかけるのは三〇周年、三五年年に続く三回目です。

北は北海道、南は鹿児島と全国各地からまた遠く海外はカリフォルニアやインドネシアから、総勢一五七名が集い、恩師の尾造保高先生（C組担任・英語）と斉藤績先生（H組担任・地理）にもお運びいただきました。会場は新宿ワシントンホテル内・ウェストシテイホール。

卒業アルバムの写真が順繰りでスクリーンに映し出される中、立食パーティー形式で、「じゃんけん大会」などもやりつつ、大いに盛り上がりました。

二次会は少し離れた三井ビル内・季膳房へ。参加者は一五二名とほぼ全員が同じ店に移動です。こちらはクラス別のテーブルに着席して、いつまでも話は尽きません。

一・二次会を全員仕様でやったのは今回初めてでしたが、各々ゆつくりと語らえたことがとてもよかったと思います。

(実行委員長・小林 誠)



撮影はいつも写真家・伊藤真さん（新 28 回）にお願いしています

卒業五十周年同期会（十七回生）

初の戦後生まれの第十七回生は、平成二
七年四月二六日（日）マリオット銀座東部
ホテルで卒業五十周年同期会を開催した。
出席者は百十五名。担当幹事はG組。

竹中哲也君の司会で始まり、同期会代表
幹事の塚本壽雄君の開会挨拶、日本書道研
究会会長の要職にある嶋田（広瀬）恵子さ
んによる五十周年記念揮毫「自楽平生道
（日常生活で自楽する）伝寒山」、元AFS



幹事のG組。バナーも嶋田恵子さんの自筆

留学生で同期のスーパード国際派でスウェー
デンからこの日ために帰国した上田香さん
による乾杯の発声で開宴。

しばしの歓談の後、高校学園祭でハワイ
アンバンドとして結成して以来、アマチュ
アであるが公演活動を続けている同期四人
組 Falk Wave（宮坂義人君、山川尚義君、高
橋克典君、田中博君）の演奏で盛り上がった。



Falk Wave の演奏

年代代表幹事の田中俊郎から朝陽同窓会から
の連絡事項（年会費納入と創立百年記念募
金のお祝い、五月末の総会での森欣司君の
特別講演出席依頼）、最後に渡辺莊逸君の
指揮で「六中健児の歌」を声高らかに歌っ

その後、
クラス別
写真撮影、
当日参加
の同期
カップル
二組、石
田尚志君
+ 蘇智美
さんと高
橋宏明君
+ 明石美
千代さん
の紹介と
挨拶、学

て、次回も健康で再会できることを祈念して中締め。銀座の街に散っていった。

なお、十七回生の卒業五十周年記念関連行事として、平成二六年十一月二六日に開催された第十七回朝陽クラブで、桜内篤子さんが「翻訳は儲からない」と題して講演。本誌前号で「初の戦後生まれが歩んだ半世紀」と題して十二名が寄稿。平成二六年五月三十日に行われた朝陽同窓会総会で森欣司君が記念講演「技術と事業——国際化からグローバル化へ」（要旨は本誌別掲）を行った。

また、十七回生は、還暦を期に同期会を毎年四月第三週末ごろ開催しており、本誌がお手元に届く時には、平成二八年四月十七日にクルーズ・クルーズ新宿店で、同期会代表幹事、渡辺博正君を中心とした日組が幹事を務める「古希くず」同期会は開催済みとなっている。その様子は、朝陽同窓会HPでご覧下さい。

（田中 俊郎 記）



古稀同期会開催（15回 いちご会）

いちご会（15回生同期会）の古稀同期会は全員が満七十歳に到達した平成二七年六月十三日（土）にクルーズクルーズ新宿店にて開催され、百名の参加があった。

今回は五月にスタートした百周年募金に協力しようという意味合いもあって、同窓会長を務めるA垂水さん、記念事業実行委員長の水崎さん（24）のお二人が冒頭に挨拶された。次いで、恒例通り最遠方（仙台）から参加されたF中川さんの乾杯で宴席はスタート、会半ばで初参加或いは久々に参加された方々数人に近況報告をしてもらった以外では特別のセレモニーはなく、参加者は次々相手を変えてはお互いの近況に、また思い出話に花を咲かせた。

この他にミニいちご会が二回開催され、三月二一日（土）の第二八回はF中川英邦さんが東日本大震災の体験に基づく「地震に備える」、十二月五日の第二九回はA水野高信さんが「武井の世界史絵画版」を講演、滅多にない体験談、絵画への趣味から入って歴史まで探究した成果と、各々四十名の同期が集まり、興味の尽きない話に耳を傾けた。

講演の後に、その倍の時間を費やして懇



平成27年3月21日第28回ミニいちご会（於、四谷クラブ）

生にとっても楽しくも意義深い年になった。
（西出 紀久 記）

親会を
楽しん
だのは
いつも
のこと。
十二
月には、
文化庁
長官の
C青柳
さん、
元最高
裁判事
のC金
築さん
が学校
授業の
ゲスト
ティー
チャー
として
招かれ
るなど、
平成二
七年は
一五回

新樹会女子会 (十回生)

昭和三十三年卒業、第十回生の会「新樹会」の女子会を平成二十七年十一月七日、ホームグラウンドの新宿で開催しました。伊勢丹から明治通りを挟んで向かいのビルという母校を間近に感じられる会場での開催であつたためか、開会前からすっかり高校時代に戻つたような賑やかな華やいだ雰囲気となりました。毎年二十名前後の参加がありますが、今回は十九名が遠近各地より参集しました。

開催日に因みラッキークーの座席カードを引き当てた方に乾杯の音頭をお願いし、しばし歓談の後に時間制限を設けて近況やこれからの予定などを報告してもらいました。揃つて後期高齢者となり、体調に関する話題も多くなりましたが、みな暗黙の了解で頷いていたのが印象的でした。

さて、私たちの女子会ではホットな話題や関心事について、長らく研究を続けて来られた方や、仕事として関わってきた方のお話を聞くことも楽しみの一つとしています。

今回は長年建築の設計に携わってきた建築士の方に、連日マスコミで報じられている、横浜市のマンション杭偽装工事に関する

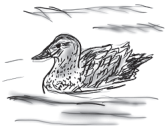
る問題について話していただきました。建物の荷重とそれを支える地盤の役割についての説明でした。マンションに限らず戸建て住宅を建てるときにも地盤のチェックが重要とのことでした。

また、新築後十年間は、主要構造部分（基礎・土台・壁・柱・小屋組等）と雨水の侵入を防止する部分（屋根・外壁・開口部）について瑕疵が認められた場合は業者側が責任を持たなければならぬとする「住宅の品質確保の促進等に関する法律」があることについても話されました。質問が殺到しましたが、時間に限りがあり、問題点も様々なので、後日個々に相談にのつて下さることにしました。

予定時間は瞬く間に終了。次回を三人の幹事に託し、再会を約して散会となりました。

☆尚、「新樹会総会」が六月十八日（土）、クルーズ・クルーズ新宿店にて開催されます。

（西村 道子）



喜寿の会 (九回生)

二〇一五年十一月八日十二時より九回生の喜寿を祝う会が開かれました。場所は二〇〇九年から引き続き四回目の参宮橋にある代々木倶楽部でした。前回が二〇一四年だったので、次は二〇一六年五月に開催の予定でしたが、折角の喜寿の年を皆で一緒にお祝いしようと急きょ今回の会となりました。会を追うごとに参加者数が減るのは仕方のないことで、七〇名の出席でした。

当日は生憎の雨降りでしたが、幹事よりも早く会場に現れる方もあり、受付場所から早くも「久しぶりー」とか「元氣だった？」とか旧交を温める喜びの声が飛び交いました。開会の挨拶は恒例により遠距離参加者で初めて挨拶をする人ということで、今回は大阪にお住いのF組の稲田 拡さんでした。

歓談を楽しんだり、組別と全員での写真撮影、校歌斉唱もしました。C組の大橋進さんが写真とビデオ撮影をして下さったので、九回生のホームページを見て下さい。又長い間連絡先の分からなかったB組の鈴木真彦さんからB組幹事の石井健二さんに近況報告が届いたので、皆さんにご披露しました。鈴木さんは一九七〇年代からアメ



みにして、是非ご参加下さい。

(B組幹事

中川 純子)

リカのカリフォルニアで研究生活を続けておられ、そこを永住の地とされているようです。連絡先の不明な方が少なからずいらっしやるので消息が分かるのは嬉しいことです。

次回は新宿高校卒業六〇周年を祝おうということで、二〇一七年に開催予定です。皆様又の再会を楽し

傘寿記念同期会

(六回生)

私たち六回生は、二〇一五年に八〇歳になるので、十月最後の土曜日に傘寿記念同期会を、いつもの京王プラザホテルで開催しました。連絡できる同期生二九二人に通知した結果、約八〇人の仲間が出席。毎回参加する常連が北は北海道・岩手から、南は四国・九州からと、全国から集まりました。

旧友の一人は、今年中にもご夫妻でオーストラリアへ移住するための手続き中という壮大な計画を、全員に熱く語ってくれました。トップ商社に勤務時代の赴任地だったとはいえ、北半球から南半球へ、です。私たちの歳を考えれば、この同期会が今生の別れになるかも。スゴイですね。

また宮崎県の片田舎(ゴメン)から今年も上京してくれたアイ君は、原子力工学の専門家として最先端大企業で活躍後にリタイアしていたのですが、三・一一を契機に核への考えを変え、今は地元で画期的な方法による、無農薬無公害の超短期栽培に成功した現況を披露してくれました。そして、研究の果実である野菜を、小樽からの級友に、みんなの前で贈ったのでした。

手元にある資料で大雑把な計算をしてみ



ます。入学時に一年生は女性一〇〇、男性三〇〇の計四〇〇名と聞いていましたが、今、名前が判っている六回生は四四四人。この中から消息不明の男女計四九人をさつぴくと三九五五人。内訳は女性が八八人で男性三〇七人。このうち既に鬼籍に入った方が、女性一三人、男性九〇人の計一〇三人です。即ち女性七五人（八五%）、男性二一七人（七一%）の計二九二人（七四%）のクラスメイツが元気に傘寿を迎えたことになります。育ち盛りの小学生時代を食糧難の戦時下で過ごした私たち六回生も、やはり女性の方が強くて偉大であることが判ります。

さて、同期会出席者の賛同を得て、今年も同期会を開催いたします。

九月三〇日（金）京王プラザホテル

同期の皆様。お待ちしております。

世話焼き十人組
（文責 山岸 哲男）



六新会（二回生）発足三十周年

第十五回六新会は、二〇一五年九月二六日（土）正午から新宿プリンスホテル二五階、風雅で開かれた。一九八五年、それまで休眠していた同期会を、六新会と命名し新発足して以来満三十年を迎え、会員の年齢は八十台半ばに近づいているが、今回も出席者三十九名と前回に劣らぬ盛会となったことは誠に喜ばしい。

代表幹事より、母校の近況、朝陽同窓会などについての報告のあと、物故者を偲んで黙祷を捧げた。乾杯、歓談と続いた後、出席者のスピーチに入り、久しぶりの会員や益々執筆活動が盛んな作家をトップバッターとし、大阪からわざわざ出席した会員、各所の元大学教授等の蘊蓄溢れる苦心談、目下執筆中の著作について語る会員等、母校の思い出を交えながら続いた。中には、ネットによる国際的な「振り込め詐欺」の話や地震や河川の氾濫による災害の話など、関心を惹く話もあり、会員の幅広い活躍に改めて興味を持たれた人も多かった。スピーチも大分時間オーバーになった所で、旧校歌、健児の歌を全員で合唱、七十年前の青春時代を思い出した次第である。

中締め、挨拶、音頭、記念写真撮影と続

き、散会は午後二時半、来年の再会が待たれることである。

（六新会幹事 後藤 澤之助）



16・6・16目前に

「朝陽十六会」開く

一九三七（昭和十二）年四月に旧制府立六中に入學、太平洋戦争の始まった翌年、四二（同十七）年三月に卒業した十六回生の「朝陽十六会」は、二〇一五（平成二七）年も六月十六日に、数寄屋橋交差点東南角に移転した「桃杏楼」で開催した。出席したのは天田憲治、宇田川敏夫、粕谷俊治、武英雄、村岡久志、山埜井乙彦、渡辺和郎の七人。卒業七三周年、皆九一歳前後であつたが、この会に参加、再会できたことを喜び合つた。

会は、正午から渡辺和郎君の開会あいさつに始まり、乾杯、事務報告のあと、しばらく歓談。そのあと全員が立つて、近況、消息、軍歴、体験談、六中の思い出話などを次々に語り、記念撮影。次期世話人に渡辺、粕谷、山埜井の三人を決め、二時半過ぎに散会した。

「朝陽十六会」は毎年、六中卒業にちなんだ六月十六日（6・16）に開いているが、次はいよいよ二〇一六年、16・6・16を迎える。六月十六日（木）に同じ「桃杏楼」で開く予定で、できるだけ多くの諸兄が参加されることを期待している。亡友のご家族も参加されるので、家族や介護者同伴大

歓迎である。なお、卒業時、途中入退学などを含め三一六人の在籍者がいたが、この会開催時には、一九六人が亡くなり、六五人が消息不明、現会員は五五人となっている。

（山埜井 記）



TOKYO <http://www.gerbeaud.jp>



BUDAPEST <http://www.gerbeaud.hu>

パナッシュジャパン(株) 代表取締役社長 宇井 雅人（新22回生）

支部便り

北海道朝陽会便り

北海道朝陽会は二〇一五年七月四日（土曜日）に札幌グランドホテルで開催しました。今回は二九名のご参加をいただき、三時間たっぷり楽しい時間を過ごすことができました。二次会も例年どおり二八回の先輩の経営するバーで遅くまで語り合った方が多くおいでになりました。また、百周年事業の宣伝で応援団を含め六名のご参加をいただき盛り上げていただき、ありがとうございました。

北海道朝陽会には東京方面からご参加いただく方も多くいらつしやいます。北海道はご存知のように広いので、東京からの方が「近い」場合が多いのが現状です。今回は帯広から十三回の大先輩にご参加いただいておりますが、今後札幌近郊以外の方にも参加しやすい方法を考える必要があると思っています。

次回も札幌で行うことになっております。二〇一六年七月二日（土曜日）午後五時より札幌グランドホテル「東雲」を予定しておりますので、北海道外からだけでなく、北

海道内の方のご参加も幹事一同心よりお待ちしております。ご連絡は江本（三一回）
hokkaido_chouyou@yahoo.co.jp または 080-1889-0610 までお願いたします。

北海道朝陽会 幹事 江本 匡（三一回）



宮城朝陽会支部便り

当会は、宮城県内に在住する府立六中・都立新宿高校出身者の集いであり、実業界をすでに卒業されたOBのほか、現役社会人や学生からも広く参加を募り、活動しています。年代を問わない交流とアットホームな雰囲気、創立以来のDNAとして引き継がれています。

昨年は残暑厳しいなかの八月二九日、二一名が参集し、賑やかに懇親会を開催しました（於…ホテル法華クラブ仙台）。

本部からは、垂水会長、西出事務局長が駆けつけて下さり、母校における現役後輩諸氏の奮闘振りや新宿界隈の変遷などにつき、貴重な情報をプレゼン下さいました。



これは東京を離れ生活する我々にとり、毎年恒例の人気コーナーです！後輩諸氏の元気な様子を拝聴し、一同、新たな勇気が湧いて参りました。

また、転勤で宮城県を離れてもお會員に名を連ねていただき、会を支えて下さる方が多数いらっしゃるのも当会の特徴の一つですが、今回も関東方面より、心の故郷・仙台へ、20清田啓夫さん、31中越一統さん39吉田元さんをご参集下さったほか、42齊藤毅人さんにおかれましては、ナント奥様（ご懐妊中！）と可愛いお嬢様まで一緒にご参加下さいました。皆様、毎年本当にありがとうございます。当会にとって大切な応援団、誠に心強い限りです！

會員諸氏から近況やご活躍ぶりの報告がなされたあと、シメは恒例の「六中健児の歌」。福島県いわき市からご参加の吉田さんの名指揮のもと、全員で高歌放吟。「また元気に頑張ろう！」とお互いの肩を叩き合い散会いたしました。

このように愉しく活動を展開している当会ですが、唯一の悩みのタネは「学生会員ゼロ」です。後輩諸氏には、ぜひ、東北大学など仙大を受験され、杜の都仙台にて青春を謳歌されることをお勧めいたします。有意義な学生時代となるよう、当会も力の限りバックアップいたします！

（三八回 小田島 肇）



群馬朝陽会より

第五回総会について、及び 同会世話人代表交代について

北関東群馬に朝陽同窓会支部をというところで二〇〇八年十一月に約二十名の會員が集まつて第一回群馬朝陽会総会を開催してから八年弱、隔年開催で今年は第五回総会を予定する年になりました。係りも今年十一月に総会を開催すべく動き出しております。残念ながら第一回総会以降参加人数も初回の半数ほどで推移していますが、是非今まで以上の盛会にしたいものとの思いで頑張っておりますので是非皆様のご参加をお願いいたします。どうぞよろしくお願いたします。

開催要項案

（詳細は後日お送りする案内状にて）
日時 二〇一六年（平成二八年）
十一月十二日（土）午後 高崎にて
場所 高崎ワシントンホテル（予定）

係りとして群馬朝陽会のお仕事をさせていただいて八年近く、顧問に元群馬県知事の故小寺弘之氏、合気道の権威で高崎洞窟観音・山徳記念館を管理されている荒井俊

幸氏を迎えて開催された第一回総会は記憶に残る盛会でした。隔年開催のこともあるでしょうが総会の様子も世界の様子も開催年ごとに目まぐるしく変化してきました。

東日本大震災、二回の夏季オリンピック、そして突然の顧問小寺氏の訃報、と係りの頭の中を色々な思いが浮かんできます。その係りの代表として仕事をさせて頂いて来ましたが私・齋藤賢一も癌治療とその後遺症で何回かの入院を余儀なくされ、体力的に動きづらい身体になってしまいました。そこで群馬朝陽会世話人代表を後輩の浅原寛人（新25回）をお願いすることにしました。総会や群馬朝陽会のことについてのお問い合わせは下記へこれからはお願いいたします。宜しくお願いします。

群馬朝陽会 連絡先

世話人代表 浅原寛人（新25回）
住所 〒370-3521 高崎市棟高町 884-1
Tel 027-372-4698
携帯 090-3208-7191
Mail kantol07@com.home.ne.jp

以上 宜しく願いたします。

（群馬朝陽会世話人 齋藤 賢一 新15回）

多摩朝陽会支部便り

二〇一五年七月十一日の土曜日。第十三回多摩朝陽会総会が、京王プラザホテル多摩に於いて三人の旧師、三名の六中の大先輩を含む二二名の参加者を集めて、今回も賑やかに執り行われました（毎年この日を楽しみにご参加いただく方も多く、世話人としては嬉しい限りです）。開会に先立ち、まずは全員で記念撮影を済ませたあと、世話人を代表して二十回宇賀神博さんより開会の辞。続いて朝陽同窓会会長でもいらつしやる十五回垂水尚志さんよりご挨拶を頂戴し、また同窓会副会長でいらつしやる二四回宮崎直道さんより母校の近況と、当日受付で配布した百周年記念事業についての説明文書の簡単な解説をいただきました。旧師、尾造保高先生による乾杯のあとは、お待ちかねの歓談タイムへと突入します。

同窓会支部会の総会、という名前前ではあるものの、その意味合いは懇親会であることは間違いないところですので、あまり余計なことはせずに、皆さんに食事とおしゃべりの時間を多く楽しんでいただいた方がいいのではないかと。事前の世話人の集まりの際に出た意見を元に、今年は講演的なものや、母校の現状をスクリーンで紹介する

などということ省略しましたが、これが奏功したか、例年よりお食事が多く余ってしまうくらい、皆さんお話に花が咲いていたように見受けられました。

会の後半では、旧師岩波裕治先生による百周年史の中では語られることのないであろう、新宿高校の隠れた興味深いエピソードのご紹介や、今回初めて多摩朝陽会にご参加いただいたお二方による自己紹介（そのうちのお一人は米国ニュージャーシーに日頃お住まいで、今回十数年ぶりの帰国と本会の開催が運良く重なったため、急遽ご参加いただいたとの由。有難うございました）を交え、約二時間半、楽しい時間を過ごしました。

恒例の六中健児の歌を元氣よく歌い、無事お開き。元氣のいい何人かのメンバーはその後、河岸を変えて二次会に流れ込んだようです。

来年も、皆さんと元氣に笑顔でお会いしたいと思います。今まで参加されたことのない方でも、大歓迎ですので、是非お近くに同窓生がいらつしやったら、お誘い合わせの上、ご参加ください。お待ちしております。

（二三回 大内 哲）

第14回多摩朝陽会のお知らせ

日 時：平成28年7月2日（土）18時より

場 所：京王プラザホテル多摩

問合せ先：042-371-5123 河合（5回）、

メー ル：tama.choyokai@gmail.com、

またはFacebook「多摩朝陽会」



東海朝陽会便り

最近二年間開催されないままになっていきます。そこで現時点の東海朝陽同窓会の実情を報告しつつ、今年こそ新たな気持ちで開催できることを期待してその準備を始めたいと思います。

私の知る限りかつて「東海朝陽同窓会」はあえて大げさな言い方をしますと二十世紀末に名古屋で開催されていました。参加者数やどのような会であったかはわかりません。

今世紀を迎え二〇〇九年春に朝陽会の東京本部（15期秋山小南氏）から、たまたま15期で岐阜県在住の私宛に、東海地区の朝陽同窓会を開催せよとの指令を受けました。さっそく一期先輩の名古屋中日ドラゴンズの役員だった井出俊氏に連絡し、井出氏に代表幹事をお願いし、実務を私がすることとし、二〇一〇年秋再興第一回「東海朝陽会」を開催いたしました。

開催にあたっては、先ず本部からいただいた東海地区朝陽会名簿から愛知、静岡、岐阜県在住一三〇名に、東海朝陽会設立のお知らせと入会の可否を往復はがきで打診いたしました。その結果高齢やその他に事情で不参加が四十名、入会希望者は九十名

でした。次に入会希望者九十名に第一回東海朝陽会開催をお知らせしたところ参加者三一名によってスタートとなりました。翌年第二回、一年あけて二〇一三年に第三回となり、今日に至っています。

打ち明け話をすれば、幹事の井出氏は東大野球部で六大学戦の勝ち点を挙げた名投手でした。ドラゴンズに入団して以降マスコミから注目を浴びる選手時代、球団役員を経て、東海地区では「ドラゴンズの井出」でした。その井出さんが今年ドラゴンズ球団を退団して名古屋を去ることになったのです。ということで羊飼いのいない羊となった東海朝陽会です。もう少しお待ちください。

十五回 古川 秀昭



新宿三丁目駅E4出口直結
新宿高校から徒歩5分

レストランクルーズ・クルーズ新宿

TEL 03-5485-3900

パーティ

チーム新宿 同窓会プラン ¥6,000 (税別) ※フリードリンク付き / 6名様〜 / 3時間制

スペシャル特典

こちらのプランご利用の場合「100周年記念事業委員会」募金PJにお一人様100円が募金されます

ランチ

朝陽ランチプラン ¥4,300 (税別) ※フリードリンク付き / 2名様〜 (6名様〜個室利用可) / 3時間制

パーティー
最大
200名まで



詳しくはこちら

<http://www.ginza-cruise.co.jp/fair/shcy.pdf>

関西支部便り

関西朝陽会総会は平成二十七年十月十日（土）十二時～十四時迄の二時間、阪急ターミナルビル十七階「さつきの間」で開催された。参加会員は二十三名、本部から宮崎直道副会長（24）がご出席されました。会は渡辺信久氏（34）の司会で進行。濱名正二支部長（24）の挨拶、森住弘氏（中20）の音頭による乾杯でスタート。歓談をはさんで、宮崎直道副会長より母校の現況や創立百周年記念事業についてスライドを交えてご紹介していただきました。続いて、伊藤星文氏（22）、渡辺洪氏（中19）、岡田華織氏（53）、石井純哉氏（66）にスピーチをしていただきました。集合写真を撮影、校歌・健児の歌を斉唱し、最後は世話人代表である青柳司氏（6）からの挨拶で閉会しました。今回は昨年までの金曜日夜開催から土曜日昼開催に変更したことにより、多少ご出席者の層が変わったという印象を持ちました。

（西島健太郎・44）

○関西朝陽会世話人一同

関西朝陽会では、青柳（6）、中野（14）、濱名（24・支部長）、渡辺（34）、西島（44・事務担当）その他で世話人に当たっております。本部事務局なり関西世話人な

りその他の関西在住者にアクセスがあれば連絡は伝わるようになっておりますので、どうぞご遠慮なくご連絡下さい。

（報告者 44西島 健太郎）



九州支部便り

平成二十七年 歓談中の話題紹介

新年会

二月二七日、恒例「月川」のもつ鍋を十一人（R21小代、3石井、7小泉、10森、12成瀬、14岡本・佐治、16佐藤、28小林、29山下、40山川）で囲み、「育」なる言葉に話が弾みました。

従来の知育・徳育・体育に食育が加わり耳馴染んだところで、近年スマホ・ゲーム等に依存し昼夜逆転睡眠不足の青少年が急増、「眠育」が必要とされているそうです。

総会

十月三十一日、今年も天神「福新樓」にて参加十八名（小代、石井、7豊田、8新川、森、佐治、15野上、佐藤、17芝原、19諫山、23安武、25高野、小林、29古世・山下、野中、52浜島、15西出本部事務局長）で開催。昨年は戦後七十年の節目。昭和二十年戦災で無試験入学となった府立六中生は二度の校名変更で六年間在学、都立新宿高校三回生として卒業された由。

またこの日は、九州交響楽団オーボエ奏者の小林支部幹事長が、白鳥の湖・紅葉などを演奏されました。美しい音色に触発さ

れ、話題が趣味の楽器に及びました。少なからぬ会員が(安武・リコーダ、高野・チェロ、野中・フルート、浜島・トランペット等)に親しんでおられ、会員による演奏会が実現されるかも!?

忘年会

十二月二五日、中州「コザック」にて、参加(小代、石井、豊田、12島松・成瀬、14岡本・佐治、15野上、佐藤、坂本、高野、28小林・平岡、29古世・山下)で開催。

コザックは、博多在住五六年・中州で独立して五十一年の森先輩のお店で、諸会合の二次会では多くの会員がお世話になった思い出多き場所です。二七年末で「店仕舞い」されるに当たり、会員貸切忘年会の場をご提供くださった森先輩に感謝いたします。

*文中敬称略

(域外会員 佐治 尚雄)



朝陽USA支部便り

朝陽USAは北・中央・南アメリカ大陸にお住まいの方を対象としており、現在会員数は三八名。以前アメリカ大陸に在住していた方も含め、グーグルのメーリングリスト上で活発な情報交換をしています。母校の入学式・学園祭や恩師のことで盛り上がることもあれば、慣れない異国の地に引越してきたばかりの新会員にお役立ち情報を提供する場面もあつて「新宿の仲間ってどこにいてもやっぱり素晴らしい!」と朝陽USAを通して母校の絆の深さを強く感じています。

総会・同窓会は二年に一度、偶数年開催のため、昨年は全米規模の集いはありませんでしたが、会員の比較的多いロスで三月と十月に昼食会、シカゴで十二月に忘年会が開かれました。

ところで朝陽USA同窓会のユニークな点は毎回開催地が違うことで、ロス、ラスベガス、サンフランシスコと来て、今年は初めて中西部のシカゴでの開催です。毎回場所を変えることについては当初賛否両論だったのですが、「このチャンスに今まで行ったことのない土地に行ける。しかも同窓生とワイワイガヤガヤ!」と、今では二

年に一度の修学旅行風同窓会を楽しみにしている常連さんが増えました。米大陸にお住まいの方はもとより、この時期シカゴに来られる予定がある皆さん、是非ご参加ください。詳細が決まり次第、FACEBOOKにも情報を掲載しますので「いいね」もどうぞ宜しくお願い!

最後になりますが随時新会員募集中です。アメリカ大陸に留学・在住の方、是非ご一報を。お待ちしております!

代表幹事 横田 康子(三四回)

第4回朝陽USA総会・同窓会

- 日時: 2016年10月15日(土)
午後4時(ソーシャルタイム)
午後6時総会・同窓会開始
- 会場: シカゴ市内
レンタルハウス(会場未定)
- 会費: \$60-\$70 前後(未定)
- 問合せ・申込先:
シカゴ幹事: 高橋玲子(33回)
tel: 1-773-330-6679
E-mail: reikott@mac.com

入澤法律事務所

辯護士 入澤武久（新36回生）

新36回生代表幹事を拝命しております入澤武久です。親子三代弁護士を生業としており（父親は都立戸山高校出身です。）、事務所は、日本橋1丁目（日本橋交差点直近）にあります。

一般的な民事（相続，離婚を含む）・商事件の他，各種の契約書，社内規程，就業規則等の作成やリーガルチェック，株主総会の運営・指導等も取り扱っております。その他，証券事件，労働事件，建築瑕疵事件などの分野の扱いも御座います。

〒103-0027

東京都中央区日本橋1-2-10 東洋ビルディング9階

入澤法律事務所

辯護士 入澤武久（東京弁護士会所属）

TEL：03-3273-5759

FAX：03-3273-5758

e-mail：nihonbashi@irisawa-law.com

●栄研化学株式会社（東証1部）

社外取締役，指名委員会委員長，監査委員会委員，報酬委員会委員

●明星電気株式会社（東証2部）

社外監査役

●シンフォニアテクノロジー株式会社（東証1部）

コンプライアンス委員会委員

●東京弁護士会労働法制特別委員会委員（副委員長）

●日本大学法科大学院非常勤講師（労働法）

（以上は，平成28年2月15日現在）

臼井総合法律事務所 弁護士 臼井 義真 (19回) 〒100-0013 千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル 4 階 TEL : 03-5157-8989 FAX : 03-3500-0099 e-mail : y_usui@usui-law.jp http://www.usui-law.jp/	笹木和義法律事務所 弁護士 笹木 和義 (25回) 〒737-0811 広島県呉市西中央5-8-29-201号 電話 : 0823-32-7288 Fax : 0823-32-7289
坪井昌造法律事務所 弁護士 坪井 昌造 (26回) 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目10番4号 南青山NKビル4階 電話 : 03-5771-8041 Fax : 03-5771-8042 E-mail : tsuboi-lawoffice@mu.h.biglobe.ne.jp	やまぶき法律事務所 弁護士 佐藤 貴則 (27回) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-1 シンコー・ミュージック・プラザ 5階イースト・ウイング 電話 : 03-5577-6901 FAX : 03-5577-6902 E-mail : sato@yamabuki-law.jp
(医)社団 赤坂まつの矯正歯科 院長 松野 功 (27回) 〒107-6102 港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル2F TEL : 03-5573-8893 FAX : 03-5573-8892 http://www.ak-matsuno.com/	税理士法人 アドヴァンス会計 副代表社員税理士 松野 (平田) 淳子 (27回) 〒154-0004 世田谷区太子堂1-12-39-7F 電話 : 03-5787-3255 Fax : 03-3413-6255 E-mail : j-matsuno@advance-tax.com
山本会計事務所 税理士 山本 展也 (27回) 〒150-0042 渋谷区宇田川町2-1 渋谷ホームズ508 電話 : 03-5459-3411 Fax : 03-5459-3413 E-mail : LDZ00547@nifty.com	いわさき眼科 医学博士・眼科専門医 岩崎 寿子 (35回) 〒160-0022 東京都新宿区新宿3-32-5 日原ビル3階 電話 : 03-5367-5455
島崎会計事務所 公認会計士・税理士 島崎 主税 (28回) 〒160-0023 新宿区西新宿7-1-7 A310 電話 : 03-3361-4793 e-mail:cpashima@ace.ocn.ne.jp	登坂法律事務所 弁護士 登坂 真人 (29回) 〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町6番地 キャナルサイド呉竹101 TEL : 03-3513-7981 FAX : 03-5261-9855

矢島税務会計事務所 税理士 矢島 守 (34回) 〒190-0033 東京都立川市一番町3-31-39 TEL : 042-511-6810 FAX : 042-507-3657 e-mail : yajimal15417@jcom.zaq.ne.jp	松山税務会計事務所 代表税理士 松山 弘行 (36回) 〒104-0031 中央区京橋2-1-1 第二荒川ビル202 TEL : 03-6225-2330 FAX : 03-6225-2339 E-mail : matsuyama-kaikai@nifty.com http://www.matsuyama-kaikai.com/
医療法人社団恵比寿会 淳クリニック ・内科（呼吸器内科・消化器内科・気管食道内科） ・小児科・放射線科 理事長 院長 内藤 淳 (28回) 〒150-0021 渋谷区恵比寿西1-14-2 ツムラビル2F TEL・FAX : 03-5489-0463 http://www.ebisukai.server-shared.com/	小泉整形外科医院 医学博士 小泉 隆司 (34回) 〒157-0068 世田谷区宇奈根3-13-21 TEL : 03-3417-4781 FAX : 03-3417-4781
包装資材販売会社 株式会社 エムエイティ 代表取締役 富田 裕夫 (15回) 〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2-11-4 TEL : 03-3707-4768 FAX : 03-3707-3589 http://www.m-a-t.co.jp	ジユク！ファースト！！ 弁護士 木村 眞一 (16回) 〒100-0004 東京都千代田区丸の内3-4-2 新日石ビルディング9階 高橋法律事務所 電話 : 03-3213-5771 FAX : 03-3213-5774 E-mail : s-kimura@abox3.so-net.ne.jp
(一社) 生活サポート基金 ～市民が市民を救う社会へ～ ・生活再生相談・融資・個人再生ファンド ・福祉施設管理・運営事業 代表理事 藤田 愛子 (16回) URL http://www.ss-k.jp	有限会社 ナカ薬局 中 千 鶴 (15回) 中 眞知子 (18回) 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9 TEL 03-3351-3011 FAX 03-3359-9991
喜寿記念 第六回 鴨田茜竹書展 日時 : 平成28年5月17日(火)～22日(日) 11:00～19:00 (最終日は17:00) 会場 : 銀座 鳩居堂3階画廊 中央区銀座5-7-4 Tel.03-3574-0058 後援 : 産経新聞社 日本中国文化交流協会 (旧姓 山浦恒子 10回生)	三 代 目 校 舎 は 七 階 建 て ビ ル に 平成17年3月 落成

母 校 便 り

前校長所感 校長 戸田 弘美
「感謝をこめて」朝陽同窓会の思い出



定年を迎えた今年度までの五年間、多くの朝陽同窓会の皆様のご支援、ご協力をいただきました。ありがとうございました。

うございました。

朝陽同窓会の最大の思い出は、何と言っても平成二四年九月の創立九十周年記念式典です。式典第Ⅱ部の記念講演を吉村幹事長にお願いました。ずっと「内藤町」育ちで新宿の変遷を誰よりもご存じの吉村幹事長が適任と思い、白羽の矢をたてました。「わがフルサト内藤町」というテーマのお話は、在学当時の校舎や教室内での旧友との語らい、通学風景の写真も交えた、たいへん興味深く楽しいご講演でした。

また、九十周年誌の表紙画は、同窓生の版画家である百瀬晴海さんに作っていただきました。新校舎と夏空、向かいの道路に咲いていた昼顔を描き、新宿高校の「今」を象徴する、勢いがあり清々しく、私の大

好きな作品です。

次に印象深いのは臨海教室です。着任した平成二三年は東日本大震災が同年三月に起こり、臨海教室を中止にしました。翌年から復活させ、平成二五年から大賀海岸への大遠泳や、一日目の避難訓練を実施しています。新計画を企画し実踏する際には、朝陽会役員の方々が同行し一緒に知恵を出してくれました。毎年の臨海教室では多くの水泳部OB、OGが忙しい仕事や学業の合間を縫って駆けつけ、笑顔で熱血指導をしてくれます。臨海を経た生徒の成長は、先輩方のご支援の賜です。

一方で、生き方を考えるキャリア教育でも朝陽会の皆様にお世話になりました。一年の新教科「人間と社会」では各界で活躍している方々を招いて講演だけでなく生徒との意見交換をしていただき、また、進路部発行の通信「新宿進化」に青春期の進路選択の悩み等を書いていただき、生徒が進路を考える際の「生きた教材」となりました。人材の宝庫である朝陽会だからこそできる取組みに感謝しております。

思い出は尽きません。今後とも新宿高校をよろしく願っています。

着任のご挨拶

校長 加藤 隆



全国でご活躍の朝陽会の皆様もますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび前校長戸田弘美先生のご退職の後を受け、四月一日付をもって都立小笠原高等学校の校長から本校に転補いたしました加藤隆でございます。歴代の校長が残されました大きな業績を受け継ぎ、本校をさらに発展させるよう微力ながらも務めてまいります。

本校は「進学指導特別推進校」として近年目覚ましい躍進を続け、昨年度も「進学指導重点校」にも迫る実績を上げることができました。今年度も理数研究校、英語教育推進校、伝統文化教育推進校の指定を受けるとともに、進学指導コンサルティングの対象校となるなど意欲的に教育活動の改善と推進にあたっております。

今後も次代を担うリーダーの育成を目指して、明るく闊達な生徒諸君の旺盛な学習意欲に応える学力の向上を図りながら、全人教育の充実に努めるよう一層組織的な学校経営を進めてまいります。

同窓会の皆様には、臨海教室の実施や大学模擬授業、キャリアガイダンスへの同窓生講師の推薦などでご支援いただくばかりでなく、既に本校百周年記念事業への準備を始めていると伺っております。さすが伝統ある学校の伝統ある同窓会であると感謝しております。

本校の一層の発展は同窓会があつてのものと存じます。今後ともこれまで同様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

母 校 便 り

副校長 中川 徹



平成二十七年
度から新宿高校に着任いたしました。今年度も朝陽同窓会の方々からの熱いご支援をいただき、無事平成二十七年
度を終えることができました。ありがとうございます。

毎年のことではありますが、臨海教室では多くの水泳部OBに参加していただき、厳しい中にも暖かな指導のもと、安全に全四期が行われました。

また、今年度から始まった新教科「人間と社会」やキャリアガイダンスにおける講

演会では、同窓会の推薦により多くのOBの方々には講演をしていただきました。この新教科の特徴は、体験活動や演習を取り入れ、道徳教育とキャリア教育の一体化を図ったことです。本校の大先輩方の素晴らしいお話を聞くことができ、生徒たちも大感激でした。

このように朝陽同窓会の方々と、現役生徒たちの交流が増えることは、生徒たちにとって良い刺激となり、また目標にもなる、まさに素晴らしいキャリア教育になつていきます。今後もこのような機会を増やし、多くの経験をお持ちの先輩方からの講演、助言を頂くことを考えております。

さて、生徒たちは朝の気持ちのよい挨拶から始まり、夜の自習室での勉強に終わる毎日です。自習室では、いつもの座席にいつもの仲間が、同じ目標を達成するために黙々と勉強に励んでいます。互いに切磋琢磨し合い、励まし合う姿は、さすが「チーム新宿」、素晴らしい光景です。センター試験の結果も例年以上の出来で、大学合格実績も大いに期待できます。

また、平成二十七年
度には、理数に関して特色ある教育活動を推進するなど、理数好きの生徒の裾野拡大に取り組み理数研究校の指定を受けました。東京大学やJRR車両基地、スカイツリーと雷観測等、身近な

ところから理数に興味を持たせ、理数に秀でた生徒の能力の伸長を図りました。

今年度も新たな取り組みを入れながら、新宿高校は進化し続けてまいります。同窓会の方々には、今まで以上にご支援・ご協力を賜りたく、今後もよろしくお願い申し上げます。



平成27年度主な行事

始業式	4月6日		
入学式（70回生）	4月7日	男子125名	女子194名
セミナー合宿（1年次生）	4月10日～11日	箱根	
運動会（駒沢公園）	5月8日		
戸山戦	6月4日		
臨海教室	7月24日～8月8日		
宿泊防災訓練	7月29日、30日		
朝陽祭	9月5日、6日		
勉強合宿	10月1日～3日		
修学旅行	12月10日～12日	沖縄	
合唱コンクール	1月19日		
マラソン大会	2月4日		
学力調査（1年次生）	2月9日		
卒業式	3月15日	男子150名	女子167名
修了式	3月25日		



4月 入学式



バラ会が丹精こめたバラ

平成27年度 母校行事アルバム

7～8月 塩見臨海教室



5月 運動会

6月 戸山戦



9月 朝陽祭



雪の中庭

3月
卒業式



平成28年度 異動一覧 (非常勤および経営企画室を除く)

教職員

平成28年4月1日

氏 名	転 出 先 等	転入者氏名	転入前所属	教科等
戸田 弘美	退職	加藤 隆	小笠原 (全)	理科 (物理)
永田 正博	退職	田村 智恵	戸山 (全)	国語
谷山 尚代	退職	長島 さおり	武蔵丘 (全)	国語
小林 啓子	日比谷 (全)	横田 成洋	葛飾野 (全)	地歴公民 (世界史)
福崎 勇二	広尾 (全)	座間 隆	白鷗高・白鷗附属中	地歴公民 (政治経済)
伊藤 重信	三田 (全)	坂本 太一	墨田川 (全)	数学
霧生 智信	国立 (全)	岩下 啓史	国分寺 (全)	数学
三澤 義徳	県立川口北 (全)			
先山 厚子	退職	青柳 利陽	板橋 (全)	理科 (化学)
吉田 尚史	小山台 (全)	上松 樹宏	新規採用	理科 (化学)
小林 克之	第一商業 (全)	室井 裕介	新規採用	保健体育
工藤 尚子	白鷗高・白鷗附属中	菊地 愛	千早 (全)	外国語 (英語)

2007年および過去3年間の大学別合格者数 (現役+既卒)

国公立大	2007	2014	2015	2016
	59	66	67	68
北海道大	1	1	5	2
帯広畜産大				1
弘前大				1
秋田大			1	
東北大		3	4	3
山形大				1
群馬大			2	1
茨城大			2	1
筑波大	1	1	7	8
埼玉大	1	7	2	4
千葉大	4	10	9	14
お茶の水女子大		1	1	1
電気通信大	3	4	1	4
東京大				4
東京医科歯科大			2	1
東京外国語大	1	3	6	2
東京海洋大	2	1	4	2
東京学芸大	4	9	9	8
東京芸術大	1	1		1
東京工業大		1	6	4
東京農工大	5	5	10	8
一橋大	2	4		2
横浜国立大		5	8	12
信州大	1	2	3	1
静岡大		2	1	
金沢大		1		
名古屋大				1
京都大		1	1	1
大阪大		2		2
神戸大				2
九州大				1
首都大東京	5	16	11	17
横浜国立大	2	1	4	2
他の国公立大学等	9	13	10	8
国公立大学等計	42	94	109	120
現役大学進学率	71.5%	80.1%	79.4%	78.0%
クラス数	8	8	8	8
入学時の倍率	1.72	2.08	2.17	2.09

私立大	2007	2014	2015	2016
	59	66	67	68
青山学院大	20	32	30	39
学習院大	11	16	11	21
北里大	6	7	11	10
慶應義塾大	12	18	25	29
工学院大	5	13	6	6
國學院大	10	9	7	8
国際基督教大			3	2
駒澤大	26	23	10	5
芝浦工業大	5	53	67	36
上智大	6	26	20	19
成蹊大	21	20	16	14
成城大	24	4	12	12
専修大	16	14	10	4
中央大	23	49	49	39
津田塾大		14	4	8
東海大	14	12	10	1
東京女子大	3	31	18	39
東京電機大	8	7	12	6
東京農業大	21	11	24	23
東京薬科大	2	2	4	8
東京理科大	22	55	59	50
同志社大			1	1
東洋大	29	42	40	28
獨協大	3	3	9	3
日本大	51	52	48	46
日本女子大	4	29	29	17
法政大	38	71	51	75
武蔵大	15	10		2
東京都市 (武蔵工) 大	25	15	10	8
明治大	65	102	105	132
明治学院大	26	22	17	15
立教大	39	65	59	71
早稲田大	36	65	61	98
以上の私立小計	586	892	838	875
他の私大短大	204	142	111	92
私大・短大計	790	1034	949	967
大学・短大総計	832	1128	1058	1087
卒業生の数	309	317	310	318
現役大学進学率	71.5%	80.1%	79.4%	78.0%
クラス数	8	8	8	8
入学時の倍率	1.72	2.08	2.17	2.09

部活動紹介 音楽部

顧問 小峰 和則

今年度の音楽部（通称「うた部」）は演奏依頼の多い、多忙な一年でした。

まず五月一六日、夏の全国高等学校野球選手権の大会歌「栄冠は君に輝く」収録に参加。八校合同三〇〇人のコーラスと一〇〇人の吹奏楽での演奏でした。ここで収録された映像は、甲子園での大会中、全試合五回の裏終了後に会場内で流されました。

続いて六月十二日、東京国際フォーラムで行われたオリンピック・コンサートに出演し、歌手のmiwaさん、俳優の藤本隆宏らとオーケストラ伴奏で歌わせていただきました。この模様はNHK総合TVで放映されました。

二日後の十四日「北とぴあ合唱の祭典」での池辺晋一郎さんの個展（作曲家・本校卒業生）に先生の出身校というつながりで特別出演させていただく榮譽にあずかりました。

七月一日には新宿文化センターで、東京都合唱連盟主催の東京都合唱祭に参加。同月二五日NHK全国音楽コンクール東京都予選で金賞受賞。八月六日同コンクールの本選は残念ながら銀賞止まりでした。九

日には西新宿シニア活動館での納涼祭に呼びいただき、楽しく歌わせていただきました。九月五日、六日は六日校内の文化祭のステージに立ち、それと並行して六日には東京都合唱コンクールに出場し、三年ぶりに金賞を受賞しました。

同月二七日東京オペラシティ・コンサートホールで「岡本知高ソプラニスタ・リサイタル」にお呼びいただき、岡本さん、バリトンの加来徹さん、ピアノの河原忠之さんとで童謡のメドレーを歌わせていただきました。その間にもTBSドラマ「表参道高校合唱部」にコンクール聴衆（歌いませんでした）としてエキストラ出演もありました。

十一月三日には東京都高等学校文化祭の地区大会に、翌年一月十日は同文化祭中央大会に、十九日には本校合唱コンクールに参加し、三〇日には三楽病院糖尿病患者の会「みらく会」新年会で二十分ほど歌い、二月六日に東京春のコーラスコンテストに参加し優秀賞受賞、二一日は光が丘のJcityアート展に参加しました。

今は三月二九日の第八回定期演奏会を目指して頑張っております。

部活動紹介 バドミントン部

顧問 飯島 博久

バドミントンの顧問歴は三十年ほど。二十年前も前から、大会会場で真っ白なユニフォーム「新宿高校 東京」は目立っていました。当時の部員たちとよく話しました。「なぜ、新宿ってあんなに強いんだろう？」ホームページの大会結果を見ると、中学時代の戦歴などで各選手の経歴がわかります。通常、強豪校は強豪中学から選手を入学させ、そのまま強化するのですが……。新宿の部員は入学してから強くなっている！

新宿高校のバドミントン部に関わって、その謎が解けました。長年指導に当たっている先生を中心に、大学生コーチやOBによる指導体制が確立されています。短時間ながらも、バドミントンに最も大事な下半身強化トレーニングを含む、効果的な練習メニュー。そして何より「上手になりたい」という部員たちのあくなき向上心がそれを支え、選手個々の実力がアップします。また、個人競技でありながら、チームとして戦う団結力も培われ、団体戦ではほとんどの年で、都大会進出を実現させています。むろん目標は東京都五位以内、団体戦での関東大会出場です。かつて一度だけ女子

が出場を果たしましたが、近年は強豪私立上位高校の壁を破ることができません…。ただ関東大会出場は結果であり、それを目指すことが、この部の活力となっていることには間違いありません。

厳しい練習と礼儀など確立された規律は、部員たち一人一人の人間力を磨く場となっています。一部には「厳しいバドミントン部」との評価もありますが、新宿高校の部活動の中で、一定の存在意義を示しています。



離任恩師ご挨拶

ふりかえって

永田 正博（国語科・在職十二年）

教員として最後の勤務校でした。私が着任した年は、旧校舎を使用する最後の年でした。私の高校時代に多く見られた校舎のタイプであり、古くて、鉄の窓枠が少し変形していて窓が閉まりにくい箇所もありました。職員室には西側から夕日が入り、職員室の窓や壁や書棚の多くの本がオレンジ色に染まりました。秋が深まると新宿御苑の木々のみごとな紅葉が眺められ、まるで窓枠という額縁に紅葉の風景の油絵が掲げられている、そんな印象の時節もあり、言葉では表すことができないほどの感動を覚えました。

着任したその年の十二月、新校舎に引越しました。生徒は自分の机と椅子を持って移動です。新校舎に入るとすぐに生徒の探検開始！校舎全体に「ワー、キャー」という声が響き渡っていました。今となっては、この引越し作業は私にとって印象深いものとなっています。

旧校舎の時代には、正門が高島屋側の方

にあり、正門に入ってすぐの左脇に同窓会の朝陽会館がありました。コンクリートの建物でした。私がまだ若い頃、都立高校の国語科の先生方の研究会が活発で、ある時朝陽会館が研究会の会場になりました。その時に私は初めて新宿高校に来たのです。同窓会が会館を持っているとはさすが伝統のある学校だと感じました。私が本校に着任した時も、その朝陽会館がそのままにあり、部活動で活用され、職員の仕事場としても活用されていました。さまざまな事情で、校舎改築に伴い朝陽会館がなくなったことは、たいそう寂しく感じます。

さて、図書館の中に、廊下側の壁に沿って同窓会からの寄贈図書のコナーがあります。設置して既に六年経過しています。さまざまな分野の書籍があるので、同窓会と在校生とをつなぐすてきな場所になればと思っています。今後もこのコナーが更に充実していくことを期待しています。

これまでに同窓会からさまざまな形でご支援をいただいたことに対して、心からお礼を申し上げます。

生徒に育ててもらった九年間

霧生 智信（数学・在職九年）

新宿高校で九年の歳月を過ごさせていただきました。九年間の間に六四、六七回と二回の卒業生を送り出すことができました。昨年六七回生を送り出すにあたってPTA会報に「君たちは三年間をあっという間に全力で駆け抜けて行きましたね」と書いたことを記憶しています。まさに、私の九年間を振り返ってみても、まったく同じであつたなと感じています。単に仕事が忙しかったということではありません。日々成長し続ける新宿生と関わっていくためには、こちらと同じベースで、いやそれ以上に自分自身がレベルアップしていかなければ生徒の前に立つことができなかつたということです。

子は親を映す鏡という言葉がありますが、私は常日頃から生徒は教師を映す鏡だと自分に言い聞かせながら教壇に立っていました。生徒が頑張る、頑張らないは、こちらが、やる気があるかないかにかかっているのだからと。そう、まさにこちらからの上から目線でした。しかし、今思うと、それは逆だったのだと感じています。何事に対しても一生懸命な新宿生の姿をこちらが映

し出していたのだと。つまり新宿生の頑張りがこちらの能力を引き出してくれていたのだと強く感じています。本当にありがたいことです。

さて、着任してから関わってきたサッカー部について書かせていただきます。進学校であれば春で引退という学校も多い中、甲子園を目指さない高校球児がいないように、全国大会を目指さないサッカー部員がいるはずはないと、少なくともその予選の始まる夏休み後半までは全員が引退しないで活動するということで指導してまいりました。したがって引退の時期は学校で最も遅い部活の一つとなっています。当然、三年生は大きな不安を抱えての活動となります。そんな、受験の不安を少しでも取り除けるよう、入部したての頃より、どの部よりも厳しく文武両道の大切さをこちらが説いてきました。しかしながら、最近ではこちらが言わなくとも、生徒の方が「勉強だけとか、部活だけとかでは格好が悪いので、新宿高校サッカー部はどちらも手を抜かず頑張つて格好良くやつていきましょう」とミーティングの場で口にするようになってきました。

日々の練習もなかなかこちらは顔を出すことができない中、八十名ほどの大所帯の部活を生徒自身がまとめ上げ、自主的に話

し合いながら考え、切磋琢磨しながら成長できる部になってきたなと感じています。私事になりますが、この度、東京都より Good Coach 賞を受賞させて頂くこととなりました。その受賞の基準は「生徒の能力を十分に伸ばし、健全育成に努め、人格形成にも良い影響を及ぼすような望ましい運動部活動指導を実践し……」とあります。しかしながら、これも先ほど書いたように、新宿高校サッカー部の生徒の活動の像が私に映し出されたものの象徴として頂いた賞として、受賞を心より喜んでおります。この場をお借りして、生徒だけでなく、保護者の方々やサッカー部に関わっていただいた全ての方々に深くお礼申し上げます。いただきます。ありがとうございました。

最後に、新宿高校の更なる飛躍を心よりお祈り申し上げます。



新宿高校旧教職員懇親会

―二十世紀後半在職の思い出―

昨年と今年の三月、二十世紀後半の七十
九十年代、新宿高校に勤務していた旧教
職員の懇親会を開催しました。

卒業生でいえば二十回生から五十回生く
らいが学んでいた時代にあたります。

はじめて開いた昨年は、糸魚川市や盛岡
市などからも駆けつけていただき五二名が
参加。三十年ぶりの再会という方もいて
「誰？」とそつと聞いたりもしながら、懐
かしい時を過ごすことができました。

二回目の今年は、九六歳から五六歳まで
の老若男女四三名が集いました。

七十歳以上が半数、体調維持もなかなか
大変な中、「何から何までトラブルだらけ、
はいずつても行くぞー」と出席して頂けた
一方で、体調がすぐれなかったり、「新宿
青年教室（障害者支援）の仕事」「指揮す
るオーケストラの本番直前練習」など諸事
情で参加できず残念と連絡いただいた方も
少なくありませんでした。

長い年月を経て一堂に会すると、生徒に
とって、教育にとって何がいいのか必要な
のか、それぞれの教育論や考え方を、かな
り激しく論議していたことが思い出されま



す。
そして今でも、「病氣や孫の話」「卒業生
の話題」などとともに、現在の教育や政治・
経済への問題意識が旺盛なことに感じいら
しました。



来年もまた、元気なお姿にお会いできる
ことを楽しみにしています。
連絡が行き届かなかったみなさん、ご連
絡ください。

（七三年～八九年社会科 菅 豊）

追悼文

タロー先生を偲んで

7回 高橋 久藏

石川太郎先生略歴

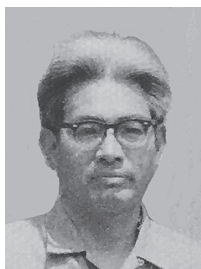
教科…理科(生物)

在籍…昭和二十二年八月

昭和五三年三月(三一年九ヵ月間)

平成二七年二月十七日ご逝去

享年九七歳



七回生は石川先生のことを敬愛の念をこめて、タロさん、タローちゃんと呼んでいた。私の三年の時の担任がタロちゃん、私が入っていた水泳部の顧問もされていた。

同期生の評判では、一寸エッチな話と軍隊の話が好きだと聞いていたが、接してみると、エッチな感じはなく、何となくシャイで物静かな語り口で淡々と話をされる人だった。確かに軍隊の話になると夢中になり、生物の授業は二の次になってしまいう事が時々あった。

七回生は二年毎に同期会を開いており、

クラス輪番制で当日のプログラム・司会進行を担当している。平成二十一年四月に「七回目の干支を祝う会」を京王プラザホテルで開催し、その時の司会・進行を私が担当した。

当日は三年の担任だった中野先生(国語)木村先生(数学)石川先生(生物)を招待した。先ず木村先生の挨拶、三分以内でお願いしたのだが、十分以上話をされた。次に石川先生、喋り出したら止まらず二十分以上話をされた後に、「お前は水泳部だから健児の歌と一緒に歌え」と、無理無理歌わされた。そんな訳で皆がシビレを切らしているので早く乾杯をと思い、中野先生に「お話は短く乾杯の音頭をお願いします」と云ったら、「木村先生、石川先生にあんなに喋らせて、私には短くなんて云うのはけしからん」と叱られた。

永年先生商売をして喋るのはお手のものだが、停年後喋る機会がなく、この時とばかりに喋る様は、まさに「雀百まで踊り忘れず」の感があった。

当時石川先生は九十一才だった。そんなあの日が懐かしい。

横山玲歩先生を偲んで

18回 増田 繁

横山玲歩先生略歴

教科…英語科

在籍…昭和三五年九月

昭和四七年三月(十一年七ヵ月間)

平成二七年四月二二日ご逝去

享年八三歳



昨年四月横山先生がお亡くなりなされた。享年八三才。一九六六年に卒業した我々は二年、三年にクラス担任と英語を教えて頂きました。先生は真直ぐで生真面目、一見厳しく見えるのですが、一方で照れ屋でご愛嬌もあり、決して近寄り難いということはなく、やさしさを持って我々に接して頂きました。又、先生と我々との年の差は十六歳なので当時はまだ三十歳台前半ということで我々と年も近く若くてお元気な印象がありました。

英語の授業の思い出も幾つかあるのですが、受験英語一筋という教え方ではなく、英語の発音、文法の理解には英語のポップスを積極的に聴くのが一番だということを

よく仰っていました。一九六〇年代の日本はニールセダカ、ポールアンカなどのアメリカンポップスと、ビートルズに代表されるリパブルサウンドなど、欧米POPS全盛時代だったのですが、曲自体も二、三分と短く口遊み易い曲でした。というわけで勉強という義務感からではなく先生の教えもごく自然に受け入れることができ、積極的にレコードを買ったりラジオを聴いたことを思い出します。

先生は、新宿高校の後、上野高校の通信制に移られますが、その間、海外旅行にも行かれ、受験英語の本三冊を執筆・出版され人気の本となりました。その後は、大学の講師等をされますが、一九九八年に脳内出血で倒れられて左半身に後遺症が残り、その後はリハビリで十七年に及ぶ長い闘病生活に入られました。取り分け、亡くなる二年前からは寝たきりの生活になられたとのこと。我々卒業生もその間、お見舞いにも伺いましたが、ご本人自身のご苦労と悔しさ、又、介護される奥様のご苦労も如何ばかりかと思うと頭の下がる思いです。先日、クラス会有志で先生のお墓のある藤沢の山の上にある霊園にお参りに行きましたが、そこからは湘南の海と遠くに富士山も見えるとても良い立地で、先生もや々と安らかに眠りになれると思います。そ

れでは最後にあらためて尊敬する先生のご冥福をお祈りして筆をおかせて頂きます。

待井新一先生を偲んで

18回 竹村(安野) モモ子

待井新一先生略歴

教科…国語科

在籍…昭和三四年九月～

昭和五二年三月(十七年七か月間)

平成二七年七月十九日ご逝去

享年九一歳



取り、愕然とした。

私たちは、待井先生が七月十九日に九十一歳でお亡くなりになったと知らせるメールをその六日後に受け

取り、愕然とした。前年平成二六年十月二五日に私たち新十八回卒三年D組は、高二、高三のときの担任、待井先生の卒寿のお祝いクラス会を行った。昔のようにクラス全員の出欠をとっていたいただいた後、昔のように源氏物語の講義を受け……昔のように居眠りするものもいた。先生はお姿もお声も昔と変わら

ず、立食のクラス会で椅子を勧められても座らず、六十歳後半の私たちは、本当に励まされた。卒寿お祝い会の後私たちは、次回は奥様とお二人で来ていただこうなどと考えていた。

クラス会幹事の林さんの発案で「待井先生卒寿祝記念文集」を作成した。冒頭に先生の寄稿をいただき、クラスメート三十三名が寄稿し、写真や朝陽時報記事コピーなども挿入した。先生はとても喜んでくださった。

先生のご寄稿は、源氏物語を二十世紀前半に初めて英訳し源氏を世界的古典としたアーサー・ウェイリゆかりの地を訪ねるイギリス旅行のお話が中心であるが、そのような源氏物語周辺のお話しもつと伺いかったですと残念である。

クラスメートの寄稿を読むと、やや騒々しいが活発なクラス、ときには悪質な悪戯もあったがまとまりがあったクラスの様子が思い出される。先生は個性豊かな生徒それぞれに大人同士のようになきんと相対して下さったことをあらためて思い出すが、それは不安定で多感な高校生にとって大変重要でありがたいことであつたことにあとで気付かされた。

待井先生にあらためて感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

総 会 報 告

平成27年度朝陽同窓会総会議事は以下の通りでした。

1. 平成26年度活動報告と決算

- 100周年記念事業にむけ、6月に実行委員会事務局長に大池克幸(24)を選任、7月に第2回ワークショップを実施し、活動強化。
- 全国7支部で総会開催(東海支部は非開催年)、戸山交流戦、東京校歌祭、朝陽クラブなど同窓会活動を展開。
- 新卒業生の入会に関し生徒、保護者に呼びかけを重ねる一方、仕組み改善についても学校の協力を得て着実に前進を図る。

2. 平成27年度活動計画と予算

- 親睦の輪の更なる拡大、府立六中以来の伝統の継承、組織・財政基盤の確立を引き続き重点目標に活動を展開。
- 100周年記念事業にむけ、4月募金活動開始、11月決起集会開催など活動強化。朝陽合唱団の結成、奨学金制度設計にも着手。
- 新卒業生の入会率の更なる向上のため、新卒業生および保護者への呼びかけを強化。仕組み改善の定着化を図る。
- 母校キャリア教育への支援強化：『進路部通信—新宿進化』への寄稿、キャリアガイダンス講師派遣、特別授業へのゲストティーチャー派遣。
- 朝陽同窓会名簿11月発行。

上記活動には概算19,678千円の出費を想定。

各議案とも吉村幹事長より報告・提案があり、異議なく承認。

総会記念講演については次ページに掲載。

新宿高校17回生斎藤雅久著

続・かつて『チョイス』という名の 英語教材があった

現 武蔵野美術大学講師
元 河合塾・駿台予備校講師
游学社 (TEL 03-5337-0630)
定価：本体 2000円＋税

続・かつて『チョイス』という名の
英語教材があった



斎藤雅久 著
元 河合塾・駿台予備校講師
現 河合塾講師

『チョイス』待望の続編
幻の教材『チョイス』に学ぶ

かつて、このような、内容が充実しており価格が安く良質な
英語のテキストが提供されていたことがありました。
英文を深く読んで、単語の語源を知り、そしてその文化・背景を学んでください。

教員の英文読解三書

『教養の場としての英文解釈』の続編。

浪人をした人の大半は駿台予備校に通った、と思います。55歳以上の人であれば鈴木長十先生に、35歳以上の人であれば奥井潔先生に『チョイス』という教材を習った事を覚えておられる事でしょう。ところが駿台予備校は愚かにも、この極めて良質な『チョイス』という教材を10年以上前に廃止してしまいました。

「コミュニケーション英語」なるものを文部科学省が強引に奨励し、その結果として中学・高校ひいては大学生の学力の低下は目を覆う惨状です。大学生にレポートを提出させると、箇条書きか、携帯のメールの様なもので、日本語の文書になっておりません。母国語である日本語が全く身に付いていないのが実情です。

英語を小学校から教えるなど、最悪の愚策で、日本人を骨抜きにしまいます。

強靱な思考力と鋭敏な感性を身に付け、本当の意味で日本語を獲得するには、内容が充実し格調が高く志のある英文を精読し格闘するしか他に手段はありません。この本には、明治時代以来の旧制中学(高校)の、本物の英語があります。

平成二七年度 朝陽同窓会記念講演

「技術と事業―国際化からグローバル化」 十七回 森 欣司



新宿高校を卒業し、五十年が経つ。この間、日本は、国際化からグローバル化へと突き進んできた。

一九七〇年代後半に技術や科学の世界で大きな変革が起こった。一つは、技術の分野で、マイクロセッサ（LSI技術）と光ファイバー（通信技術）が世に出てきた。もう一つは、科学の分野で、分子生物学が出現した。将来使い物になるかどうか分からない「新しい芽（シーズ）」である。

その頃、事業の「国際化」が進み、競争激化、高付加価値を目指し、システムは規模が拡大した。そこで、一部の障害や変更が生じて、社会経済に迷惑かけず稼働し続けると言う「新しい要求（ニーズ）」である。

分子生物学は、各部分（細胞）は構造的に「均質」で、それぞれ「局所」的な情報を利用し、「平等」に機能している事を明らかにした。

このような生物をアナロジーとして、技

術の分野で新しい考え方「自律分散システムコンセプト」を一九七七年に提案した。全体から部分を論じるのではなく、部分の目的、構造、情報、機能を明確にし、その統合としてシステムを捉える逆転の発想…コンセプトである。全体を取り仕切る親（マスター）はなく、各部分が自らを制御し、他と連携できる自律性を持つものだ。

コンセプト指向の技術研究開発と事業への展開を牽引したのが「国際化」である。

「新しいニーズ」を、世界に先駆け実現したのが、世界最大のJ.R東京圏鉄道運行管理システムである。これは、三百駅、十三線区を結んだコンピュータシステムである。

これだけ大きいと、完成に十年以上もかかった。開発中に鉄道を止めれば、社会経済的に大きな損失になるため、鉄道を動かしたままシステムを順次拡張しなければならぬ。このニーズは、不完全な部分が内在されていたとしても自律的に部分部分が動ける自律分散技術により実現され、自律分散運行管理システム（ATOS: Autonomous Decentralized Transport Operation Control System）と呼ばれている。

皆さんが日常使っているICカード乗車券システムSUICAにもこの技術は使われている。乗客の改札通過時間0.2秒に合わせて計算機システムは設計されている。しかし、0.2秒以下で改札口を通過してしまう乗客もあり、料金計算が不完全になる。そこで、人の動きに応じて降車または乗車する駅の改札口の計算機間で自律的に協調する技術を開発した。これで、正確な料金徴収を可能としてある。

二千年代に入ると、国と国との関係で活動する国際化でなく、企業や個人を世界の一員と見なす「グローバル化」の時代に入った。例えば自律分散技術を独占的に利用するのではなく、広く世界の企業で利用できるようにする技術の国際標準化だ。また、多種多様な文化を持つ人々への教育である。企業から大学に移り、この二十年間は、グローバル連携活動を進めている。

世界は国際化からグローバル化へ大きく展開し、成長してきた。この中で、自律分散システムコンセプトを提案し、社会、経済、生活の変化の下、技術を作り、実用化し、国際展開させ、教育に取り組んだ。これからの更なる五十年へ向け

「やあ進めよう成長から進化へ」

（早稲田大学理工学術院 教授）

平成三十四年

創立百周年記念事業を

「チーム新宿」一丸となり成功させよう！

創立百周年記念事業は

同窓会員の『青春ふるさと

ネットワーク』創りです

創立百周年記念事業実行委員会

委員長 宮崎直道（二四回）

平成二十八年を迎え、改めて朝陽同窓会員の皆様方にこれまでのご支援に対する御礼といよいよ六年後になった百周年記念事業に対するご支援をお願いいたします。実行委員長としての二年間の活動を総括しますと、次のような事柄に集約できます。

【思い出と『キーワード』】

一、同窓会活動の楽しさの伝道活動

「世界一の都会にある高校のふるさと創り（集いの場）の手伝い」

二、暖かい先輩方との交流

「日本一の進学校の品格と優しさとの出会い」

三、学校教育者の方々との交渉

「東京一の面倒見の良さを誇る先生方からの協力」

四、頼もしい後輩たちとの共同作業

「いざとなると甲子園まで行けるパワーと母校愛」

五、気持ちの良い同期生からの支援

「飲み会、ゴルフ、音楽鑑賞、旅行等が楽しみな同志」

六、文武両道を支える父兄会と交流「家族に乾杯!! 教育熱心さと部活支援は

都立ナンバーワン」

結果として、一六〇〇万円余り（平成二八年二月時点）の寄付金をいただき、いくつかの記念事業も立ち上がりました。ただし、まだまだ活動の端緒に就いたばかりです。今後の課題と目標は次の通りとなっております。よりパワーのある諸氏にバトンタッチしていきたいと思います。

一、募金目標一億円の達成！

一、朝陽同窓会館の再建と館山寮の

改修実現（募金目的の具体化）

一、同窓会活動の基盤整備（代表幹事会の活性化と会費納入者の増加）

一、実行委員会組織の整備拡充と記念事業項目の拡大実施



◆ 創立百周年記念事業実行委員会

（新）委員長 田中俊郎（一七回）

日頃より同窓会活動にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、実行委員長を拝命しました。百周年記念事業の実現に向けて全力で取り組む所存です。皆様方の格別のご支援をお願い申し上げます。

都心部立地の都立高校の卒業生の特徴は、東京育ちのメンバーが大半であることから、地方出身者のような盆休みや正月の帰省で、きるような『地元ふるさと感覚』が希薄です。そんな中で、唯一『青春時代を悩みあがいた時期』を共有した高校時代は、「青春故郷（ふるさと）」と呼べる貴重なネットワークです。同窓会はその組織だと改め、認識しました。

末筆ながら、会員各位のご健勝と、ご指導いただきました垂水会長様や関係各位に御礼申し上げます。

『朝陽合唱団』

ただ今団員募集中！

朝陽合唱団チーフマネージャー

稲見 一政（二四回）

創立百周年記念事業の第一弾として平成二十七年一月より『朝陽合唱団』が活動を開始しました。母校の小峰和則先生のご指導のもと、鈴木陽子団長（五回）他、約五十名のメンバーは、月二回母校の音楽室で練習をしています。

現在混声四部（ソプラノ、アルト、テノール、バス）において二十才代から八十才代までの幅広い年齢層の方々の参加をいただいています。

また年齢だけでなく合唱の経験も幅広く、府立六中時代からの伝統ある男声合唱団「六声会」メンバーや、社会人の合唱団で活躍しているメンバー等が所属している一方、飲み会の後のカラオケは好きだが合唱はズブの素人（小生）といった初心者もあり、さぞかしご指導いただく小峰先生もご苦労が絶えないと想像致しますが、初心者にも分かり易く、かつユーモアを交えたご指導により毎回毎回楽しく練習に励むことができます。

この一年の活動としては、まず平成二十

七年五月開催の「朝陽同窓会総会」（写真）において「校歌」「花は咲く」「荒城の月」を初披露しました。また、十一月開催の「創立百周年事業決起大会」においても、二〇二二年に向けての意気込みと共に合唱を披露しました。年末の「練習と忘年会」では、季節がらクリスマスソング（「きよしこの夜」、「ホワイトクリスマス」）の合唱やカラオケ、楽器演奏披露など、練習だけでなくメンバー相互の親睦も深めてきました。

創立百周年の二〇二二年まではまだ六年もありますので、今後更に合唱力を向上させ、いろいろなジャンルの歌に挑戦しレパートリーを広げ、将来は合唱祭などへの参加や、コンクールへの参加などの夢を描けるのだと思います。

皆さんも『朝陽合唱団』に参加して一緒に歌いませんか。ただいま団員を募集しています。初心者からベテランまでより多くの方々に幅広くご参加いただき、歌と親睦を通してひとつにまとまった合唱団として末



永く活動できることを目標としています。参加する前にまず見学してみたいということも可能です。合唱練習は原則第二、第四土曜日の夕方五時半より約二時間、母校の音楽室で実施しています。

参加・見学をご希望の方は朝陽同窓会事務局までご連絡下さい。

「チーム新宿」

一丸で募金にご協力下さい

代表幹事 菊地 大東（十四回）

一、百周年記念事業の概要

事業の概要は、記念史の編纂、記念式典の開催など挙げられていますが、中心となる事業として、●奨学金の充実 ●同窓会関係者の集いの場の確保 ●臨海教室継続の為、館山寮の整備の三つを実現すべく、同窓会の皆様に寄付をお願いすることとなりました。

募金の目標額は一億円。期間は平成二七年四月から平成二九年三月までの二年間です。

二、募金の必要性にご理解を

ここで奨学金について触れたいと思います。新宿高校は我々の精神的なバックボー

ンであり、また新宿高校の卒業生として社会から多大な恩恵を受けています。これに感謝し社会に対し恩返しを図る必要があります。教育制度充実の必要性は言うまでもありませんが、十八歳選挙権の実現等若者の教育充実は益々重要になっております。しかし、学生の諸君が皆恵まれている訳ではありません。学費が理由で進学を断念する学生が少なくありません。そこで奨学金を充実させ明日を託す若者に進学のチャンスを与えたいと考えます。チャンスを与えられた学生は日本と世界の発展に寄与するでしょう。

三、募金事業成功に向けて

代表幹事の皆様へのお願いです。様々な機会を通して募金の協力を呼び掛けてください。中心は同期の方々へ。同期会、クラス会、仲間の会合などを通し、募金の意義を丁寧に説明しご理解いただくように努めてください。目標額を決めて取り組むのも一つの方法です。そして、先輩後輩の全ての卒業生にも強くお願いしましょう。

既に過去の募金での協力者数を超え多くの皆様からご寄付をいただいています。とは言え、募金の目標額一億円はかなり高い目標です。百周年が六年後と考え、この間に中心となる同期会が一期一年二〇〇万円を払える実績を挙げれば可能性が近づきます。

そして、多くの同窓生の皆様へ。皆様の母校への「思い」が百周年を通じて花開くように、「チーム新宿」一丸となって募金の目標を達成し百周年を成功させようではありませんか。

代表幹事のリードで

百周年を成功へ

代表幹事 戸城 幸夫（二九回）

前任者から代表幹事を引き継いで十数年。その間、名簿の作成、二代目校舎お別れ会の実行委員、卒業三十周年記念同期会の開催、代表幹事会への出席などを経て今日に至っております。初めて出席した代表幹事会が豊島会長の時分で、想い出深い朝陽会館での開催でした。出席者の大半が私よりかなり年長の大先輩の方々に、まるで敬老会のようにでした。今だから言えますが、途中で何度も辞任すべきか否か逡巡しました。そんな情けない私でしたが現在では代表幹事の中堅、後輩幹事たちの良き兄貴役としての居場所を見つけられるようになりました。

小中と牛込神楽坂地区で育ち、週末には家族で都電に乗って伊勢丹に買い物に行く

のが常だった私は、物心ついた時には新宿の街の大ファンになっていました。中学の成績は二十一群圏内でしたが、新宿・駒場どちらに振り分けられるかは運を天に任せるしかなく……。ですから今こうして朝陽同窓会のお手伝いができているのは幸運と言うしかありません。

そうしたなかで、百周年というとてもなく大きな節目を迎えようとしています。ここで私からお願いがあります。代表幹事として名簿や同窓会のホームページに掲載されているのにもまだ一度も代表幹事会に出席されていない方。特に私より若い世代の皆様には是非一度幹事会に遊びに来てもらいたい。代表幹事会の活動を知っていただき、寄付金集めや記念事業の推進に是非とも力を貸してください。

私事ですが、数年前キャンプ場で十万円を紛失しました。失くしたお金は戻りませんでした。私が経営する小社の決算はその期過去最高益でした。僥倖に巡り合ったのです。寄付をしても思いがけない幸運に恵まれるかも。

私は新宿高校の同窓生と言える僥倖に感謝し、百周年の成功に向けてあらゆる面で行える限りの協力をするつもりです。チーム新宿にも僥倖あれ。

百周年事業特別寄稿

母校の伝統に思いを寄せて

『大家族主義』の

暖かい校風よ、いつまでも

創立百周年記念募金発起人

河合 明博（五回）

多摩朝陽会の大先輩から「元気にしているが、百歳になるので夜の会合への出席は控えて居る」というご返事を頂いた時には、不明ながら母校の創立百周年に思い到りませんでした。

百周年記念事業が始まると聞き、これは、いささかなりともインパクトのある提案をと思い、閃いたのが、一億円募金でした。同窓生は優に一人万人を超えているわけで、一人一万円出せば可能なこと、これなら私にも無理なく出来ることではないか、という発想でした。

「君は新宿高校の出だつて？」と、半ばうらやましげに訊ねられたのは、社会人になつて一再ならず経験したことです。私が四百人中何番で卒業したかは関係なく、母校が社会的に高い評価を得ている証左で、悪い気持がする筈はありません。都立のナンバーースクールの中で、私が意識したこと

があるのは二校ぐらいのものです。

『大家族主義』に表される暖かい校風。

学校は単に学識を伝授する所ではないと考えているので特に強調したいことです。

母校に永年勤続された先生が圧倒的に多かったことと無関係ではないでしょう。昨今、教育委員会が主導し、長年居据わることを嫌つて頻繁に異動させているため、こうした伝統が薄れて来ているのではないかと残念に思っています。いつまでもこうした伝統が続いて欲しいと切に願います。

未来へ繋がる「変わらぬ空気」

創立百周年記念募金発起人

鎌田 邦広（三五回）

二〇〇〇年の春、管弦楽団の威風堂々の演奏に涙して始まった新宿での教員生活。愛する母校に、何を恩返しすべきか追求めた年月。その答の一つが、伝統から生まれる凜とした雰囲気、様々な才能に溢れた仲間から受ける刺激、先輩方からの影響など、『新宿高校』に在るだけで感じる成長

を促す空気を何より大切にし、より素晴らしいものにするのでした。六学級から八学級へ、単位制への移行、新校舎完成…、激動の時代、多くの変革。だからこそ、『新宿高校』の空気を大切にすること、変化した中にも、『新宿高校』の魂を注入すること、何が変わろうが、伝統と誇りは普遍…。そんな想いを全員で共有できたことが現在の新宿の成長に繋がっていると感じています。

部活を引退後、勉強を本格化させるのではなく、部活動をしながらも隙間の時間をかき集めてもがくこと、帰宅後、気持ちの緩むなら、学校で仲間と共に自習、必死で下校時間を守る姿から得た信頼により獲得した部活動時間の延長…。『真の文武両道』を目指すことで部活動も、進学状況も、そして何より空気も伸びてきたと思います。

卒業生の皆様、是非、母校をご訪問下さい。新宿生は全ての都立の中で一番、挨拶を大切にしてくれています。生徒も先生も日々変わりますが『新宿高校』を大切に思う気持ちは、今も脈々と継承され、生徒の表情に表れています。『新宿の空気』は、百周年に向けて益々発展していくと確信しております。

（現 青山高校教諭）

北海道から母校の伝統と 百周年について想うこと

北海道朝陽会

幹事 江本 匡 (三一画)

一九二二年に産声を上げた我々の母校は、あと六年で百歳を迎えます。個人的には、東京がある限り新宿高校は五百年たっても存在していると確信していますが、北海道では百年以上の歴史を持つ学校が少子化で閉校する、と良く耳にします。やはり、人がいることが歴史を紡いでいくには必須だと今更のように感じています。

ホームページにある「新宿高校九十年の歩み」の記事には、卒業生が二万七千七百十名と記載されていますので、今年の卒業式で同窓生が三万名前後になっているのでしょうか。この全員が意識する、しないに関わらず、何らかの新宿高校の伝統を背負っているように思います。

私は入学間もないころ、校章を付けての帰宅途中に、電車内で前に座った中年男性より「新宿高校生だね。頑張りなよ。」と突然声をかけられました。おそらく卒業生だったと思いますが、その方も新宿高校の伝統を背負っており、校章を見て声をかけてくれたのかと今では考えています。伝統とは

堅苦しいものではなく、人と人の間の垣根を取り払ってくれるものかもしれません。現在、縁があり北海道朝陽会の幹事を拝命しております。北海道にも把握している分で百名以上の同窓生がいますが、実際はもっと多く住んでいるでしょう。北海道は広く、ネットワークがなかなか作り難いのですが、新宿高校の伝統を背負っているそれぞれの老若男女が、垣根なく繋がることで、百周年記念事業を成功させる推進力の一つとなって、北の大地からも全員で祝いたいと思います。

百周年を目指し、甦れ青春！

クラブOB・OG連合会

朝陽バスケットボールクラブ

幹事 横田 堯 (十五画)

「全日本学生音楽コンクールに本校の合唱団がみごと優勝し」の記述が、母校の発行した七十年の歩みにある。クラブ活動の頂点にある輝かしいものである。また、PTAが企画した「新宿高校音楽の夕べ」は、当時隣接学区からの受験が可能となった都立高校の宣伝に、作曲家池辺晋一郎氏を軸に音楽関係のOB・OGが立ち上がった

てくださったもので、新宿高校は一躍音楽の伝統の翼を羽ばたかせているかに思われたものである。

どっこい、同誌にはもう一つクラブ活動の記述がある。昭和三年、「六中の籠球、ここから脚光を浴びる」の見出しだ！当時の選手の活躍をご覧になった阿部初代校長は、文武両道を高らかに訴えられたという。その伝統を背負った私たち朝陽バスケットボールクラブに、この執筆依頼が届いたことを大変光栄に思い、塩見で活躍される水泳部や、OBが甲子園を沸かせた硬式野球部、同窓会に協力的な軟式野球部など並み居る充実した活動を続けられる他のOB・OG会の皆様には懽々ながら筆をとらせていただく。

私たちの背負った重みとは、旧制中学時代の全国大会出場、そして高校になったの東京都ベスト四常連と云う強さ。直木賞作家寺内大吉で知られる高僧を精神的なシンボルとする和。そして東京オリンピックのコーチ、武富邦中氏を先輩に持つ理論武装である。これらを体育館に陣取った鬼監督の「直さん」こと井上寛直先輩が、気合とともに擦り込んでくる。それは必死に練習したものだ。

練習が終わると一変、大学生の兄ちゃんが団子をご馳走してくれた。週四日のこう

した生活は学校にありながら先輩との絆を太くし、大学生や社会人への身近な憧れを抱かせた。先輩の活躍を誇らしく吹聴し、進路相談に乗っていただく場合もあった。

卒業後訪れる体育館。進駐軍が試合に来たあの木造の体育館から三代変わっているが、懸命に練習に励む現役を見る目には変わらない。そこに青春を燃え滾らせた自分を写している目、*「若き命ぞまた立ち返る。」*そして我がことのように後輩を思う眼差しがあるのだ。

こうして学校生活同期の横の繋がりに対し、強い縦の絆が醸成されていく。現在の学校教育の流れでは、卒業生が直接生徒を指導する形が取れなくなっているが、私たち朝陽バスケットボールクラブでは、同窓会と云う保護者の信頼を背負わせていただき、現役を支え、卒業した後は肩を組んで母校を語り、ひとつのボールを追っている。隣が敵に思える受験戦争の中、団体競技の私たちは全体最適を教え込まれた。九〇年になろうとするそうした伝統の柱が今、望月慎一会長（一五回）を先頭に、母校百年を迎える炎に勢いをつけるべく押し当てられる。是非各OB・OG会の総力で、輝かしい百年を迎えようではありませんか！

母 校 支 援

平成27年度母校キャリア教育支援

母校は平成27年度からキャリア教育充実のため新たな取り組みを始めました。同窓会では母校の要望に応え、各界で活躍する同窓生の協力を得て、講師の派遣、体験談の寄稿など全面的に協力してきました。

（１） キャリアガイダンスへの講師派遣

キャリアガイダンスとは、１年生が文理選択を行う際の参考として、母校が開催する先輩による体験談講演会です。平成27年度キャリアガイダンスは９月９日（水）の午後、１年次教室など10教室を使って実施され、下記の10名の方々が講師を務められました。

氏 名	卒業回	職業・肩書等
森 茜	12	国連大学協定会常務理事、日本図書館協会理事長
馬場 悠男	15	国立科学博物館名誉研究員・人類学
根津 昭義	19	N響嘱託・ヴァイオリニスト（東大物理学科卒）
佐藤 重和	20	外務省、オーストラリア、タイ大使
寺尾 和子	20	メディカル パースペクティブ代表（薬剤師）
千葉 昇	25	国士舘大学准教授（文学部教育学科）
倉田 英樹	36	小動物臨床獣医師
阿部 浩一	38	福島大学教授（行政政策学類教授）
近藤 由香里	48	合同会社 西友 不動産部（企業勤務・文系）
松井 徳子	49	オーディオテクニカ(株)（企業勤務・理系）



(2) 月刊紙『進路部通信—新宿進化』への寄稿

平成27年度から母校進路指導室が全校生徒を対象に創刊した月刊紙『進路部通信—新宿進化』(A4サイズ4ページ)に毎号1ページ、学校からの依頼に基づき各界第一線で活躍する同窓生が、現役生の将来の進路選択の参考となり、励みとなる原稿を寄稿しています。平成27年度に発行された11号(8月は休み)で下記の方々が執筆者されました。

発行号	氏 名	卒回	寄稿タイトル
1 (H27.4)	青野由利	17	曲がり角、道草、5つのお勧め
2 (H27.5)	阿部浩一	38	歴史学の大学教員として、福島県の復興に携わる
3 (H27.6)	国沢真弓	33	自分という素材を活かし、「社会」に貢献したい
4 (H27.7)	馬場悠男	15	人類進化の研究者は博物館で何をしているのか
5 (H27.9)	内藤 淳	28	私の履歴書(人間万事塞翁が馬)
6 (H27.10)	大貝隆之	33	国際協力という仕事に就いて
7 (H27.11)	畑中千晶	40	自分の言葉で語る人になりなさい
8 (H27.12)	高橋玲子	33	出会いによって織りなされた道
9 (H28.1)	千葉 昇	25	啐啄の機
10 (H28.2)	石川 滋	34	僕の音楽人生
11 (H28.3)	中越一統	31	理系から公認会計士に

(3) 新教科「人間と社会」授業でのゲストティチャー

平成27年度から導入された東京都独自の新教科「人間と社会」のなかで、母校が今年度取り上げた単元「文化の多様性」で「寛容、共生、加えて自他の尊重の自己の考えを深めて、人間関係形成・社会形成能力の育成」を目指して実施する4回の授業のうち、3回で以下の方々が特別講師を務めました。



- 第1回 12月9日(水) 青柳正規(15回 文化庁長官)
- 第2回 12月16日(水) 金築誠志(15回 元・最高裁判事)
- 第3回 1月13日(水) 小林 光(20回 慶応大学特任教授、元・環境庁事務次官)

その他の母校支援

キャリア教育支援の他にも、①部活 OBOG 会による現役支援、②奨学金給付、③定期健康診断への医師応援、④財団法人朝陽会による臨海教室支援ほか、様々な場面で母校への熱い思いを持った様々な組織、同窓会員が母校支援を繰り広げています。

事務局より会費納入のお願い

☆会費の種類

- ① 年会費… 2,000円
- ② 長期会費…10,000円(6年間有効)

①、②のいずれかをお選びいただけます。毎年の納入が煩わしい方には長期会費をお勧めいたします。いずれも本誌に同封の振込用紙をご利用下さい。

☆会費納入免除

- ・卒業時に入会された会員は入会金を納めていますので、卒業後5年間は納入免除です。今年は64～68回生の方々が該当いたします。
- ・現・旧職員[名誉会員]と80歳以上[寿

会員]は納入免除です。今年の寿会員は中1～新7回生の方々です。

☆期間

- ・会計年度は4月～翌年3月で、会費は納入した年度から起算いたします。
- ・重複した期間があった場合には、有効期間が重ならないよう連続期間として扱います。
- ・寿会員から会費納入された場合は、寄付扱いとさせていただきます。

☆寄付金

- ・昨年も寿会員はじめ多くの方々からご寄付を頂きました。今後ともよろしくお願いいたします。

(事務局長 15 西出 紀久)

平成28年度の事業計画について

朝陽同窓会 幹事長 吉村 悟(7回)

昨年度は主に下記の5点に集中して活動しました。特に100周年記念事業として朝陽合唱団を創設したことと、1億円を目標とした募金活動を開始したことは特筆すべき事項です。

- 創立100周年記念事業
 - + 朝陽合唱団創設
 - + 募金開始
 - + 決起集会開催
- 一般事業
 - + 27年度版同窓会名簿の発行
 - + 母校キャリア教育への支援拡大

今年度は集まった募金をもとに、実際に以下の100周年記念主要3事業に展開する年です。

- 奨学基金制度の開始
- 館山寮の保守改善
- 集いの場の確保

まず奨学基金制度については集めた募金の一部とあい基金の残金を原資に、6月から母校の在校生に対して支給を開始します。奨学基金は経済的に援助を必要とする生徒に対する制度で、1名当たり10万円の奨学金を各学年3名ずつ計9名に支給する予定です。将来募金が増えてくれば支給金額も増やしたいと考えています。また卒業時に

渡す祝い金も今までと同様に2名に対して各10万円を支給します。

更に館山寮の維持保全にも支援の手を差し伸べます。最近の温暖化に伴い、館山寮の厨房、並びに食堂の熱気は耐え難いものになってきています。熱中症の発生を防ぎ、より楽しい臨海教室を現役1年生に味わってもらうために、この改善工事は必要なものと考えます。

工事費の見積もりは間もなく算定されますが、館山寮を管理する財団法人朝陽会には既に経済的な余裕がないので、朝陽同窓会から100周年記念募金の一部を使って支援する予定です。

集いの場については伊勢丹前にあるレストランとの利用契約を開始するなど、会員の方々の便を図ることができました。しかし代表幹事会を始め夜間や土日の母校の利用には依然として大きな制限があります。地価が日本一と言ってもよい新宿で自由に使用できる施設を安価に賃貸することは至難の業ではありますが、今年一年創意工夫を重ね、なんとか同窓会員が自由に利用できる場を確保したと考えております。

また28年度から会長が15回の垂水さんから17回の田中さんへと交代になります。垂水さんが努力して作られた成果を礎に、さらに朝陽同窓会を発展させるよう、事務局も全力で田中新会長を支えて行くつもりです。

平成28年「第22回0の会作品展」のご案内

0の会展も22年目になりました。昨年は画集も出版し、会員も張り切っています。

皆様のご来場をお待ちいたしております。

開催要領は下記の通りです：

会期：平成28年11月21日(月)～11月27日(日)

時間：午前11：00～午後6：30(最終日は午後3：00まで)

場所：ギャラリーくぼた(4F) 中央区京橋2-7-11 TEL：03-3563-0005

(14回 澤登 丈夫)

平成27年度決算(案)
平成27年4月1日より平成28年3月31日まで

△印は予算に対して実績が少なかったことを示す

勘定科目	予算	実績	差異	差異理由(予算→実績)
<収益の部>				
入会金	3,300,000	3,330,000	30,000	
年会費	1,700,000	1,174,000	△ 526,000	長期会費へ移行
長期会費	5,266,226	4,793,224	△ 473,002	募金開始に伴う減少
寄付金	0	5,000	5,000	
名簿売上	2,100,000	1,784,000	△ 316,000	525部→446部
朝陽広告料収入	848,000	935,000	87,000	
100周年記念募金	50,000,000	17,341,200	△ 32,658,800	期待過大
預金受取利息	73,000	18,658	△ 54,342	
朝陽クラブ収入	270,000	184,000	△ 86,000	
雑収入	0	3,050	3,050	
経常収益合計	63,557,226	29,568,132	△ 33,989,094	
<費用の部>				
事務局手当	5,428,000	4,830,920	△ 597,080	募金担当者任命せず
通勤交通費	426,000	390,974	△ 35,026	
会議費	395,000	242,370	△ 152,630	保護者との懇親会費など節減
通信費	339,000	392,280	53,280	
光熱費	240,000	184,198	△ 55,802	
備品費	374,000	62,440	△ 311,560	プリンター導入見送り
消耗品費	780,000	1,119,769	339,769	手拭い作成やサーバ保護ソフト導入
記念品・慶弔費	66,000	15,000	△ 51,000	
銀行郵貯手数料	342,000	223,100	△ 118,900	年会費・長期会費減少による
減価償却費	17,857	17,857	0	
出張旅費	192,000	172,900	△ 19,100	
寄付金	100,000	100,000	0	
名簿印刷発送費	3,733,000	3,589,866	△ 143,134	名簿印刷代節減
朝陽発行費	3,035,000	2,935,982	△ 99,018	
総会費	752,000	696,942	△ 55,058	
支部助成金	230,000	260,000	30,000	
校歌祭費用	120,000	50,600	△ 69,400	
朝陽クラブ運営費用	388,800	285,120	△ 103,680	開催回数 3→2
朝陽祭参加費用	50,000	30,139	△ 19,861	
活動助成金	190,000	77,000	△ 113,000	初回同期会補助予想より少なし
100周年記念事業	1,880,000	989,629	△ 890,371	広報ツール外注せず
キャリアガイダンス費用	0	112,599	112,599	講師人数 2→12
予備費	600,000	0	△ 600,000	
経常費用合計	19,678,657	16,779,685	△ 2,898,972	
当期経常増減額	43,878,569	12,788,447	△ 31,090,122	

* 当期経常増減額

+ 募金が予想より下回ったため、当期経常増減額がその分減少した。それ以外は概略予算通りの結果となった。

平成27年度決算(案)
平成28年3月31日現在

財産目録

平成28年3月31日現在

科目	金額	摘要	科目	金額
<資産の部>				
定期預金	30,000,000	中央三井信託、三菱東京UFJ	<負債の部>	
		三井住友		
定期預金	10,000,000	ゆうちょ銀行		
(募金引当預金)				
郵便貯金	11,974,173	東京貯蓄センターなど	源泉徴収所得税預かり	26,630
普通預金	4,790,426	中央三井信託、三菱東京UFJ	予納会費-70回生	1,225,000
		三井住友、ゆうちょ銀行	長期会費未経過分引当金	14,492,534
現金	92,199		計	15,744,164
計	56,856,798		<繰越金>	
			繰越金	41,112,634
			計	56,856,798

剰余金処分案

1. 前年度繰越金	28,320,757
当期経常増減額による取り崩し	12,791,877
計	41,112,634
2. これを次の通り処分します	
次期繰越金	41,112,634

会計監査報告

平成27年度朝陽同窓会の会計監査を行いましたところ、会計帳簿、および証憑書類との照合結果について、いずれも一致していることを確認いたしました。

平成28年 4月13日

監事 山本展也・島崎主税

平成28年度予算(案)
平成28年4月1日より平成29年3月31日まで

△印は前年実績に対して予算が少なくなったことを示す

勘定科目	予算	前年実績	差異	差異理由(予算←実績)
<収益の部>				
入会金	3,600,000	3,330,000	270,000	240名←222名
年会費	1,180,000	1,174,000	6,000	
長期会費	4,831,400	4,793,224	38,176	
寄付金	0	5,000	△ 5,000	
名簿売上	200,000	1,784,000	△ 1,584,000	名簿を作成した翌年なので減少
朝陽広告料収入	750,000	935,000	△ 185,000	
100周年記念募金	30,000,000	17,341,200	12,658,800	前年実績の倍を目標に
預金受取利息	8,000	18,658	△ 10,658	
朝陽クラブ収入	240,000	184,000	56,000	
雑収入	0	3,050	△ 3,050	
経常収益合計	40,809,400	29,568,132	11,241,268	
<費用の部>				
事務局手当	5,376,000	4,830,920	545,080	新事務局員を任用
通勤交通費	477,000	390,974	86,026	
会議費	775,000	242,370	532,630	代表幹事と役員との懇親会新規開催
通信費	390,000	392,280	△ 2,280	
光熱費	216,000	184,198	31,802	
備品費	1,917,000	62,440	1,854,560	パソコン・プリンターなど更新(註1)
消耗品費	911,000	1,119,769	△ 208,769	プリンター保守費減
記念品・慶弔費	166,000	15,000	151,000	離職者へのお餞別
銀行郵貯手数料	235,000	223,100	11,900	
減価償却費	0	17,857	△ 17,857	
出張旅費	237,000	172,900	64,100	
寄付金	100,000	100,000	0	
名簿発行費	100,000	3,589,866	△ 3,489,866	今年度は名簿発行なし
朝陽発行費	3,078,500	2,935,982	142,518	印刷費は交渉中
総会費	709,000	696,942	12,058	
支部助成金	260,000	260,000	0	
校歌祭費用	90,000	50,600	39,400	
朝陽クラブ運営費	360,000	285,120	74,880	
朝陽祭参加費	50,000	30,139	19,861	
活動助成金	130,000	77,000	53,000	
100周年記念事業	10,930,000	989,629	9,940,371	奨学金支給、館山寮改修など(註2)
キャリアガイダンス	100,000	112,599	△ 12,599	
予備費	600,000	0	600,000	
経常費用合計	27,207,500	16,779,685	10,427,815	
当期経常増減額	13,601,900	12,788,447	813,453	

* 当期経常増減額

＋ 100周年記念事業募金の継続により、経常額は1,278万円の黒字となる予想

＋ ただし集まった募金は使途が決定するまで留保

* 経常費用

＋ (註1) パソコン6台-148万円、プリンター1台-18万円、サーバー-18万円など

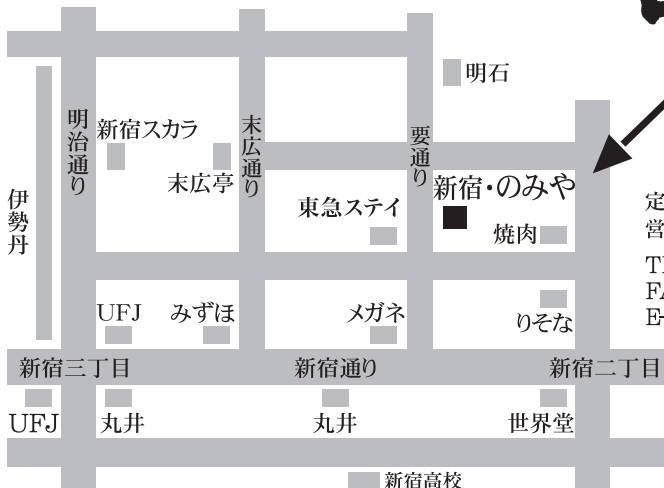
＋ (註2) 館山寮改修-750万円、ホームカミングディ-143万円、奨学金-90万円など

28回生、矢向と申します。
(3年F組、水泳部)

新宿高校から一番近いOBの店を経営しております。
カウンター10席とテーブル26席。
こじんまりとした居心地のいい小店です。
お一人様で軽く一杯、またはクラス会等に
是非ご利用ください。

<http://nomiyanooyaji.cool.ne.jp>

新宿・のみや



定休日 日曜・祝日
営業時間 17時～24時
TEL 03-3353-2101
FAX 03-3353-2102
E-MAIL shinjyukunomiy@aol.com



くつろぎ、味わい、楽しむ。

ホテルのあたたかさ
感じてください。



京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1
TEL. (03) 3344-0111
<http://www.keioplaza.co.jp>

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」 「西新宿駅」より徒歩5分
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ

朝陽同窓会会員諸氏の寄贈著書紹介

平成27年度に下表のように多くの会員の方々から著作の寄贈をいただきました。
いただいた図書は事務局にて保管後、適宜母校の図書館に寄贈しております。

著者	回	書名	出版社	価格
藤澤 光治	中8	クリスティー「アクロイド殺人事件」	文芸社	1,400円
加賀 乙彦	中21	荒地を旅する者たち	新潮社	950円
佐藤 喜一	1	鉄道エッセイ「のちのおもひに」	東光整版印刷	
加藤 廣	2	意にかなう人生	新潮社	700円
川地 博行	4	貿易国家ベネチア・オランダ・イギリスの歴史	中央公論事業出版	1,400円
久高 幸里	10	遙かなり万里の長城	コプレス	2,000円
平松 由紀夫	11	人間が神を創りたもうた	文藝春秋	1,600円
野間 和子	11	今、親ができるとても大切なこと	合同出版	1,500円
遠藤 誉	13	香港バリケード	明石書店	1,600円
		チャイナギャップ	朝日新聞出版	1,700円
		ネット大国中国	岩波書店	760円
		チャイナ・ナイン完全版	朝日新聞出版	660円
		「中国外交戦略」の狙い	わっく(株)	933円
		中国人が選んだワースト中国人番付	小学館	740円
		毛沢東 日本軍と共謀した男	新潮社	820円
ほか多数の寄贈をいただいております。				
三瀧 信道	14	小説 私編落窪物語	リフレ出版	1,800円
古宮 義武	15	仏教通史概論(上)(下)	二条印刷	各1,200円
池辺晋一郎	15	音楽の力、9条の力	新日本出版社	1,600円
		耳の渚	中央公論新社	1,800円
		空を見えますか…… ⑦仲代達矢さんの背中を追って	新日本出版社	1,600円
牛越 国昭	16	潜入盗測 第四編	(株)同時代社	5,000円
北嶋 秀明	16	世界と日本の激甚災害事典	丸善出版	16,000円
市石 博	17	人類学63の大疑問	講談社	2,200円
齋藤 雅久	17	続・かつて『チョイス』という英語教材があった	遊学社	2,000円
窪寺 恒己	22	ダイオウイカ、奇跡の遭遇	新潮社	1,400円
中村 裕昭	22	育水のすすめ	技報堂出版	1,800円
川又 直	25	田んぼの真ん中、はぐれ雲	日本評論社	1,200円
中條 克俊	27	歴史地理教育 4月号	歴史教育者協議会	648円
長佐古美奈子 (旧姓大園)	32	ボンボニエールと近代皇室文化掌上の雅	えにし書房	3,500円
鈴木 康夫	41	天女たちの贈り物	ぶねうま舎	1,800円

O B ・ O G 部 活 動 報 告

第二三回東京校歌祭

今年で第二三回目となった東京校歌祭は、昨年に引き続き杉並公会堂を会場に十一月三日（火・祝）十二時三十分から行われました。



今年では現役音楽部員が行事で参加できなかったものの、百周年記念事業の一環として今年発足した朝陽合唱団から多くのメンバーが参加され、六声会を中心としたOB・OG新旧メンバーと声を合わせて、旧制六中校歌、現新宿高校校歌、健児の歌の三曲を力いっぱい歌いました。

小峰先生の指導のもとめきめき力をつけている朝陽合唱団と、東京都を代表する男声合唱団・六声会の皆さんによるハーモニイと声量は、今年も圧倒的な迫力で他校を圧倒しました。

（事務局 西出）



硬式テニス部有志OB会開催

平成二七年九月二十日（土）芝パークホテルに於いて硬式テニス部の有志OB会が開催されました。

新18回生から27回生までの三一名が参加し、クラブ創成期にはテニスコートつくり
に明け暮れたこと、当時は都立八校戦（都立高校だけの試合）といい硬式テニスの普及がまだまだで戸山戦もなかったことなど、話は随分と盛り上がりました。

出席したメンバーの中には二年前から前頭葉機能障害という難病と闘い、歩行困難にも拘わらず参加してくれたOBもいましたが、幹事の不手際で声をかけ忘れたOBも多々いると言うご指摘も受けました。

次回は平成二八年九月に開催予定ですがOBの方は積極的にご参加ください。

なお、連絡先は芝パークホテル 佐藤（03-3433-4141）です。

宜しく願い申し上げます。

（23回 佐藤 友則）

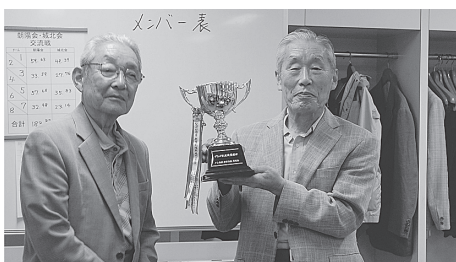


平成27年 9 月20日硬式テニス部有志 OB 会

戸山交流戦

	第7回ゴルフ交流戦	第7回囲碁交流戦	第5回ブリッジ交流戦
日時	平成27年11月20日	平成27年 6 月20日	平成27年 6 月27日
場所	武蔵O G M ゴルフクラブ	初台囲碁クラブ	四谷ブリッジセンター
参加者・新宿	22名	7 名	16名（下表の通り）
参加者・戸山	23名	10名ほど	16名
ルール	新バリア方式の両校上位10 名のネットスコア合計団体 戦	2 回対戦（各 2 名組） 持ち時間45分 オール互先コミ 6 目半	6 ボード 4 ラウンドのチー ム戦
勝敗	負け、 通算新宿の 1 勝 6 敗	総合は 9 勝 5 敗で 新宿の勝ち 通算新宿の 3 勝 2 敗 2 分け	183.88対136.12で 新宿が勝ち、 通算新宿の 3 勝 2 敗

戸山戦ブリッジ参加者			
岩橋 洋一	3	藤岡 正子	10
坂下 哲夫	6	上川名栄子	12
高野 弘子	7	斎藤 修郎	12
宮岡 淑子	7	鈴木 明夫	12
小出 富江	7	武田 宏史	12
松田 光司	9	富崎 之夫	12
中島 公明	10	中澤 允伸	12
中島 邦子	10	矢木 薫	12



ブリッジ交流戦優勝カップを受け取る岩橋会長(右)と戸山城北会代表朝岡健一氏(左)



第7回ゴルフ交流戦スタート前記念写真



第5回ブリッジ交流戦対戦風景

東京都立新宿高等学校朝陽同窓会 同窓会会報 朝陽 65号

発効日：平成28年5月1日

発行人：東京都新宿区内藤町11番4
東京都立新宿高校内
朝陽同窓会長 垂水 尚志

表紙デザイン：草川 衛 (18回)

非売品

本文(写真、文章)の無断転用転載はお断りいたします

編集後記

今号では百周年記念事業の盛り上がりを受け百周年記念事業特集記事を事務局記事に掲載しました。新しい世代・古き世代こそって百周年記念事業の成功に力を合わせて進んでゆきましょう。

今後とも朝陽誌上で同窓会員の交流・親睦を深めることができるように紙面作りに努力してまいります。紙面作りや掲載記事につきご要望などよせていただければありがたく存じます。

(朝陽編集委員長 一八回 林 慶治郎)



南京大学と東京大学の連携で 日中の未来を拓く知日派・知中派を育成

ゼンショーホールディングスでは、2013年から東京大学と南京大学による「リベラルアーツ・学生交流プログラム」を支援しています。

これは日本と中国の将来を担う人材を育成するため、東京大学が中国屈指の大学である南京大学と連携し、リベラルアーツ（※注）教育を通して、双方の学生がともに考え、ともに啓発する中で信頼関係を育み、豊かな人間性を備えた知中派・知日派となることを目指しています。

南京は、江南の才子と呼ばれる優秀な人材を輩出してきた地。日本と中国の関係を考える上で、象徴的な意味を持っています。未来を切り開く人材を育てる上で最適の場所です。

このプログラムでは、文理融合のテーマを取り上げて集中講義を開講するとともに、活発な学生交流を実施してきました。

3月 南京大学集中講義学生交流

東京大学の学年と専門の異なる学生と院生の混成グループを南京大学に派遣し、集中講義を受講するとともに、南京大生とフィールドワークによる共同研究を行います。



8月 サマースクール

東京大学の中国語履修者から選抜された学生を中国へ派遣し、中国語の集中特訓と中国を知るための講義と研修を行います。



11月 東大一週間体験プログラム

南京大学の日本語履修学生から選抜された学生を東京大学に招聘し、一週間にわたり授業を聴講し、日本企業への訪問も含め、東大生とフィールドワークによる共同研究を行います。



日中の未来を拓く知日派・知中派を育てるこの事業を、ゼンショーホールディングスはこれからも応援してまいります。

※リベラルアーツ

文系、理系の区別なく幅広い知識を得た後に、専門性を深めることで、豊富な知識に裏打ちされた創造的な発想を可能とする教育。

株式会社 ゼンショーホールディングス

代表取締役社長 小川 賢太郎（19回卒）

〒108-0075 東京都港区港南2-18-1 JR 品川イーストビル Tel : 03-6833-1600

ZÉNSHO

<http://www.nchouyou.net>